

筑後東部地区遺跡群 VI

福岡県筑後市大字鶴田所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第36集

2001

筑後市教育委員会

ちくごとうほちく
筑後東部地区遺跡群VI

みやくらきたしがえ
溝口北新替遺跡

つるたひがしうしがいけ
鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査

つるたひがしうしがいけ
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査

つるたにしうしがいけ
鶴田西牛ヶ池遺跡

つるたきやのかど つるたうしがいけ
鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査

つるたうしがいけ
鶴田牛ヶ池第3次調査

つるたうしがいけ
鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査

2001

筑後市教育委員会

序

本書に掲載した発掘調査は、平成9年度から10年度に行われた県営圃場整備事業筑後東部地区における緊急発掘調査であります。

筑後東部地区遺跡群の発掘調査報告書は今回で第6集を数えます。今までに多くの調査が行われた結果、数々の遺跡情報が得られ、郷土の歴史が若干ではありますが解明されてきました。先人達の文化や歴史、遺跡を保護・活用していくことが文化財行政の役割と考えておりますが、現在、開発における緊急の発掘調査の増大で遺跡の破壊、消滅を余儀なくされ、発掘調査による記録保存等によって保護することしかできないのが現状です。

しかし、発掘調査で記録保存された情報を整理して市民の方々に提供し、それを活用していただくことも私達の役割と考え、本書の作成を行いました。

また、今後は学術的な資料としても広く活用していただき、文化財の理解、普及、発展に繋がれば幸いです。

発掘調査、報告書作成に対して、関係者各位には多大のご協力を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

筑後市教育委員会
教育長 牟田口和良

例言

1. 本書は筑後川水系農地開発事務所が平成10年度に実施した県営圃場整備事業筑後東部地区の事前調査として筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書に掲載した調査の期間や調査に係わる経緯については第1章と各調査の報告部分に記載している。
3. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は第1章に記したとおりである。なお、出土遺物・図面・写真は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。
4. 本書に使用した図面の内、遺構全体図を鶴田西牛ヶ池遺跡は朝日航洋（株）、鶴田木屋ノ角、鶴田牛ヶ池第2次調査は、アジア航測（株）、鶴田牛ヶ池第4次調査は写測エンジニアリング（株）に委託した。
その他の遺構実測図は各調査担当者、柴田剛、奥村太郎、高田知恵が行い、遺物実測、浄書は平塚あけみ、徳永みどり、仲文恵、高田、水見秀徳が行った。
5. 本書に使用した遺構写真、遺物写真は各遺跡調査担当者と柴田が撮影した。鶴田西牛ヶ池遺跡の全体写真は朝日航洋（株）でモザイク処理により合成している。鶴田木屋ノ角・鶴田牛ヶ池第2次調査の空中写真はアジア航測（株）、その他の遺跡の空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
6. 今回の調査に用いた測量座標は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としており、方位は全て座標北（G.N）である。
7. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による。
SI-竪穴住居 SB-掘立柱建物 SK-土壘 SD-溝 SF-道路 SP-ピット SX-ピット、不明、その他の遺構
8. 出土した金属製品の応急処置は上村英士が行い、保存処理は太宰府市教育委員会の協力を得た。
9. 本書の各遺跡の執筆者は目次に記している。編集は上村が行った。

目次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	3
III. 調査成果	7
1. 溝口北新替遺跡 (小林勇作)	7
(1) はじめに	7
(2) 検出遺構	7
(3) 出土遺物	8
(4) 小結	8
2. 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 (上村英士)	11
(1) はじめに	11
(2) 検出遺構	11
(3) 出土遺物	13
(4) 小結	14
3. 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 (上村英士)	15
(1) はじめに	15
(2) 検出遺構	15
(3) 出土遺物	16
(4) 小結	22
4. 鶴田西牛ヶ池遺跡 (上村英士)	25
(1) はじめに	25
(2) 検出遺構	26
(3) 出土遺物	48
(4) 小結	84
5. 鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査 (永見秀徳)	101
(1) はじめに	101
(2) 検出遺構	102
(3) 出土遺物	108
(4) 小結	108
6. 鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査 (小林勇作)	111
(1) はじめに	111
(2) 検出遺構	111
(3) 出土遺物	111
(4) 小結	111

7. 鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査 (小林勇作).....	112
(1) はじめに	112
(2) 検出遺構	112
(3) 出土遺物	116
(4) 小結	120
IV. まとめ (上村英士).....	121

PLATE

I. 調査経過と組織

平成9・10年度に福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市へ圃場整備工事を予定地内の埋蔵文化財について確認依頼があり、これを受けた筑後市教育委員会では同年に試掘調査を実施し、圃場整備工事予定地内に埋蔵文化財が認められたことを事業関係者に回答し協議を行った。協議の結果、「筑後東部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として、掘削の及ぶ排水路工事予定地、面の削平を受ける箇所を発掘調査することとなった。埋蔵文化財発掘調査の費用については、掘削の補助を受け、受益者負担分については文化財担当部局で負担、残る費用については県水系事務所で負担することで合意した。

調査は平成9・10年度に実施し、遺物の整理及び報告については、平成11、12年度に筑後市文化財整理室で行った。

調査組織

(平成9年度)

1) 発掘調査及び整理作業

総括	教育長	森田基之
庶務	社会教育課長	津留忠義
	社会教育係長	山口逸郎
	社会教育係	田中清通
		水見秀徳 (調査担当)
		小林勇作 ()
		田中剛
		上村英士 ()
		柴田剛
		立石真二

(平成10年度)

総括	教育長	牟田口和良
庶務	社会教育課長	下川雅晴
	社会教育係長	山口逸郎
	社会教育係	田中清通
		水見秀徳
		小林勇作
		田中剛
		上村英士
		柴田剛
		立石真二

(平成11年度)

総括	教育長	牟田口和良
庶務	社会教育課長	下川雅晴
	文化係長	庄村國義
	文化係	田中敬一
		水見秀徳 (報告担当)
		小林勇作 ()
		上村英士 ()
		柴田剛
		立石真二

(平成12年度)

総括	教育長	牟田口和良
庶務	社会教育課長	下川雅晴
	文化係長	庄村國義
	文化係	成清平和
		水見秀徳 (報告担当)
		小林勇作 ()
		上村英士 ()
		柴田剛
		立石真二

2) 発掘作業参加者

地元有志

3) 整理作業参加者

(整理補助員) 平塚あけみ 仲文恵

(整理作業員) 野間口靖子 馬場敦子 湯川琴美 野口晴香
他水みどり 横井理絵 仲文恵 高田知恵

なお、調査及び報告書作成に際しては以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

福岡県教育庁南教育事務所 小田和利
太宰府市教育委員会 城戸康利、中島恒次郎、山村信榮、下川可容子
久留米市教育委員会 大石昇、富永直樹、園井正隆、白木守、小澤太郎
八女市教育委員会 大塚忠治、山田朗子
別府大学学生 大坪芳典
長崎外国語短期大学 木本雅康
元国学院大学 木下良
道路文化研究所 武部健一
国立奈良文化財研究所 山中敏史

II. 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道42号が横断する。また、市南部には一般河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地帯では果樹園や茶畑、東部や南西部では米を中心とする田園地帯が広がる。市街地は、河川に沿って市の中央部に形成されている。

以下に東部地区圃場整備事業に係わる発掘調査の遺跡一覧を挙げる。(Tab.1)

遺跡名	調査年度	時期	遺構の種類
稲田川左遺跡第1次	平成5年度	弥生~古墳	集落
新井八田遺跡	*	縄文・古墳	集落
稲田橋原遺跡第1次	*	中世	集落
稲田橋原遺跡第2次	*	奈良~中世	集落
稲田川左遺跡第2次	平成6年度	弥生~古墳	集落
稲田川左遺跡第3次	*	弥生~古墳	集落
久野野元遺跡第1次	*	中世	集落
久野野元遺跡第2次	*	*	*
久野野元遺跡第3次	*	弥生~古墳・近世	集落
久野野元遺跡第4次	*	弥生~古墳	集落
新井八田遺跡	*	弥生~中世	集落
久野野元遺跡第1次	平成7年度	弥生~中世	集落
久野野元遺跡第2次	*	弥生~古墳	集落
久野野元遺跡第3次	*	弥生	集落
久野野元遺跡第4次	*	弥生~中世	集落
稲田武志遺跡	*	中世	集落
稲田橋原遺跡第1次	*	中世	集落、土溝
久野野元遺跡第1次	*	*	*
久野野元遺跡第2次	*	*	*
久野野元遺跡第3次	*	*	*
久野野元遺跡第4次	*	*	*
久野野元遺跡第5次	*	*	*
久野野元遺跡第6次	*	*	*
久野野元遺跡第7次	*	縄文~中世	集落
久野野元遺跡第8次	*	弥生~中世	集落
久野野元遺跡第9次	*	弥生~近世	集落
久野野元遺跡第10次	*	縄文~古墳	集落
久野野元遺跡第11次	*	縄文~中世	土溝
久野野元遺跡第12次	*	不明	溝
稲田西田遺跡	平成8年度	不明	溝
稲田東人坪遺跡第1次	*	縄文~中世	溝、土溝、溝墓
稲田西田遺跡	*	古墳	集落、土溝
稲田野田遺跡	*	不明	溝
溝口北畠遺跡	平成9年度	中世	溝
久野野元遺跡	*	弥生	溝
久野野元遺跡	*	弥生~中世	溝、竪穴住居
新井八田遺跡	*	近世	溝
稲田橋原遺跡第2次	*	近世	溝
稲田橋原遺跡	*	近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第1次	平成10年度	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第2次	*	縄文、近世	土溝、竪穴住居
稲田東牛ヶ池遺跡第3次	*	縄文	集落遺構
稲田東牛ヶ池遺跡第4次	*	縄文	集落
稲田東牛ヶ池遺跡第5次	*	縄文、近世	竪穴住居
稲田東牛ヶ池遺跡第6次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第7次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第8次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第9次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第10次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第11次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第12次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第13次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第14次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第15次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第16次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第17次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第18次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第19次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第20次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第21次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第22次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第23次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第24次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第25次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第26次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第27次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第28次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第29次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第30次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第31次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第32次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第33次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第34次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第35次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第36次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第37次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第38次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第39次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第40次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第41次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第42次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第43次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第44次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第45次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第46次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第47次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第48次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第49次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第50次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第51次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第52次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第53次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第54次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第55次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第56次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第57次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第58次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第59次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第60次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第61次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第62次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第63次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第64次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第65次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第66次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第67次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第68次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第69次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第70次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第71次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第72次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第73次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第74次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第75次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第76次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第77次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第78次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第79次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第80次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第81次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第82次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第83次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第84次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第85次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第86次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第87次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第88次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第89次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第90次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第91次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第92次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第93次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第94次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第95次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第96次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第97次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第98次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第99次	*	縄文、近世	溝
稲田東牛ヶ池遺跡第100次	*	縄文、近世	溝

Tab.1 圃場整備事業に係わる筑後東部地区発掘調査(平成10年度まで)

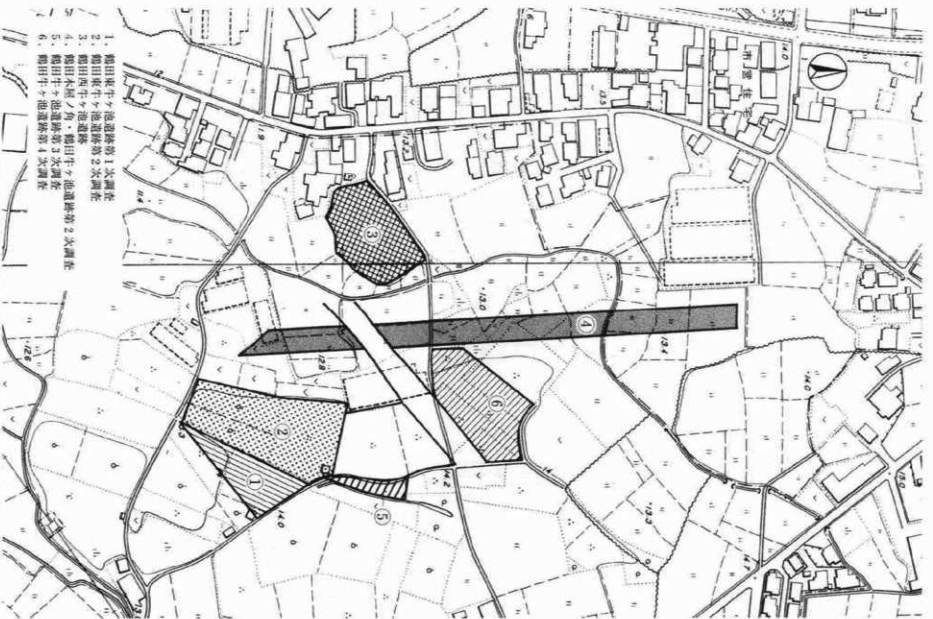


Fig.1 東部地区調査地点位置図(1/2500) 瀧口北新幹線除く



道跡名
1 瑞王寺古墳
2 田佛道跡
3 藏敷東野解敷道跡
4 石人山古墳
5 弘化谷古墳
6 藏敷坂口道跡
7 藏敷森ノ本道跡
8 久富島尾道跡
9 矢塚古墳
10 前津中ノ玉道跡
11 四ヶ所古四ヶ所道跡
12 羽大塚中道道跡
13 羽大塚村場ノ本道跡
14 若菜森坊道跡
15 長崎坊田道跡
16 惣久中牟田道跡
17 常用長田・日田行道跡
18 真山道跡
19 鶴田岸浜道跡
20 新清丸田道跡
21 鶴田橋原道跡
22 鶴田前畑道跡
23 久忠野元道跡
24 新清松原道跡
25 久忠権壽道跡
26 久忠北草場道跡
27 久忠内太郎道跡
28 鶴田武津忠道跡
29 久忠岸ノ下道跡
30 久忠ノ上道跡
31 久忠中野道跡
32 鶴田西田道跡
33 鶴田東大坪道跡第1次
34 鶴田西畑道跡
35 鶴田野田道跡
36 久忠北水塚道跡
37 久忠今町道跡
38 新清丸道跡
39 鶴田清代道跡
40 鶴田東大坪道跡第2次
41 漢口北新替道跡
42 鶴田東牛ヶ池道跡
43 鶴田牛ヶ池道跡
44 鶴田木履ノ角道跡
45 鶴田西牛ヶ池道跡

Fig.2 周辺道跡分布図 (1/30000)

Ⅲ. 調査成果

1. 溝口北新替遺跡

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字溝口北新替に所在し、一帯は水田地帯で標高17.0m位の低位段丘上にある。調査は、平成9年度に施工された県営ほ場整備事業筑後東部地区9工区の支線用排水路設置範囲において、遺構を確認した239㎡を対象とした。調査は平成9年9月に実施し、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は小林勇作が担当した。

調査の結果、調査区からは溝等を検出し、以下はその成果について報告する。



Fig.3 溝口北新替遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

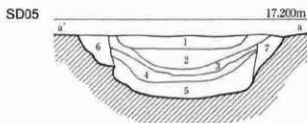
(2) 検出遺構

溝

SD05 (Fig.4)

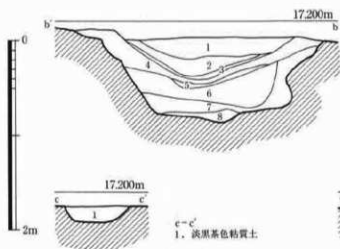
調査区南部で検出した東西方向の溝で、25.5m分を検出した。溝の断面形は逆台形状を呈し、深さは0.6~0.8mを測る。黒茶色粘質土を基調とした埋土で、土層状況からは、少なくとも3回以上の掘り直しが行われていることが確認された。遺物は須恵器(甕)、土師器(坏・碗・片)、瓦質土器(片)が出土している。

SD05



a-a'

1. 灰褐色土 (黄粒子少混)
2. 灰褐色土 (黄粒子多混)
3. 暗灰褐色土 (黄褐色ブロック多混)
4. 暗灰褐色土 (黄褐色ブロック少混)
5. 暗灰褐色砂質土 (黄褐色粒子多混・炭化物あり)
6. 明茶褐色土
7. 淡茶褐色土

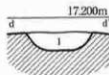


b-b'

1. 黒褐色土 (黄茶色粒子多混)
2. 黒褐色粘質土 (黄茶色粒子多混・黒色粒子少混)
3. 茶褐色粘質土 (黄褐色ブロック多混)
4. 黒褐色粘質土 (黄褐色ブロック少混)
5. 淡黒茶色粘質土 (黄茶色ブロック多混)
6. 黒褐色粘質土 (黄茶色粒子多混・黒色粒子少混)
7. 黒褐色粘質土 (黄茶色粒子多混)
8. 黒褐色粘質土 (黄茶色粒子少混)

c-c'

1. 淡黒茶色粘質土



d-d'

1. 淡黒茶色粘質土

Fig.4 溝土層断面実測図 (1/40)

SD10 (Fig.4)

東西方向にはる溝で、20.0m分を検出した。溝の断面形は逆台形状を呈し、深さは0.20m前後を測る。埋土は淡黒茶色粘質土の単一層で、出土遺物は土師器(片)を僅かに認めたと図示しうるものではなかった。

(3) 出土遺物

SD05 (Fig.5)

須恵器

甕 (1) 甕の体部細片で、外面には正格子、内面には平行の叩き文が施される。胎土は5mm大の小石と黒色粒子を含み焼成はほぼ良好である。

土師器

坏 (2) 口径12.0cm、底径8.0cm、器高3.5cmを復原し、口縁端部はやや外反する。表面は著しく磨耗しているが、内外面の口縁部及び体部はヨコナデ、体部下位は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りが看取できる。

(4) 小結

工事の都合上、トレンチ状の調査区設定となり、調査区からは溝2条の遺構が確認された。

今回、検出された溝からは出土遺物が乏しく、時期決定に至ることはできない。また、当遺跡周辺部(北へ約140m)に所在する久恵北水原遺跡からは南北溝5条が確認されているが、この調査においても当遺跡同様に各溝の時期決定までには至っていない。この地区に関しては集落跡等の生活の匂いのする遺構は確認されておらず、また、確認された溝の性格(流路・用水路・区画溝等)を考慮すると水田用地として活用され続けてきた地区であったことが想定される。

今後の調査に期待するところである。

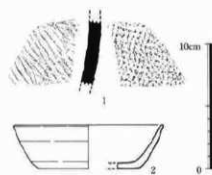


Fig.5 SD05出土土器実測図 (1/3)

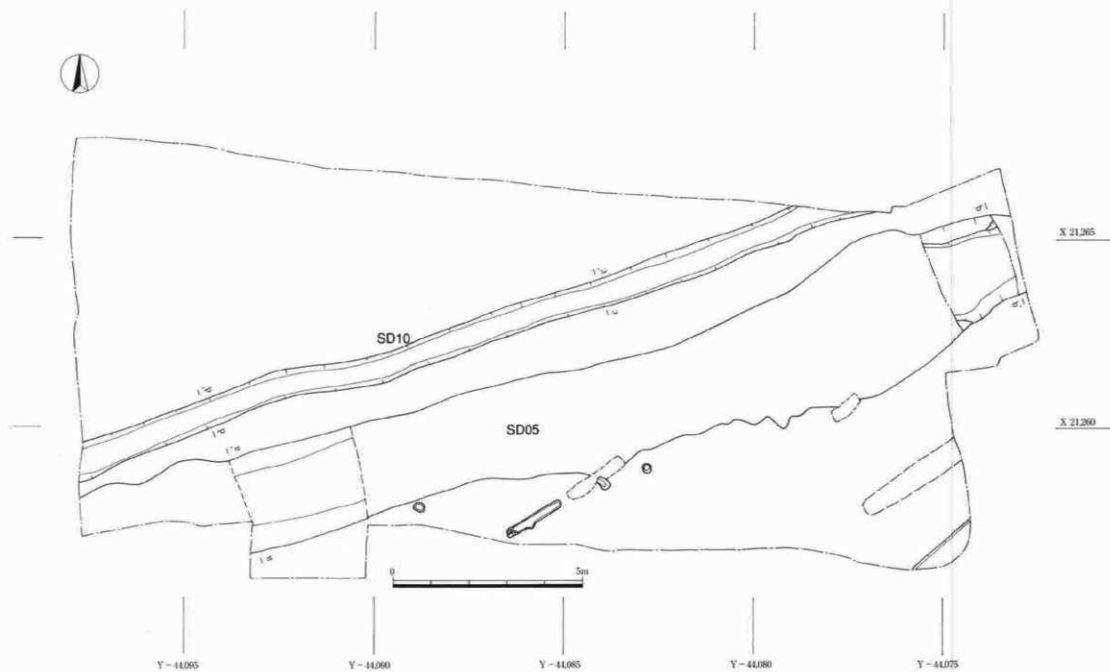


Fig.6 满口北新胜遗址遗构全体实测图 (1/100)

2. 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査

(1) はじめに

鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査地は筑後市大字鶴田字東牛ヶ池に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ面と排水路について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約1200㎡、調査期間は平成10年9月18日から10月9日迄である。発掘調査は上村英士が担当した。

調査地は標高約12m程の台地上に立地しており、現況は葡萄畑であった。遺溝上面は淡茶褐色土、明茶褐色土が約40cm程堆積し、その下は黄褐色粘質土の地山となる。遺構はこの地山に切り込む形で検出された。

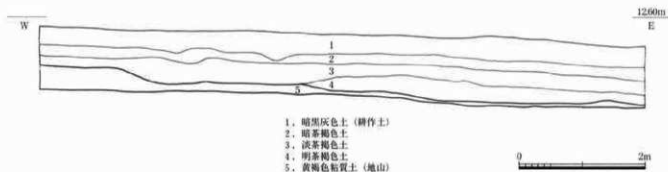


Fig.7 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 西北隅土層観察 (1/60)

(2) 検出遺構

土壇

1SK001 (Fig.8, Pl.2)

調査区中央で検出された略円形の土壇である。検出最大幅約2.25m、深さ約0.29mを測る。出土遺物は尖底の鉢と考えられる縄文土器底部片を1点出土している。壇底に5つのピットを確認した。

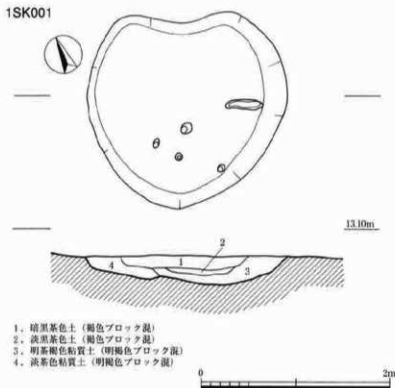
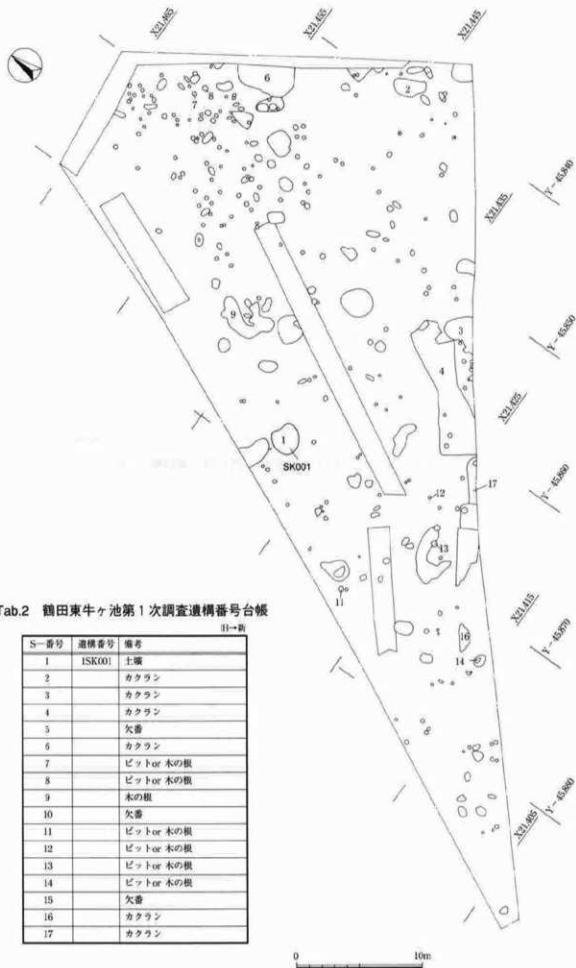


Fig.8 鶴田東牛ヶ池遺跡 1SK001遺溝実測図 (1/40)



Tab.2 鶴田東牛ヶ池第1次調査遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	備考
1	ISK001	土壕
2		カタラン
3		カタラン
4		カタラン
5		矢倉
6		カタラン
7		ピットor木の根
8		ピットor木の根
9		木の根
10		矢倉
11		ピットor木の根
12		ピットor木の根
13		ピットor木の根
14		ピットor木の根
15		矢倉
16		カタラン
17		カタラン

Fig.9 鶴田東牛ヶ池第1次調査遺構全体図 (1/300)

(3) 出土遺物

1SK001 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (1) 底部破片である。外面淡褐色、内面淡灰褐色を呈する。胎土に角閃石を含む。尖底であり、早期の中でも古い時期のものではないが、



その他の出土遺物 (Fig. 10, Pl. 34)

ここに掲載する遺物は、掘出したピットや検乱からの出土遺物であるが、ピットについては包含層の取り残しや木の根であると考えられ、あえて遺構番号を与えていない。S番号は略測図の番号である。

S-4 (Fig. 10, Pl. 34)

不明製品 (2) 土師質の人形片と考えられる。内外面ともに淡褐色を呈し、胎土はよく精選されている。焼成は良好である。

S-7 (Fig. 10, Pl. 34)

石鏝 (3) 黒曜石製の石鏝で、先端と両側を欠損している。

S-9 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (4~6) 4は口縁部のみの資料で、外面が灰茶褐色、内面が灰褐色を呈する。胎土に角閃石を含み、小砂粒を含む。焼成はやや不良である。5は胴部破片で外面に格子目の押型を施している。6は口縁部資料で口縁端部が欠損している。外面に格子目の押型を施す。外面



S-12 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (7) 胴部細片で、外面に楕円文の押型を施す。外面は茶褐色、内面は灰褐色を呈する。小砂粒を含む胎土で焼成はやや良好である。



茶褐色土 (遺構上面の包含層出土遺物) (Fig. 10, Pl. 34)

石製品

剥片 (8) 黒曜石の剥片である。現存長3.1cm、幅1.5cmを測る。



糞土 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (9~11) 9は口縁部破片である。口縁部が外反し、外面に大型の楕円文を施し、内面は縦方向に条痕を施す。胎土には角閃石と小砂粒を含む。10は胴部細片で、外面に小型の楕円文を斜め方向に施す。内外面ともに黄褐色を呈する。11は胴部片で、外面に格子目の押型を施し内面をナデで仕上げる。角閃石と小砂粒を含み、焼成は良好である。



Fig. 10 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 出土遺物 (1~11) 土器1/3・石器1/2

(4) 小結

鶴田東牛ヶ池第1次調査では遺構として捉えられるものに限りがあったが、遺物は遺構や包含層から押型文土器を中心に資料を得られた。SK001出土遺物については本文中に述べているとおり、尖底と考えられる遺物で早期の古い段階に位置づけられるのではないか。包含層中他の押型文土器の施文については比較的大型の楕円文が斜位に施されており、早期の中でも新しい段階のものではないか。また、格子目の押型が施されたものが3点出土しており、市内出土の押型文土器の中で当遺跡では出土頻度としては高い方である。

Tab.3 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査出土遺物一覧表

S-番号	種別	器種
1	縄文土器	鉢
2	石製品	不明
3	土師器	妻口鉢
4	縄文土器	鉢
	土師器	片
	陶器	片
	土製品	人形片?
6	縄文土器	鉢
	石製品	黒曜石剥片
7	石製品	黒曜石石鏃
8	土師器	片
9	縄文土器	鉢
11	土師器	片
12	縄文土器	鉢
13	土師器	片
14	土師器	片
16	土師器	片
17	磁器	染付片

Tab.4 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査遺物観察表

【単位はcm, *は複製品, +は欠損】

遺構	Fig.	番号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残存	備考
SK001	10	1	縄文土器	鉢	001				底部分	
その他										
S-4	10	2	土師器	人形片	001				小片	
S-7	10	3	石製品	石鏃	001					黒曜石
S-9	10	4	縄文土器	鉢	001				口縁部小片	
*	10	5	*	*	002				胴部片	格子目
*	10	6	*	*	003				口縁部片	格子目
S-12	10	7	縄文土器	鉢	001				胴部片	楕円文
茶褐色土	10	8	石製品	剥片	001					黒曜石
表土	10	9	縄文土器	鉢	001				口縁部片	楕円文
*	10	10	*	*	003				胴部片	楕円文
*	10	11	*	*	002				胴部片	格子目

3. 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査

(1) はじめに

鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査地は筑後市大字鶴田字東牛ヶ池に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ面について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約3000㎡、調査期間は平成10年10月9日から10月30日までである。発掘調査は上村英士が担当した。

調査地は鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査の西隣地である。基本土層は1次調査と同じであるが、葡萄棚の基礎等で遺構面の多くは破壊を受けていた。

(2) 検出遺構

竪穴住居

2SI010 (Fig.11, 12, Pl.5, 6)

調査区北端で検出した竪穴住居である。検出東西長約2.9m、南北長約4.45m、床面深さは約0.09mの長方形プランを呈する。埋土には住居の建材と考えられる炭化した木片を検出している。住居中央には石が組まれており、炉の役目を果たした可能性が考えられる。また、北東隅にはベッドが存在した痕跡が見受けられ、南壁際には屋内土壌が掘られている。出土遺物は縄文土器、土師器甕、瓶、坏、ミニチュア土器、焼土、黒曜石剥片、屋内土壌からは弥生土器壺、不明石製品が出土している。

2SI010

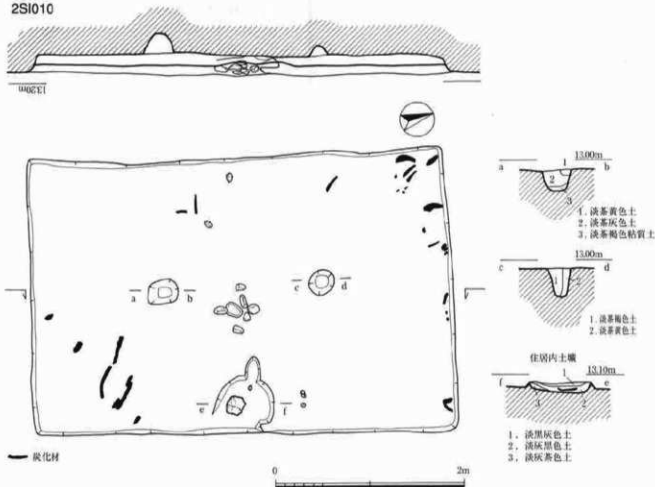


Fig.11 2SI010遺構実測図 (1/40)

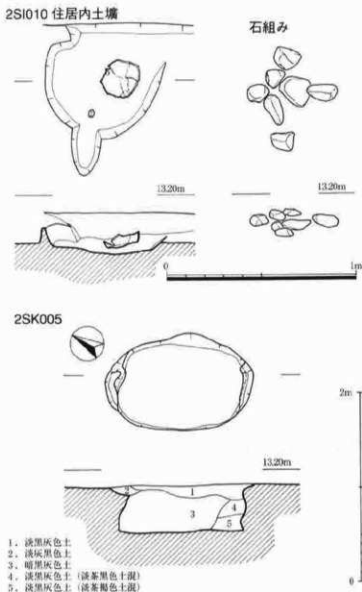


Fig.12 2SI010住居内土壌、石組み、2SK005実測図 (1/20・1/40)

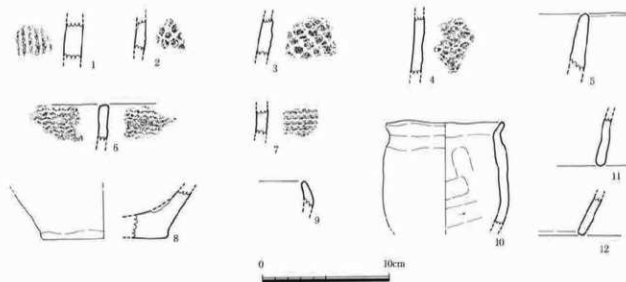


Fig.13 2SI010出土遺物① (1/3)

土壌

2SK005 (Fig.12, Pl.4)

調査区中央で検出した土壌で、落とし穴状遺構になる可能性が考えられる。プランは楕円形を呈し、検出南北長約1.6m、東西長約1.0mを測る。深さは約0.49mである。北側壁底は袋状にオーバーハンクしている。出土遺物は皆無であった。

(3) 出土遺物

2SI010 (Fig.13, Pl.34, 35)

縄文土器 (1~8) 1は無文土器で内面に縦位の条痕が入る。2~4・6・7は押型文土器で、胎土に角閃石を多く含んでいる。2~4の外面には大型の楕円文が施され、内面はナデられる。いずれも施文方向は斜位である。6は口縁部片で直線的に立ち上がる。内外面共に山形文が斜位に施される。7は外面に横方向の山形文が施され、内面はナデられる。5は口縁部片で施文はなく、内外面にナデられる。8は底部片であるが、内外面にナデにより仕上げられ、押型文の一部が外面に残る。

土師器 (9~12) 9は口縁破片でミニチュアの可能性があり、口縁外面の一部がヨコナデ、他はナデである。10は小型の甕で、口縁が歪んでいる。口縁部をヨコナデ、体部内外面はナデられる。胎土は精選されている。11、12は瓶で内外面にヨコナデで、11は角閃石を含み、共に焼成は良好である。



Fig.14 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査遺構全体図 (1/300)

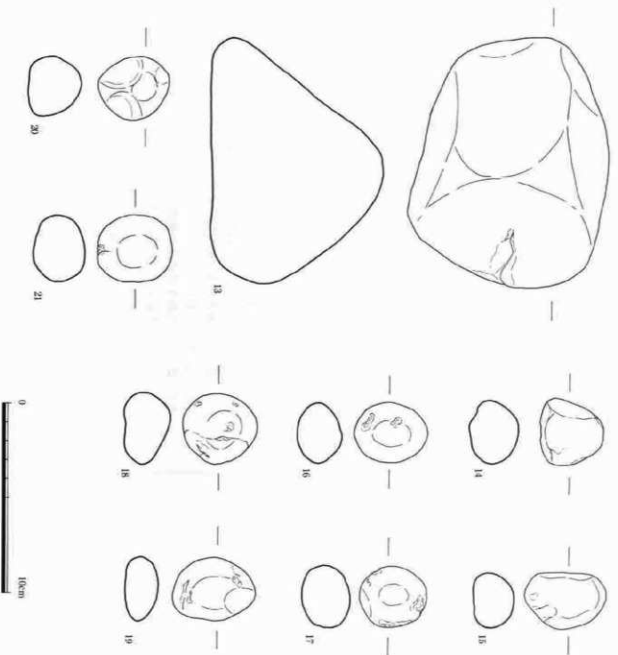


Fig.15 2S1010出土遺物② (1/2)

石製品 (13~21) 13は住居中央の石籠みの一つで花崗岩である。2次的に火を受けており、赤褐色を呈している。14~21は不明石製品でいずれも花崗岩である。加工痕はないが法庫が同様であることや、住居床面に近い部分から出土しており、生活用具の可能性がある。

2S1010住居内土壟 (Fig.16・17、Pl.6)

土師器 (22) 平底の壺で、底径9.0cmを測り、残存器高は20.2cmである。器厚は約0.6cm程度である。内外面を硝毛目で、内面に指頭痕が残る。成成はやや不良で内外面共に淡茶褐色である。

石製品 (23) 住居覆土から出土の (14~21) 石と同様で、花崗岩である。

その他の出土遺物 (Fig.18、Pl.36)

ここに掲載する遺物は、検出したピットや攪乱からの出土遺物であるが、ピットについては包含層の取り戻しや木の根であると考えられ、あえて遺物番号を与えていない。S番号は略頭図の番号である。茶褐色土は包含層、トレンチは試掘時の出土遺物である。

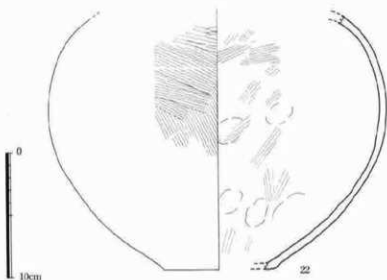


Fig.16 2S1010住居内土壌出土遺物 (1/3)

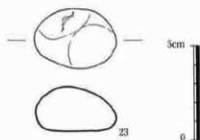


Fig.17 2S1010住居内土壌出土遺物 (1/2)

S-2 (Fig.18, Pl.36)

縄文土器 (24) 口縁部の破片で、直線的に立ち上がり、端部は比較的丸く仕上げられる。内面はナダられ、外面に楕円文の押型がほぼ横方向に施される。胎土には多量の角閃石を含む。

S-3 (Fig.18, Pl.36)

縄文土器 (25) 外面を楕円文の押型がほぼ横方向に施される。内面はナダられ、器壁は13mmと厚い。胎土には多量の角閃石を含む。

S-12 (Fig.18, Pl.36)

須恵器 (26) 壺の肩部片で外面上位にヘラ削り、下位にヨコナデの調整が残り、内面はヨコナデ。焼成は良好で内面は淡緑灰色、外面は淡青灰色である。

S-17 (Fig.18, Pl.36)

陶磁器 (27) 白磁の紅皿。口径4.2cm、器高1.5cm、底径0.8cmを測る。内面と外面の上部に淡緑白色の釉がかかる。

茶褐色土 (Fig.18, Pl.36, 37)

縄文土器 (28~40) 押型土器で、胎土に角閃石が多く入る。28~34は外面に山形文が施され、内面はナデ。施文方向は横位か若干斜位になる。35~40は楕円文が施された押型土器で、35・36は口縁部片で、端部を丸く仕上げる。楕円文は比較的小さく35は斜位に、36は横位に施す。37~40は楕円文を施した押型土器で、37は小型、38~40は大型の楕円文であり、内面はナデ。施文方向は38・40が横位、他が斜位である。

陶磁器 (41) 緑釉の陶器皿である。底径4.4cmを測る。内面に深緑の釉を施し、見込みを蛇目に釉をかき取り、目跡が残る。外面には白緑色の釉が高台外面まで施される。

石製品 (42) 黒曜石の剥片である。剥離面の風化が著しく古い時期のもの可能性がある。

トレンチ (Fig.18, Pl.37)

縄文土器 (43~48) 43は外面に山形文が施される。施文は横位で内面はナデ。44~47は楕円文の押型が施され、46は楕円が小型で横位に施文される。47は口縁部片で、かなり外反し、壺になる可能性が考えられる。楕円は大型であるが横位に施文する。内面は横方向にナデ。48は底部片で平底である。底径7.2cmを測る。外面に山形文が施され、内面はナデである。

石製品 (49) 結晶片岩製の石包丁である。組穴の芯心距離は推定で2.6cm、背まで1.7cmを測る。

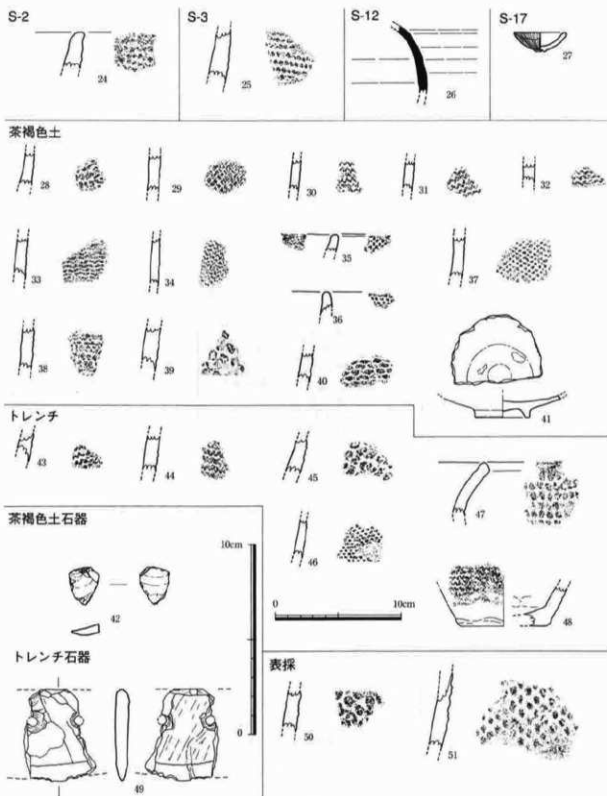


Fig.18 その他の出土遺物 (土器1/3、石器1/2)

表探 (Fig.18、Pl.37)

縄文土器 (50~51) 外面に大型の楕円文を施す押型土器で内面はナデである。施文方向は斜位である。胎土に多量の角閃石を含む。焼成はやや不良である。

(4) 小結

鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査は1次調査に隣接した調査で標高12m程の台地上に形成されている。周辺地形を見ると、2次調査西側と北側は標高9m程の谷状地形になっており、推定古代官道が南北に走る。1次調査東側と南側には鶴田地区の集落が残る。

今回の調査では竪穴住居1棟、土壌1基を主な遺構として検出しているが、1次調査の遺構と合わせても面積に対して遺構検出数は少ない。遺構の密集地は調査地点から南東に存在する東部地区遺跡群(筑後市第11集、27集)に展開するものと考えられる。以下、竪穴住居に関して若干所見を述べる。

検出した竪穴住居は長軸を南北にとり、ベッド状遺構、住居内土壌を設置しており覆土には建材と考えられる炭化物を検出している。住居規模と施設、出土遺物から考えると古墳時代に該当するであろう。しかし、特異なものとして住居中央で検出された石組みの存在である。住居北側は鶴田牛ヶ池第1次調査が行われており、数十基の縄文早期の石組みが検出している。石材や組み方については、ほぼ同様であり、検出レベルもほぼ同様である。石組み自体も2本柱の中心線から東に若干ずれており、住居と石組みの関係については興味深い資料となる。

Tab.6 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査出土遺物一覧表

S-番号	種別	器種
2	縄文土器	鉢
	土師器	壺、高坏
3	縄文土器	鉢
4	石製品	黒曜石割片
6	縄文土器	鉢
7	土師器	片
8	土師器	片
10	縄文土器	鉢
	弥生土器	釜底部
	土師器	壺、瓶、鉢、坏
	石製品	不明品
	その他	焼土
11	石製品	黒曜石割片
12	須恵器	壺片
13	土師器	片
14	土師器	片
16	土師器	片
17	石製品	黒曜石割片
	磁器	紅磁
	石製品	黒曜石割片
18	土師器	片
トレンチ	縄文土器	鉢
	土師器	壺片
	磁器	白磁、染付
	陶器	片
	石製品	石包丁、黒曜石割片
		サヌカイト片
カクラン	土師器	片
茶カブ土	磁器	染付片
	陶器	片
	石製品	黒曜石割片
	表探	縄文土器
	陶器	片
	石製品	黒曜石割片
		サヌカイト片

Tab.7 鶴田東生午池遺跡第2次調査遺物調査表

【単位】cm、1は換算値、+は欠損】

遺 跡	Field	番号	名 称	種 類	品番号	器 高	底 径	検 出 層	備 考		
S810	15	1	縄文土器	釜	001			甕形	外周無文、内周直線		
		2	*	*	001			甕形	甕形文		
		3	*	*	001			甕形	甕形文		
		4	*	*	005			甕形	甕形文		
		5	*	*	001			口縁部片			
		6	*	*	006			口縁部片	山形文		
		7	*	*	001			甕形片	山形文		
		8	*	*	001			甕形片			
		9	土師器	不明	002			口縁部片			
		10	*	壺	001			小片			
		11	*	壺	001			小片			
		12	*	*	002			文節			
		13	13	13	白陶器	在周片	013			甕形用石	
S5	15	14	*	*	005			不明石製品			
		15	*	*	006			不明石製品			
		16	*	*	006			不明石製品			
		17	*	*	007			不明石製品			
		18	*	*	010			不明石製品			
		19	*	*	011			不明石製品			
S17	15	20	*	*	012			不明石製品			
		21	*	*	009			不明石製品			
		22	土師器	壺	001	20.2	9.0	1.6	不明石製品		
S2810F15A土層	17	23	白陶器	在周片	002				文節		
		24	縄文土器	釜	001			口縁部片	甕形文		
		25	縄文土器	釜	001			甕形片	甕形文		
		26	須臾器	壺	001	0.8	1.5	1.2			
		27	白磁	紅土	001						
		28	28	28	縄文土器	釜	007			甕形片	山形文
		29	*	*	009			甕形片	山形文		
		30	*	*	001			甕形片	山形文		
		31	*	*	001			甕形片	山形文		
		32	*	*	003			甕形片	山形文		
		33	*	*	005			甕形片	山形文		
		34	*	*	005			甕形片	山形文		
		35	*	*	011			口縁部片	甕形文		
36	36	36	*	012		口縁部片	甕形文				
37	*	*	010			甕形片	甕形文				
38	38	38	*	002		甕形片	甕形文				
39	39	39	*	013		甕形片	甕形文				
40	40	40	壺	001			甕形片	甕形文			
41	41	41	甕形	001			甕形1.2				
F15-2	18	42	白陶器	甕形	014		14		瓦葺有		
		43	縄文土器	釜	005			甕形片	山形文		
		44	*	*	001			甕形片	山形文		
		45	*	*	001			甕形片	甕形文		
		46	*	*	001			甕形片	甕形文		
		47	*	壺?	002			口縁部片	甕形文		
		48	48	48	甕	001			甕形片	甕形文	
		49	49	49	甕	001			甕形片	甕形文	
		50	50	50	縄文土器	甕	002		小片	片手甕	
		51	51	51	*	001			甕形片	甕形文	

4. 鶴田西牛ヶ池遺跡

(1) はじめに

鶴田西牛ヶ池遺跡は筑後市大字鶴田字西牛ヶ池に所在する。皇宮欄場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、堀削の及ぶ面と排水路について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約2400㎡、調査期日は平成10年12月18日から平成11年3月30日までである。発掘調査は上村英士が担当し、柴田欄の協力を得た。調査地の鶴田西牛ヶ池遺跡跡第2次調査区は西欄台地上に展開する。基本土層 (Fig.19) は耕作土及び茨茶褐色土に堅穴住居跡等が切り込む形で検出され、地山は明黄褐色粘質土構成は手掘りによる実測図である。赤色ライオンは貼り床下のライオンである。

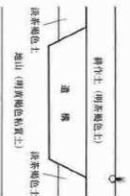


Fig.19 基本土層模式図

田中耕		田中耕		田中耕							
S-番号	遺構番号	層	厚	S-番号	遺構番号	層	厚	S-番号	遺構番号	層	厚
1	SX001	堅穴住居	58	SX000	ウヰトPSH10	ウヰト	57	SX009	土層orウヰト	99→105	118
2	ウヰト	ウヰト	50	ウヰトPSH05	ウヰト	56	ウヰト	ウヰト	106→112	119	
3	ウヰト	ウヰト	51	ウヰトPSH30	51→50	90	SX009	ウヰト	113		
4	ウヰト	ウヰトPSH125	52	ウヰトPSH125	52→50	100	S100	堅穴住居	120		
5	SX005	ウヰト	53	ウヰトPSH125	ウヰト	101	SX101	ウヰト	121		
6	ウヰト	ウヰトPSH125	54	SX005	ウヰトPSH120	102	ウヰト	ウヰト	122		
7	ウヰト	ウヰトPSH125	55	ウヰトPSH120	ウヰトPSH120	103	ウヰト	ウヰト	123		
8	ウヰト	ウヰトPSH125	56	ウヰトPSH125	55→50	104	S105	ウヰト	124		
9	ウヰト	ウヰトPSH125	57	ウヰトPSH125	ウヰトPSH125	105	ウヰト	ウヰト	125		
10	SX010	ウヰトPSH10	59	SX000	ウヰトPSH10	107	ウヰト	ウヰト	127		
11	SX011	ウヰト	60	ウヰトPSH10	ウヰトPSH10	108	ウヰト	ウヰト	128		
12	ウヰト	ウヰト	61	ウヰトPSH06	ウヰトPSH06	109	ウヰト	ウヰト	129		
13	ウヰト	ウヰトPSH06	62	ウヰトPSH06	ウヰトPSH06	110	SU110	独立住居跡	130		
14	ウヰト	ウヰトPSH06	63	ウヰトPSH06	ウヰトPSH06	111	ウヰト	ウヰト	131		
15	SX015	独立住居跡	64	SX005	独立住居跡	112	ウヰト	ウヰト	132		
16	ウヰト	独立住居跡	65	ウヰトPSH00	ウヰトPSH00	113	SX113	ウヰト	133		
17	ウヰト	ウヰト	66	ウヰトPSH00	ウヰトPSH00	114	ウヰト	ウヰト	134		
18	ウヰト	ウヰト	67	ウヰトPSH00	ウヰトPSH00	115	SX116	ウヰト	140→105		
19	SX019	独立住居跡	68	ウヰトPSH05	ウヰトPSH05	117	SX117	不明遺構	135		
20	ウヰト	ウヰトPSH05	69	SX019	ウヰトPSH05	118	ウヰト	ウヰト	136		
21	SX021	土層orウヰト	70	ウヰトPSH10	ウヰトPSH10	119	ウヰト	ウヰト	137		
22	ウヰト	ウヰトPSH10	71	ウヰトPSH10	ウヰトPSH10	120	ウヰト	ウヰト	138		
23	ウヰト	土層orウヰト	72	SX012	土層orウヰト	121	SU120	独立住居跡	139		
24	ウヰト	土層 (S107or土層)	73	SX014	土層 (S107or土層)	122	ウヰト	ウヰト	140		
25	SX025	ウヰト住居跡 29→25	74	SX015	ウヰト住居跡	123	ウヰト	ウヰト	141		
26	ウヰト	ウヰト住居跡	75	ウヰト住居跡	ウヰト住居跡	124	ウヰト	ウヰト	142		
27	ウヰト	ウヰト	76	SX018	ウヰト	125	SU125	独立住居跡	143		
28	ウヰト	ウヰト	77	SX018	SX015	126	SX126	独立住居跡	144		
29	ウヰト	ウヰト	78	ウヰト	79→80	79→105	SX014	ウヰト	145		
30	SX030	ウヰト住居跡	80	SX030	ウヰト住居跡	129	ウヰト	129→105	146		
31	ウヰト	ウヰトPSH06	81	ウヰト	ウヰト	130	ウヰト	ウヰト	147		
32	SX032	ウヰト	82	ウヰト	ウヰト	131	ウヰト	ウヰト	148		
33	ウヰト	ウヰト	83	ウヰト	ウヰト	132	ウヰト	ウヰト	149		
34	SX035	ウヰトPSH31→35	84	ウヰトPSH31→35	ウヰトPSH31→35	133	ウヰト	ウヰト	150		
35	ウヰト	ウヰトPSH31→35	85	SX035	ウヰトPSH31→35	134	ウヰト	ウヰト	151		
36	SX036	ウヰトPSH31→35	86	ウヰトPSH31→35	ウヰトPSH31→35	135	ウヰト	ウヰト	152		
37	ウヰト	ウヰトPSH31→35	87	ウヰトPSH31→35	ウヰトPSH31→35	136	ウヰト	ウヰト	153		
38	ウヰト	ウヰトPSH31→35	88	ウヰトPSH31→35	ウヰトPSH31→35	137	SX001	ウヰト	154		
39	ウヰト	ウヰトPSH31→35	89	ウヰトPSH31→35	ウヰトPSH31→35	138	SX001	ウヰト	155		
40	SX040	独立住居跡	90	SX040	独立住居跡	139	SX001	ウヰト	156		
41	ウヰトPSH05	ウヰトPSH05	91	SX041	土層orウヰト	140	SX001	ウヰト	157		
42	ウヰトPSH05	ウヰトPSH05	92	SX041	土層orウヰト	141	ウヰト	ウヰト	158		
43	ウヰト	ウヰト	93	SX041	土層orウヰト	142	ウヰト	ウヰト	159		
44	ウヰト	ウヰト	94	SX041	土層orウヰト	143	ウヰト	ウヰト	160		
45	SX045	独立住居跡	95	SX045	独立住居跡	144	ウヰト	ウヰト	161		
46	ウヰト	ウヰト	96	ウヰト	ウヰト	145	SX045	ウヰト	162		
47	SX047	ウヰト	97	ウヰト	ウヰト	146	SX045	ウヰト	163		

Tab.8 鶴田西牛ヶ池遺跡遺構番号台帳

(2) 検出遺構

竪穴住居

SI001 (Fig. 20, Pl. 9) 検出住居の中では最も東に位置する。検出南北長軸約4.65m、東西長約3.55m、床面深さ約0.15mを測り、長方形のプランを呈する。主軸はN-33°-E。住居中央には炉と考えられる遺構を検出したが、炭化物などは確認していない。埋土は淡黒灰色土。南壁際には住居内土壌が掘り込まれ、小型の鉢が完形で出土。埋土は淡黒灰色土。住居柱穴は確認されなかった。住居覆土から甕型土器片、高坏型土器片、黒曜石剥片、床面下から甕型土器小片を出土している。

SI010 (Fig. 23, Pl. 10~12) 調査区中央に位置する大型の住居である。検出東西長約5.9m、南北長約4.5m、床面深さ約0.27mを測る隅丸長方形のプランを呈する。主軸はN-71°-E。住居内四隅にベット状遺構を検出し、ベッドは地山削りだしに若干の整地をして形成している。また、中央に炉跡を検出し、柱は四本柱である。南壁際には住居内土壌を掘り込んでいる。床面検出時、投げ込まれた石によって土器が破損された状況と、赤褐色粘土と高坏型土器と不明土製品(土製支脚?)を検出している。このような赤褐色粘土や不明土製品は他の住居では全く確認されず、炉跡以外にもかなりの範囲で焼土を検出していることから祭儀的行為が行われた可能性が考えられる。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、器台型土器片、壺型土器片、土師器灯明皿片、坏片、染付皿片、陶器擋片、砥石を出土した。住居内土壌からは甕型土器底部片を出土している。床下からは甕型土器片を出土。

SI 001

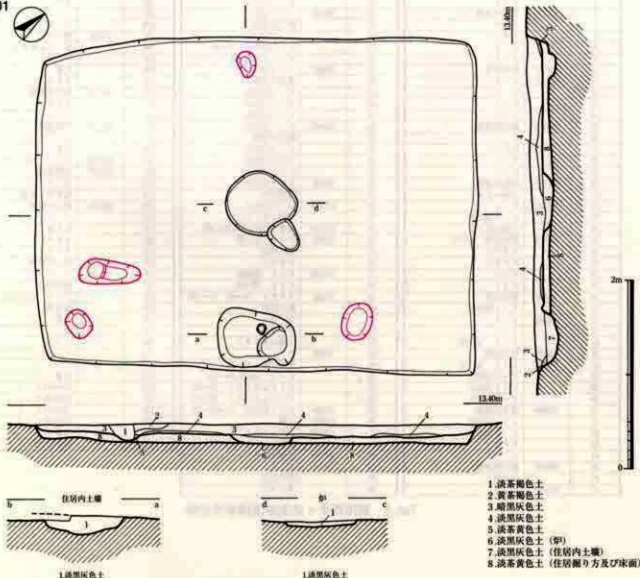


Fig.20 SI001遺構実測図 (1/40)



Fig.21 鶴田西牛ヶ池遺跡略測図 (1/200)

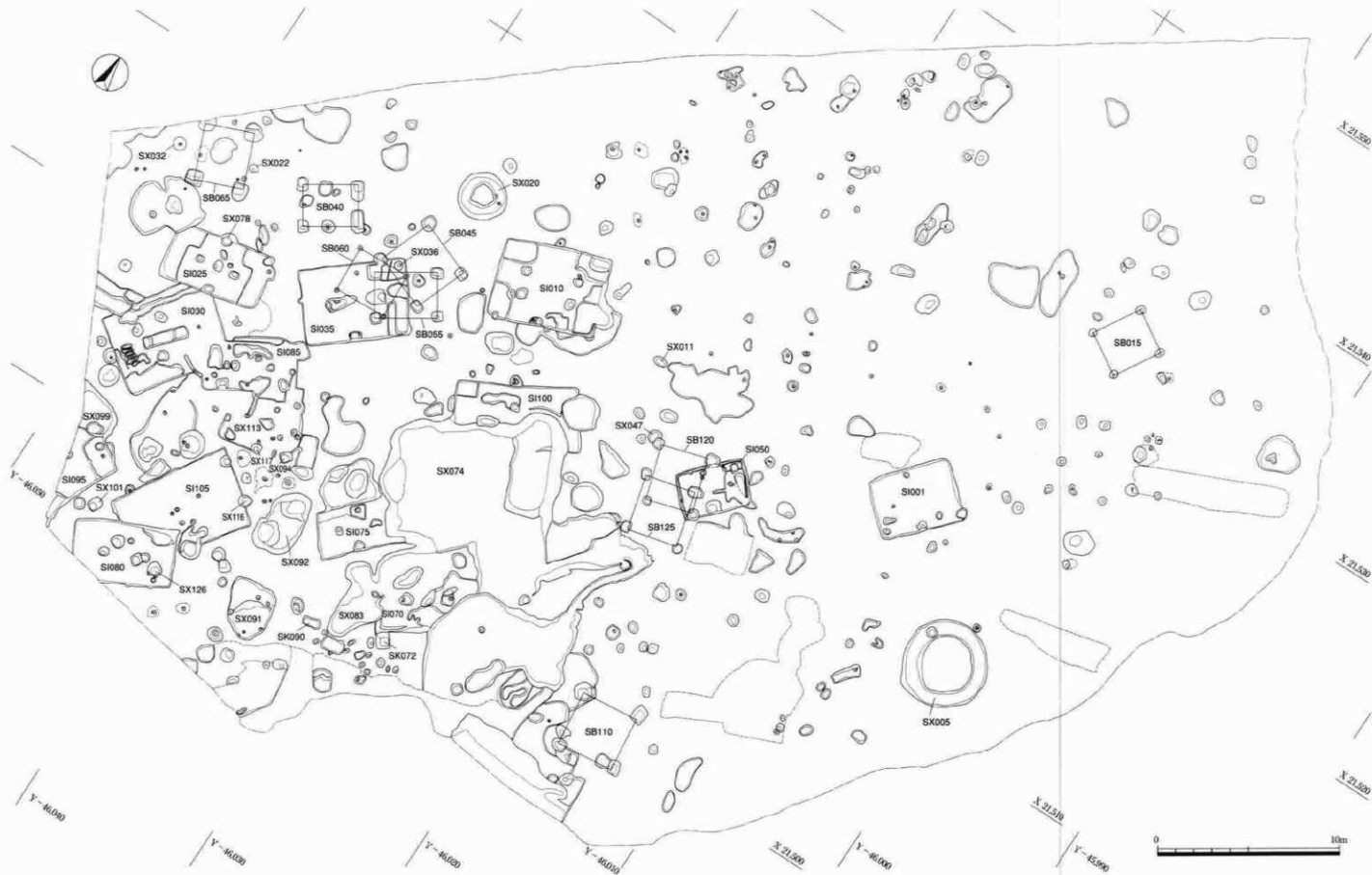


Fig.22 鶴田西牛ヶ池遺構全体図 (1/200)

明赤褐色粘質土 焼土

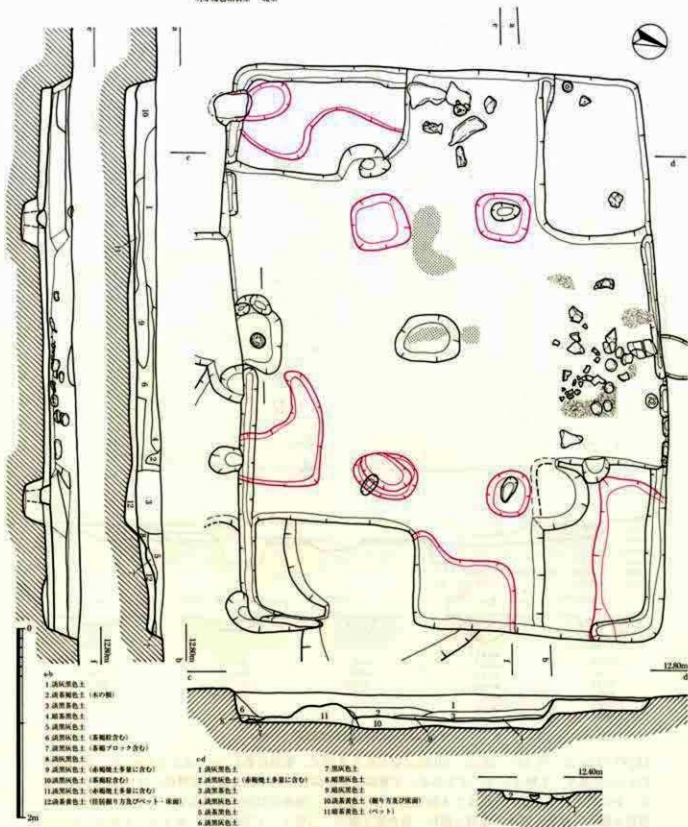


Fig.23 SI010遺構実測図 (1/40)

SI025 (Fig. 24, Pl. 13) 調査区西端に位置し、SI030を切る。検出南北長約3.1m、東西長約5.7m、床面深さ約0.2mを測り、主軸はN-78°-Eである。東西にベッド状遺構を検出し、南壁際には住居内土壌を掘る。中央に炉跡を検出したが、炭化物等は確認していない。また、東西に2本柱穴を検出している。遺物は住居覆土から壺型土器片、甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、器台型土器片、ミニチュア土器、鉄製鎌、メンコ状土製品、土製柄杓片、不明石製品、床面から甕型土器片、不明石製品、床下から甕型土器片、炉跡から土器小片、住居内土壌から鉢型土器片を出土している。

SI025

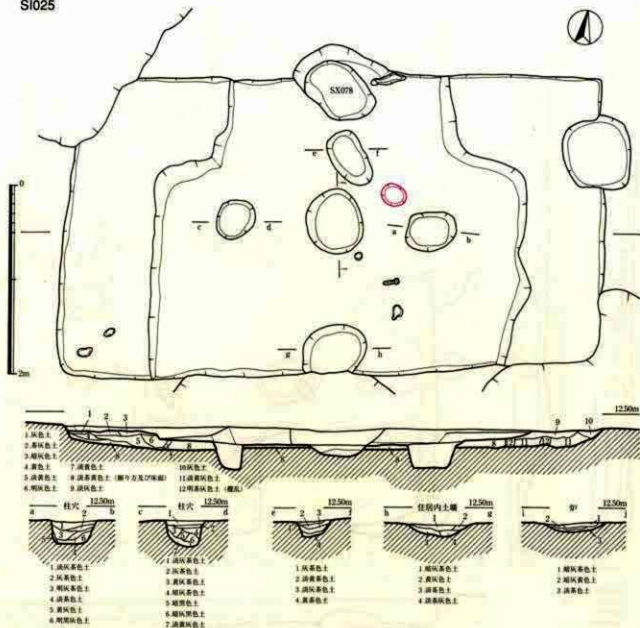


Fig. 24 SI025遺構実測図 (1/40)

SI030 (Fig. 25, Pl. 14) SI025・SI085に切られる住居で、東西長約4.7m、南北長約6.1m、床面深さ約0.2mを測り、主軸はN-30°-Eである。北東隅と南西隅にベッド状遺構、南壁際には住居内土壌を掘る。炉は検出していない。柱は2本柱で掘り方は布掘り、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、壺型土器片、器台型土器片、石包丁、不明石製品、床下から土器片、住居内土壌から土器片を出土している。

SI030

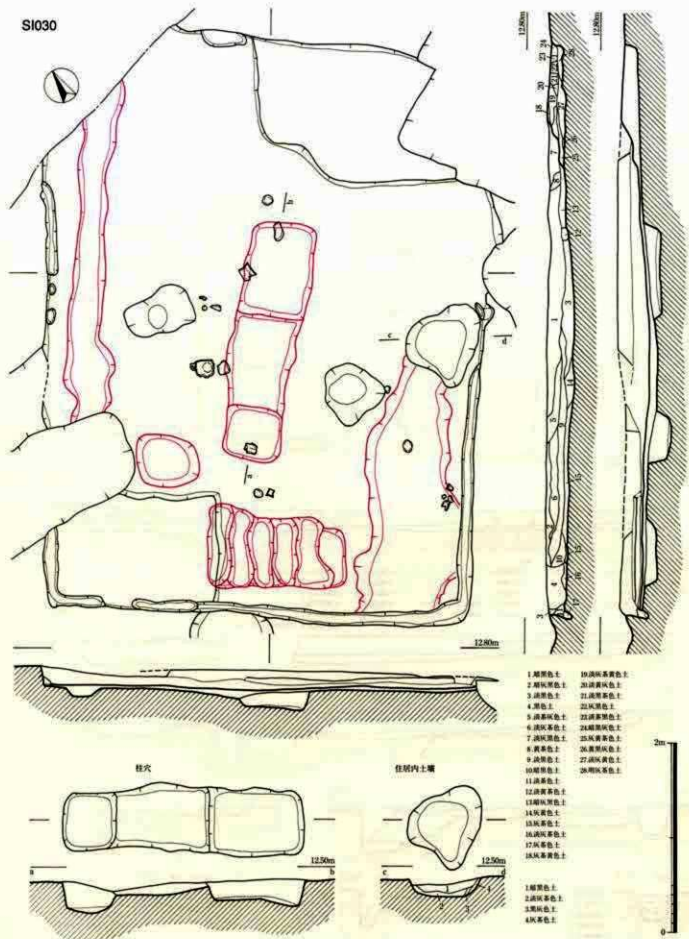


Fig.25 SI030遺構実測図 (1/40)

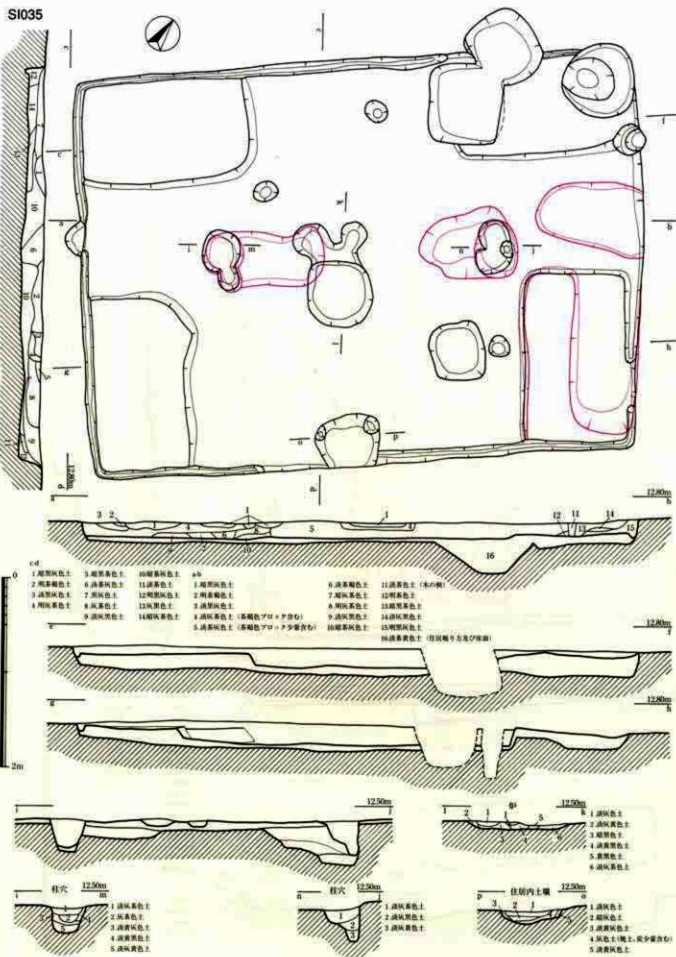


Fig.26 SI035遺構実測図 (1/40)

SI035 (Fig. 26, Pl. 15) SI010の西側に位置し、SB045、SB115、SB120、SB125が切る長方形の住居である。検出南北長約4.3m、東西長約5.95m、床面深さ約0.2m、主軸はN-53°-Eである。住居北辺に東西、南辺に南北に長軸を持つベッド状遺構を配置する。南東ベッドの一部が地山ベッドで他は土盛りをしたベッドである。南壁際に住居内土壌、中央に炉跡、柱を東西に2本検出した。また、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から壺型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、支脚型土器片、壺型土器片、器台型土器片、不明石製品、床下から壺型土器片、支脚型土器片（覆土中の支脚と接合）、住居内土壌から壺型土器片、焼土塊を出土した。

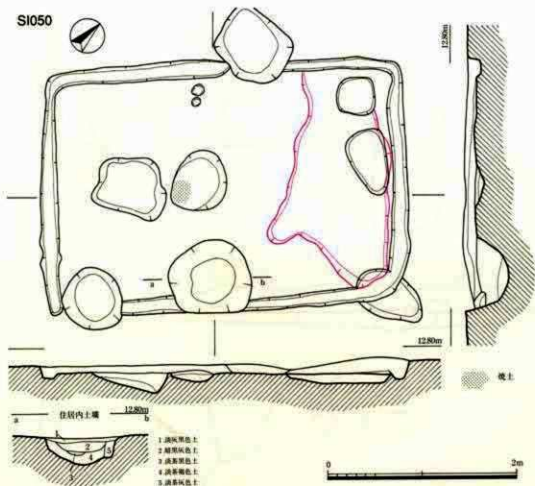
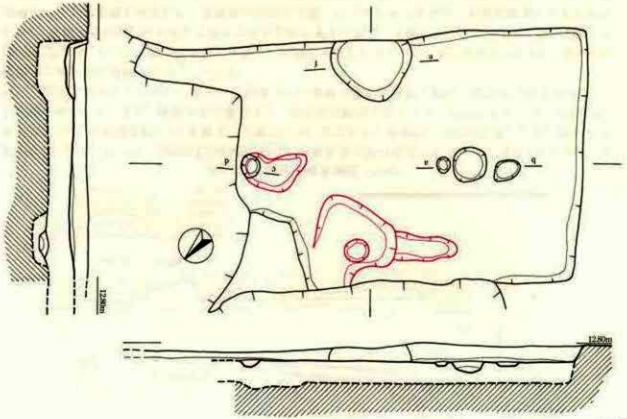


Fig. 27 SI050遺構実測図 (1/40)

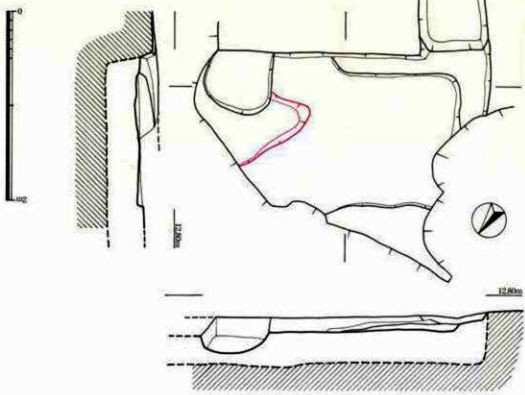
SI050 (Fig. 27, Pl. 16) SB055とSB060に切られる隅丸長方形の住居である。検出南北長約3.9m、東西長約2.7m、床面深さ約0.1mを測り、主軸はN-45°-Eである。南壁際に住居内土壌、中央に焼土を含む炉跡を検出した。また、壁際に壁小溝が巡る。堅穴住居群内で最も小さい住居であり、ベッド状遺構、柱穴、貼床を検出してない。遺物は住居覆土から壺型土器片、壺型土器片、器台型土器片が出土し、住居内土壌からの遺物は出土していない。

SI070 (Fig. 28, Pl. 17) 調査区南西に位置し、大部分を攪乱されていた。検出南北長約2.2m、東西長約3.1m、床面深さ約0.23mを測る方形を呈する住居と考えられる。主軸はN-31°-Eである。南、西壁に小規模のベッド状遺構を検出した。南壁際に住居内土壌、柱穴は不明であるが、床面完掘後に2本の柱穴と考えられる遺構を検出している。床下ラインは掘りすぎている。南西隅にSX072を検出しており、遺構検出時はSX072が住居を切っていると判断したが、住居西側ラインがSX072まで延びており、住居に付帯する施設の可能性がある。遺物は住居覆土から壺型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、壺型土器片、メンコ状土製品、床面から壺型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、壺型土器片を出土している。

Fig.28 S1070・075遺構実測図 (1/40)



S1075



S1070

SI075 (Fig.28, Pl.17, 18) SI070の北側に位置し、東部分が攪乱を受けていた。長方形を呈するプランで検出南北長約4.8m、東西長約2.7m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-43°-Eで北東隅にベッド状遺構、南壁際には住居内土壌、長軸に2本の柱跡を検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、支脚型土器片、高坏型土器片、土塊、鉄滓、ベッド上から鉢型土器片、甕型土器片、床下から甕型土器片、住居内土壌から高坏型土器片を出土した。

SI080 (Fig.29, Pl.18, 19) 調査区南西隅でSI105を切る長方形を呈する住居である。検出南北長約3.47m、東西長約5.7mを測り、床は2面検出し、深さは約0.25mと0.45mである。主軸は主軸はN-61°-E、住居北西隅で2枚目の床面からベッド状遺構と考えらえる痕跡を確認しているがプラン等是不明である。柱は2枚目の床面で東西に2本、炉跡を中央で検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、壺型土器片、器台型土器片、鉢型土器片、染付、陶器、1枚目の床面から甕型土器片、鉢型土器片、ミニチュア鉢、2枚目の床面下から黒曜石石鏃を出土している。

SI085 (Fig.30, Pl.19, 20) SI030を切る検出南北長約3.85m、東西長約4.95m、床面深さ約0.15mを測る。主軸はN-60°-Eで住居北辺と南辺にベッド状遺構、南壁際に住居内土壌、中央に東西の2本柱を検出した。平面形態が不自然な状態で、住居が3軒程度切りあっている可能性が考えられるが、検出時での確認ができなかった。遺物は住居覆土から甕型土器片、不明鉄製品、床下から甕型土器片、住居内土壌から甕型土器片、鉢型土器片を出土している。

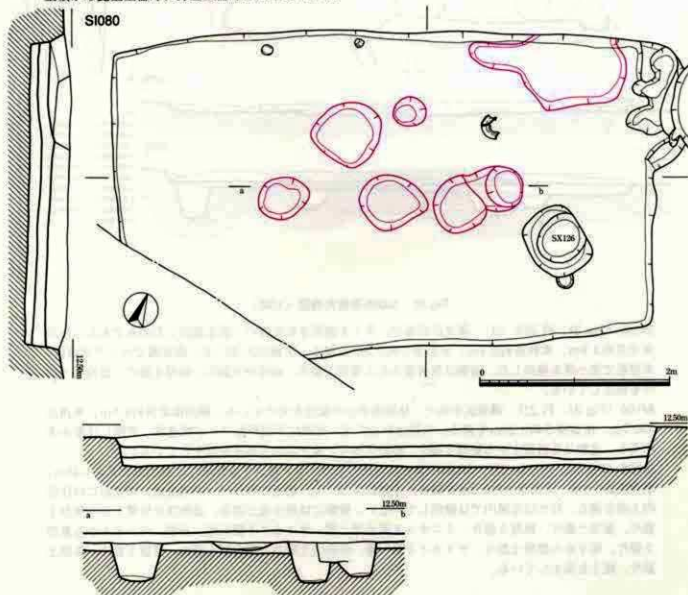


Fig.29 SI080遺構実測図 (1/40)

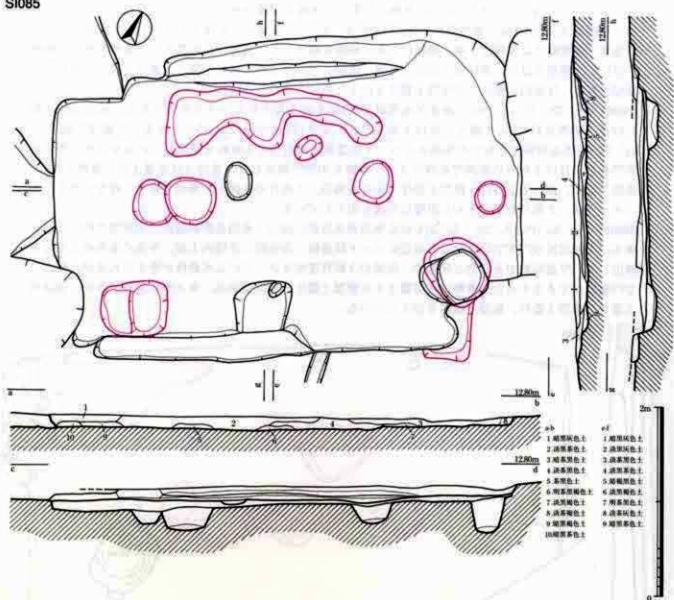


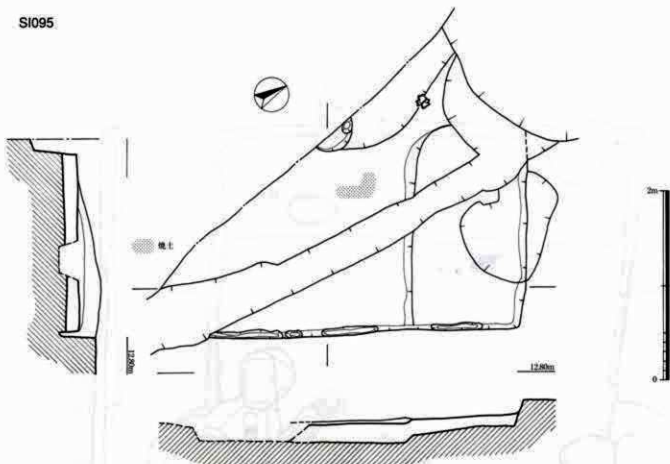
Fig.30 SI085遺構実測図 (1/40)

SI095 (Fig.31, Pl.210, 21) 調査区西端で、多くを攪乱され住居の一部を検出したのみである。検出南北長約3.9m、東西長約3.2m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-27°-E、南東隅でベッド状遺構、南壁際で壁小溝を検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、高環型土器片、鉢型土器片、器台型土器片を出土している。

SI100 (Fig.31, Pl.21) 調査区中央で、住居南半分が攪乱を受けている。検出南北長約3.5m、東西長約6.7m、床面深さ約0.28mを測る。主軸はN-60°-E、東西に不定形なベッド状遺構、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、床下から土器片を出土している。

SI105 (Fig.32, Pl.22, 23) SI080に切られる長方形のプランを呈する住居で、検出南北長約4.45m、東西長約6.8m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-31°-E、東辺にのみベッド状遺構、南壁際には住居内土壌を掘る。柱穴は住居内では検出していない。壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、壺型土器片、鉢型土器片、ミニチュア器台型土器、サヌカイト製石鏃、石剣、ベッド上から甕型土器片、床下から甕型土器片、サヌカイト製石鏃、住居内土壌から器台型土器片、甕型土器片、鉢型土器片、焼土を出土している。

SI095



SI100

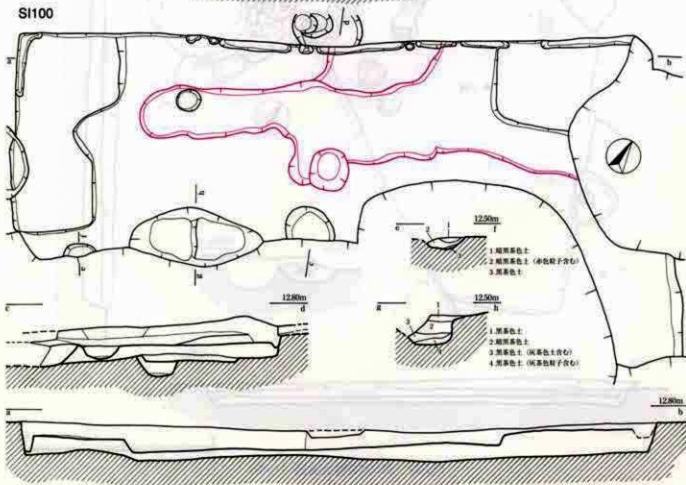


Fig.31 SI095・100遺構実測図 (1/40)

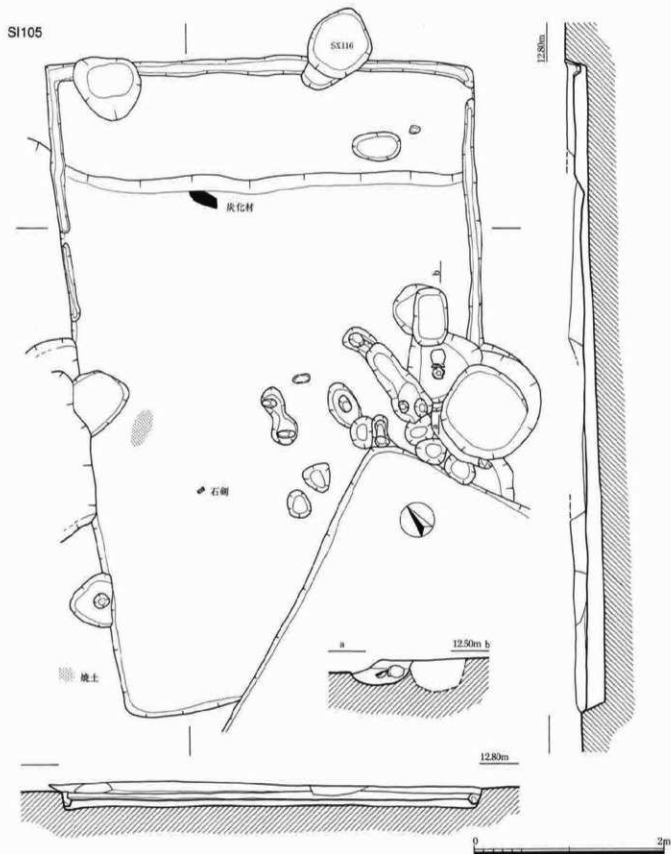


Fig.32 SI105遺構実測図 (1/40)

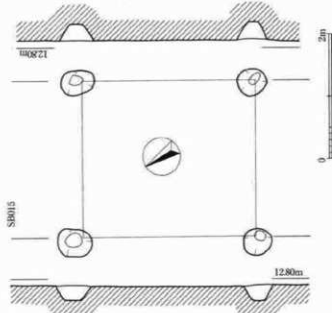


Fig.33 SB015遺構実測図 (1/60)

掘立柱建物

SB015 (Fig.33) 調査区最東端で検出した1間×1間の建物である。桁行約5.5m、梁行約5.0m、桁行の方位はN-32°24'4"-Eを測る。各柱穴の周土は単一で暗茶黒色土である。出土遺物はない。

SB040 (Fig.34, Pl.24) 調査区北西隅で検出した1間×2間の建物である。柱間総距離は桁行約3.0m、梁行約2.25m、桁行の柱間は約1.35m、1.65mを測る。桁行の方位はN-58°12'4"-Eである。遺物は柱穴aから甍型土器片、銚型土器片、柱穴bから甍型土器片、銚型土器片、壺型土器片、柱穴dから甍型土器片、銚型土器片、柱穴eから甍型土器片、銚型土器片を出土している。

SB045 (Fig.35, Pl.25) SB055、SI035を切る1間×1間の建物である。柱間は3.25m、方位はN-21°25'14"-Eを測る。柱穴bのみ土層で柱痕と考えられるものを検出している。遺物は柱穴aから甍型土器片、銚型土器片、高坏型土器片、柱穴bから甍型土器片、銚型土器片、柱穴cから甍型土器片、柱穴dから甍型土器片、銚型土器片を出土。

SB055 (Fig.35, Pl.26) ビット平面が隅丸方形を呈する1間×1間の建物で、桁行約3.5m、梁行約2.4m、桁行の方位はN-56°53'19"-Eを測る。柱穴c、dの土層から柱痕と考えられるものを検出している。遺物は柱穴aから甍型土器片、柱穴bから甍型土器片、柱穴cから土器片、柱穴dから銚型土器片を出土。

SB060 (Fig.35) SI035を切る1間×1間の建物で、桁行約3.0m、梁行約2.6m、桁行の方位はN-86°41'53"-Eである。出土遺物はない。

SB065 (Fig.36, Pl.27) 調査区北西隅で検出した1間×1間の建物であるが、調査区外に延びる可能性がある。桁行約3.0m、梁行約2.86m、桁行の方位はN-20°19'23"-Wである。柱穴cの土層から柱痕と考えられるものを検出している。柱穴b、dのみテラスを設けている。遺物は柱穴aから甍型土器片、柱穴bから甍型土器片、柱穴cから土器片、柱穴dから土師器罍、磁器片、陶器片を出土している。

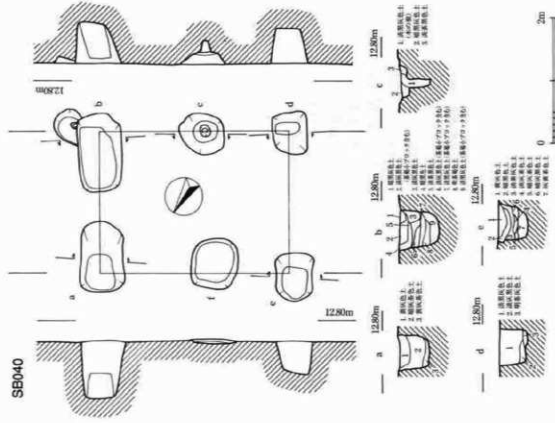


Fig.34 SB040遺構実測図 (1/60)

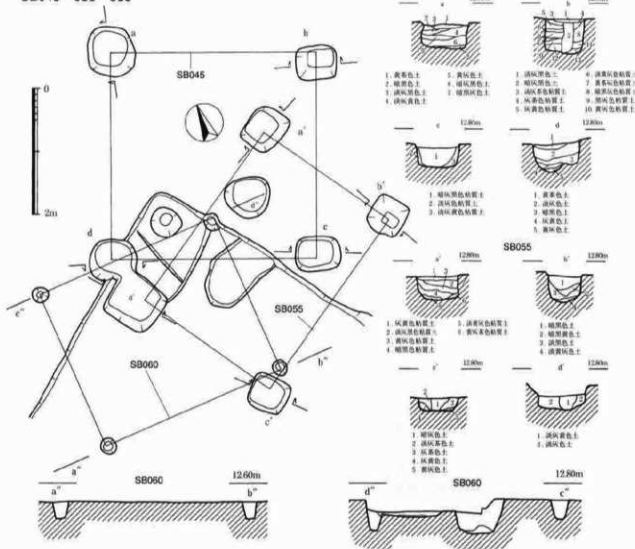


Fig.35 SB045・055・060遺構実測図 (1/60)

SB110 (Fig.38, Pl.28) 調査区南端で検出した1間×1間の建物である。柱間は約3.25mを測る。方位はN-7°52'59"-Wである。遺物は柱穴bから鉢型土器の定形品が出土したのみである。

SB120 (Fig.39, Pl.29, 30) SI050を切る1間×1間の建物である。桁行約3.3m、梁行約2.75m、桁行の方位はN-18°9'10"-Wを測る。柱穴dの土層から柱痕と考えられるものを検出している。遺物は柱穴aから土器片、柱穴bから甕型土器片、鉢型土器片、高環型土器片、柱穴cから土器片、柱穴dから甕型土器片を出土している。

SB125 (Fig.39, Pl.29, 30) SI050を切る1間×1間の建物である。桁行約3.25m、梁行約3.0m、桁行の方位はN-12°9'18"-Wを測る。各ピットは比較的浅く、遺物は柱穴aから甕型土器片、柱穴bから甕型土器片、鉢型土器片、柱穴cから柱穴dから甕型土器片を出土している。

周溝状遺構

SX005 (Fig.40, Pl.31) 調査区東南で検出した。遺構の規模は外径約4.8m、内径約3.05m、溝の幅約0.8m-1.1m、深さ0.25m-0.30mを測る。土層dの底面から焼土を含む埋土を確認した。溝内でピットを検出し、埋土は灰白色粘土を多く含み、粘土直上には甕片を出土している。また、ピット内で黄色粘土を検出し、粘土除去後、ミニチュアの鉢を出土している。他の覆土中遺物は焼土塊、淡黒灰色土か

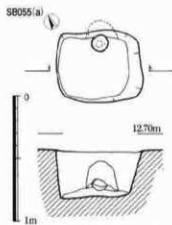


Fig.36 SB055 a (1/30)

SB065

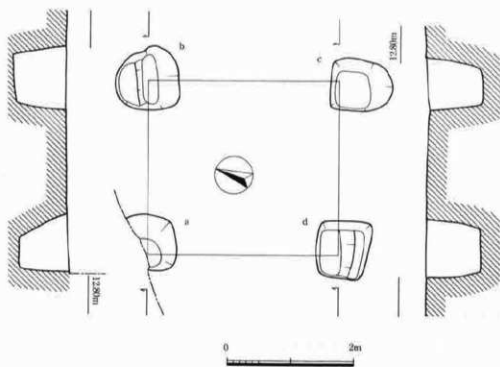
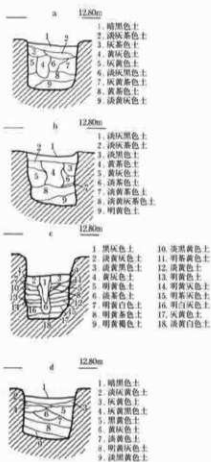


Fig.37 SB065遺構実測図 (1/60)



SB040

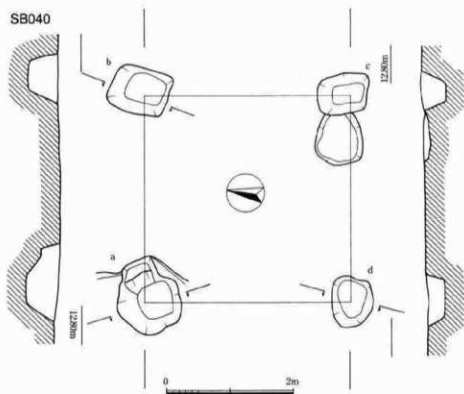
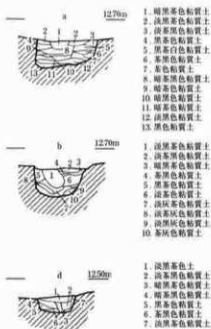
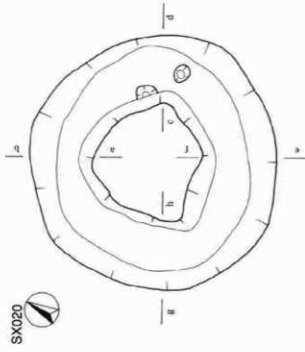


Fig.38 SB110遺構実測図 (1/60)





ら甕型土器片、器台型土器片、淡灰茶色土から甕型土器片を出土している。

SX020 (Fig.41, Pl.32) 調査区中央に位置する周溝状遺構で、遺構全体が木の根に擾乱される。外径約2.6m、内径約1.15m、溝幅約0.75m、深さ0.15~0.25mを測る。溝埋土は淡黒灰色土と淡黒灰色土(茶褐色プロッタ灰泥)である。遺物は甕型土器片、磁器片、陶器片、焼土を出土している。

SK072 (Fig.42, Pl.32) SI070を切る土層であるが住居に伴う施設の可能性も考えられる。埋土はかなり締まり、平行に堆積する。長軸約0.95m、短軸約0.75m、深さ約0.75mを測る。遺物は甕型土器片、高坏型土器片、器台型土器片を出土している。

SK090 (Fig.42, Pl.32) SI070南側の土層で、検出面を一部擾乱されている。長軸約1.3m、短軸約0.75m、深さ約0.15m~0.23mを測る。遺物は甕型土器片を出土している。

SK036 (Fig.43)

SI035のベツト上で検出した遺構である。住居に伴う土壌の可能性があり、長型土器片軸径0.5m、短軸0.45m、最大深さ約0.45mを測る。遺物は甕型土器片、鉢型土器片、器台型土器片が出土している。

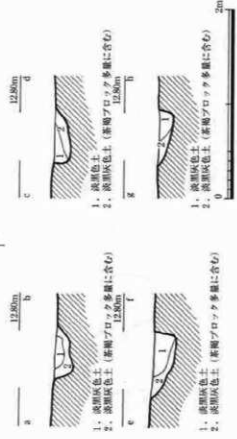


Fig.41 SX020遺構実測図 (1/40)

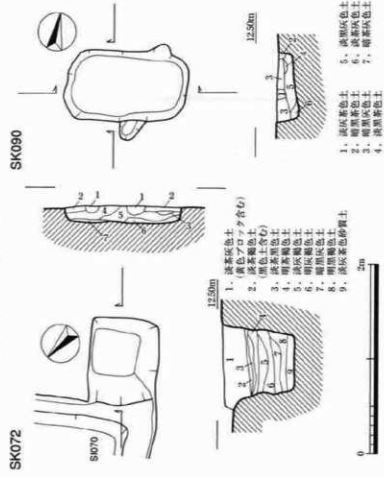


Fig.42 SK072・090遺構実測図 (1/40)

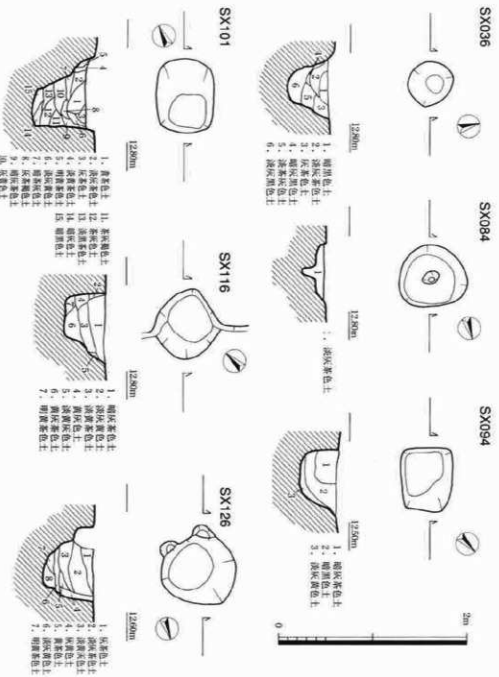


Fig.43 SX036 · 084 · 094 · 101 · 116 · 126 遺構実測図 (1/40)

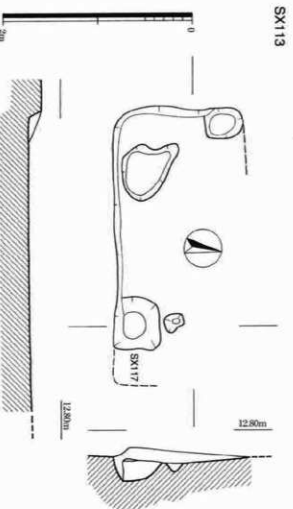


Fig.44 SX113 · 117 遺構実測図 (1/40)

SX084 (Fig.43, Pl.32) SI035東側で検出した遺構である。遺構中央の小穴は木の根である。長軸約0.75m、短軸約0.65m最大深さ約0.23m、埋土は淡灰色土で、遺物は出土していない。

SX084 (Fig.43, Pl.32) SX113の東側にある隅丸方形を呈する遺構で、長軸約0.68m、短軸約0.37m、最大深さ約0.38mを測る。遺物は堯型土器片を出土している。

SX101 (Fig.43, Pl.33) SI095の東側で検出した隅丸方形を呈する遺構で、長軸約0.8m、短軸約0.6m、最大深さ約0.55mを測る。遺物は堯型土器片、口縁部に対面する二つの穿孔がある完形の钵型土器、土製有孔円蓋を出土している。

SX116 (Fig.43, Pl.33) SI105を切る遺構で、長軸約0.75m、短軸約0.65m、最大深さ約0.45mを測る。遺物は堯型土器片を出土している。

SX126 (Fig.43, Pl.33) SI080の床面から検出した遺構で、住居に伴う遺構の可能性がある。長軸約0.78m、短軸約0.77m、最大深さ約0.54mを測る。遺物は堯型土器片、鉢型土器片を出土している。

SX113 (Fig.44) SI085の南側で検出した遺構で、多くを混乱されており、一部の検出に留まった。竪穴住居になる可能性があり、検出時の平面プランが隅丸長方形で長軸約2.9m、短軸約1.4m、最大深さ約0.13mを測り、極端に小規模の住居になる。覆土除去後、床面と考えられる硬化面を検出している。遺物は堯型土器片、鉢型土器片、不明土製品を出土している。

SX117 (Fig.44, Pl.33) SI113の南壁際で検出した遺構で、SI113が竪穴住居であれば、住居内土壁になる可能性がある。長軸約0.55m、短軸約0.5m、最大深さ約0.2mを測る。遺物は堯型土器片、甍型土器片、ミニチュア鉢型土器片を出土している。

不明遺構

SX011 (Fig.22) 調査区中央で検出した遺構で、長軸約0.85m、短軸約0.5m、最大深さ約0.08mを測る。遺物は磁器片を出土している。

SX022 (Fig.22) SB065の東側で検出した遺構で、長軸約0.5m、短軸約0.4m、最大深さ約0.15mを測る。遺物は土器片を出土している。

SX032 (Fig.22) SB065西側で検出した遺構で、径が約0.72m、最大深さ約0.17mを測る。遺物は鉢型土器片を出土している。

SX047 (Fig.22) SB120aを切る遺構で、長軸約0.8m、短軸約0.7m、最大深さ約0.17mを測る。遺物は土師器(糸切り)小皿、磁器片を出土している。

SX074 (Fig.22) 調査区中央に掘られた乱れで瓦屋の木材や石垣の石、磁器片や陶器片が多量に出土している。

SX078 (Fig.22) SB025を切る遺構で、長軸約0.75m、短軸約0.6m、最大深さ約0.28mを測る。遺物は堯型土器片、甍型土器片、鉢型土器片、鉄型土器片、高坏型土器片、土師器鉢、磁器風片、陶器片、平瓦を出土している。

SX083 (Fig.22) SI070を切る遺構で、埋土に多量の焼土が入っていたが壁は焼けていない。平面プランは不定形で長軸約4.4m、最大深さ約0.47mを測る。遺物は堯型土器片、鉢型土器片、磁器片、陶器片、甍、指鉢、棒状土製品、薬瓶、鉄製刀子を出土している。

SX091 (Fig.22) 調査区南西で検出した遺構で、北側にテラスを設ける。長軸約3.2m、短軸約2.4m、最大深さ約0.3mを測る。遺物は土師器指鉢、棒状土製品、土製人形片を出土している。

SX092 (Fig.22) SI105東側で検出した遺構で中央にテラスを設け、その両端がピットになる。長軸約3.7m、短軸約2.1m、テラスの深さ約0.27m、ピットの深さ約0.53mを測る。遺物は土師器火鉢、鉢、甍、磁器片、陶器片、平瓦を出土している。

SX099 (Fig.22) SI095を切る遺構で、調査区外に重びる。検出長軸約2.65m、検出短軸約2.0m、最大深さ約0.66mを測る。遺物は土師器指鉢、鉢、皿、甍、棒状土製品、土製人形片を出土している。

(3) 出土遺物

SI001 (Fig.45, Pl.38)

甕型土器 (1~3) 1、2は長脚の甕で共に内外面をハケ目で仕上げる。頸部内面の様は明瞭であり、底部は若干レンズ状で、外面に里度が付く。3は平底の甕で、胎土に多量の角閃石が入る。唇縁が激しく調整は不明であるが、底部内面に指頭痕が残る。

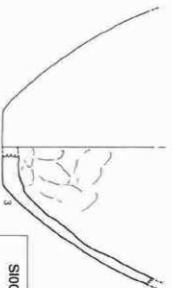
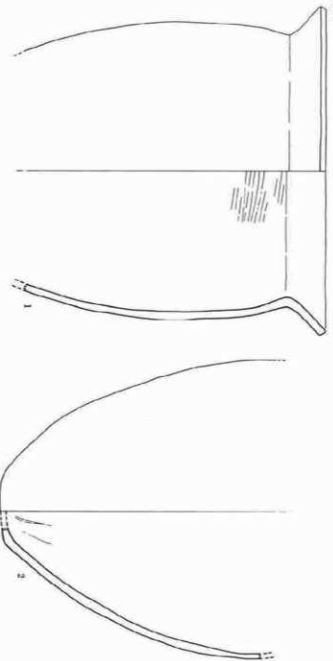
鉢型土器 (4) 口縁が外反するタイプの鉢で体部外面をハケ目、内面は横方向のナデ、体部内面は横方向にナデする。口縁端部を内側若干つまみ上げる。胎土は精選されている。

高坏型土器 (5) 長脚の脚部のみ資料である。磨耗が激しいため調整は不明。

SI001住居内土壇 (Fig.45, Pl.38)

甕型土器 (6) 小型の手すくねの甕で、ほぼ定形である。内外面共に指頭痕が残り、体部中程と底部の境に粘土接合痕が残る。焼成は良好で内外面ともに淡茶黄色土である。

SI001



SI001住居内土壇

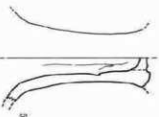


Fig.45 SI001出土遺物実測図 (1/3)

SI010 (Fig. 46~49, Pl. 38~41)

壺型土器 (7~12) 7は口縁部が直立する壺で、磨耗が激しいが、内外面をハケ目で調整する。8は口縁が外反し、体部内面は縦方向のハケ目、外面は不定方向にハケ目が入り、黒底が残る。9は内外面全体に粉殻等の植物灰が多量に残り、調整は内外面ともにハケ目である。部分的に2次のな熱を受け灰白色を呈している。10、11は口縁部面で、外面はハケ目、内面はナデが入り、内面は底部片で9と同様に粉殻等の植物灰が全面に入り、底面外面は叩き後、絞って底部形成を行う。

壺型土器 (13~26) 13は丸底になる底部をもち、口縁が直に近い形で見られる。14、15は口縁部片で刻み目が入る。16、17は内外面にハケ目が施され、底部に黒底が見られる。14、15は口縁部片で刻み目が入る。16、17は内外面にハケ目が残る。18は丸底に近い底部をもち、球形の胴部をもつ。外面をハケ目、内面は磨耗により不明。19は底部が欠損する尖り気味の底部をもつ胴長の壺で、口縁部に刻み目を施す。体部外面上半に叩きが残る。体部中程から縦方向のハケ目が入る。内面は体部上半が不定方向にナデ、下半が縦方向にナデが入る。胴部内面の縁は明瞭である。20から26は口縁部片で、21、22、26は刻み目が入る。

鉢型土器 (27~39) 素口縁と字口縁が残り、27は粗雑な作りで胎土に粉殻等の植物灰が多量に見られ、外面に指頭痕と粗いハケ目、底部内面は強いナデ、着ししくはケズリとも捉えられる調整を施す。28は口縁部が内湾し内面に工具痕が残る。29は粗雑な作りで、体部より口縁部を肥厚させる。外面に指頭痕、内面にハケ目を施す。30はほぼ完形の鉢で底部を尖底に、口縁部を内湾させる。外面は丁寧にナデが施され、内面にハケ目が施される。31は丸底の鉢で外面をナデ、内面にハケ目を施す。32は内外面ともにナデが入り、底部内外面には黒底が残る。33はかなり歪んだ粗製品で、胎土には粉殻等の植物灰が残る。内外面ともハケ目を施す。体部外面には黒底が残る。34はく字口縁をもつ脚坏の鉢である可能性があり、口縁部を内湾につまみ上げる。調整は内外面ともにハケ目である。35から39は体部から口縁にかけての片で、35は胎土に角四角が入り、外面に工具痕が残る。36は外面にナデ、内面にハケ目が入る。37は口縁部を内湾させる。38、39は小型の鉢で、内外面ともにナデで仕上げられる。

高円土器 (40~43) 40は坏部片で内外面ともにナデが施され、口唇部には沈線が通る。41は坏部と脚部の接合部片で、胎土がよく精選されており、外面はハケ目後ナデされており、内面はナデが施される。42は坏部が接合面から取れてしまった脚部で、胎土がよく精選されており、脚上部にハケ目後ミガキが施される。脚部や内面はハケ目で調整され、3ヶ所に穿孔が見られる。43は脚部片で外面はハケ目と脚部が横方向のナデ、内面はナデと脚部がハケ目調整される。

器台型土器 (44~45) 44は内面に指頭痕が強く残り、燒成不良であるが、外面は不定方向にナデ入る。45は脚部で外面に指頭痕、内面は指頭痕の上から不定方向にナデを施す。

石製品 (46~53) 46は天草系の砂岩質灰石で2面使用する。47から51は磨石もしくは叩き石の類と考えられるが明瞭な使用痕跡を有しない。52は不明石製品で明確な使用痕が見られない。

土製品 (53~62) 53から55は土製の支脚と考えられる。燒成は行われているが、2次のな被熱は受けていない。55は面取りをしている。56は円柱状の不明土製品である。57から62は焼土塊である。

SI010底面 (Fig. 50, Pl. 41)

鉢型土器 (63) 脚付きの鉢で脚の一部が欠損するが、ほぼ完形である。く字口縁である。内外面ともに強いハケ目であるが、外面はハケ目後ナデにハケ目、口縁部内面は横方向にナデが施され、外面に黒底が残る。脚部内外面ともにハケ目で4ヶ所に穿孔がなされる。燒成は良好で内外面ともに淡黄褐色を呈する。

SI010住居内土壙 (Fig. 50, Pl. 41)

壺型土器 (64) 丸底で体部が球形を呈する。内外面ともに強いハケ目であるが、外面はハケ目後ナデが入る。外面に黒底が残る。底部付近に打ち欠いたような欠損が認められる。

SI010上面磨乱 (Fig. 50, Pl. 41) SI010を切る痕跡から出土した遺物である。

壺型土器 (65~66) 65は2重口縁をもつ壺で、口縁外面に磨乱目、外面をハケ目で調整する。66は胎土が非常に精選されており、器壁が薄い。外面はハケ目後横方向に丁寧にナデが施され内面はナデが入り、胴部屈曲下には粗かいハケ目が斜めに入る。

SI010

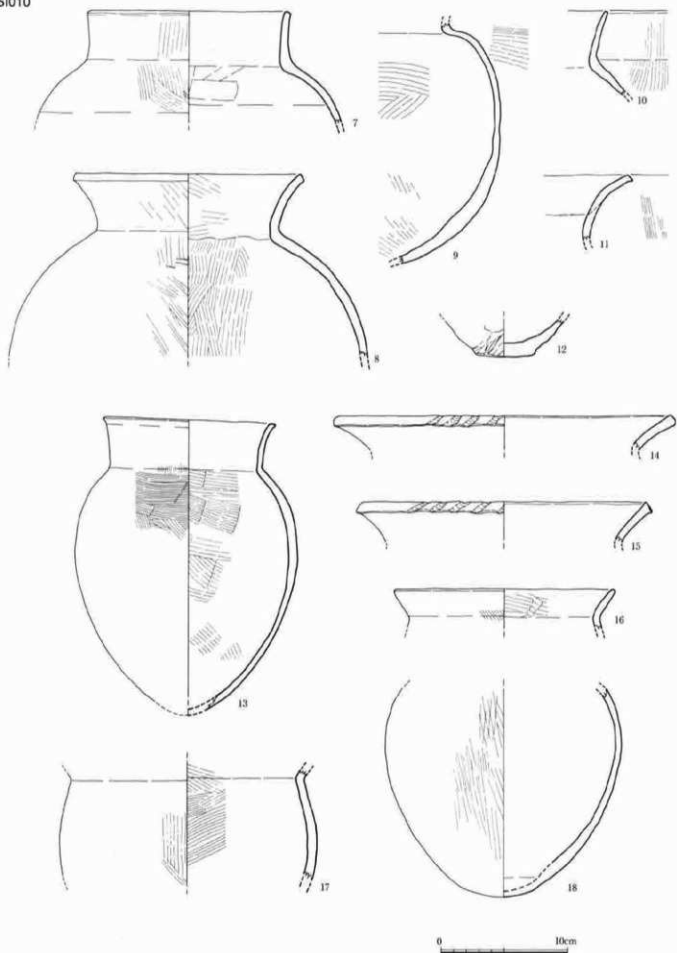


Fig.46 SI010出土遺物実測図① (1/3)

SI010

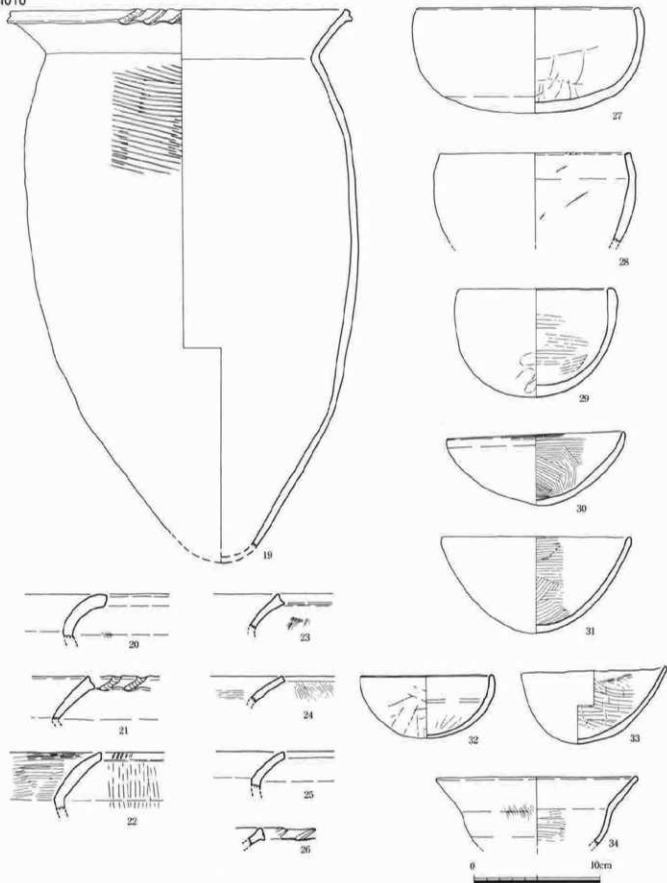


Fig.47 SI010出土遺物実測図② (1/3)

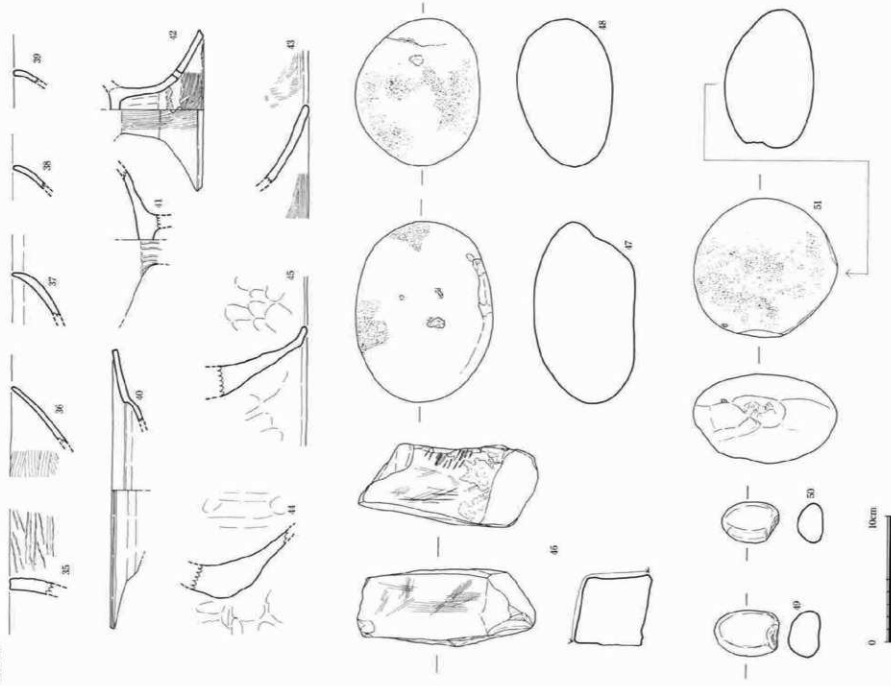


Fig.48 S1010出土遺物実測図③ (1/3)

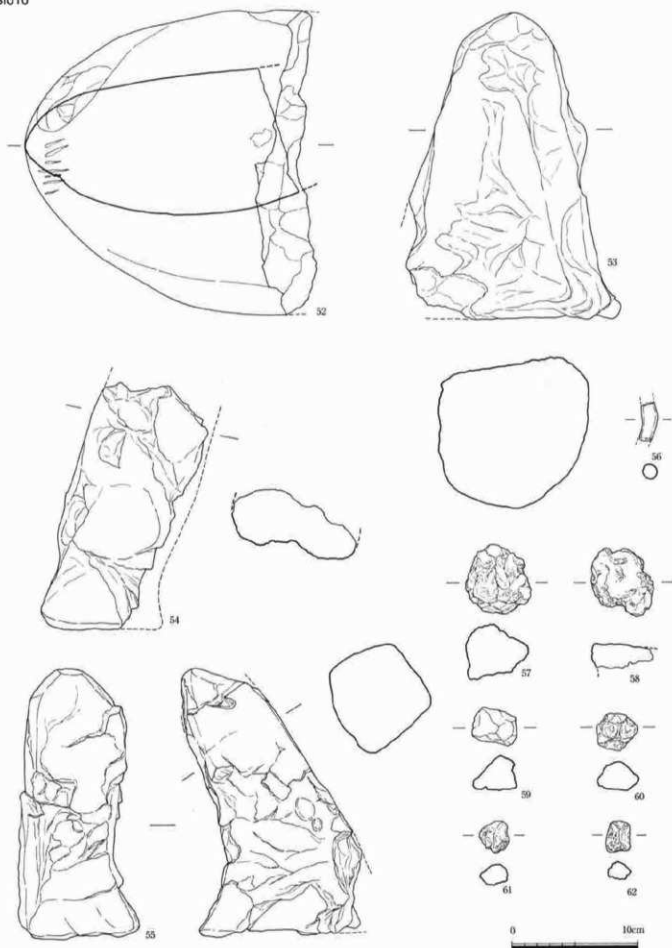
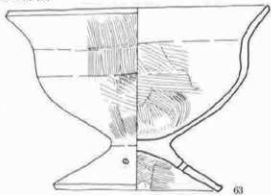


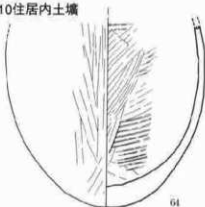
Fig.49 SI010出土遺物実測図④ (1/3)

SI010床面



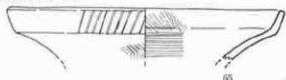
63

SI010住居内土壌



64

SI010カクラン



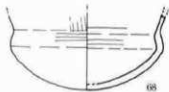
65



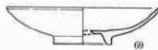
66



67



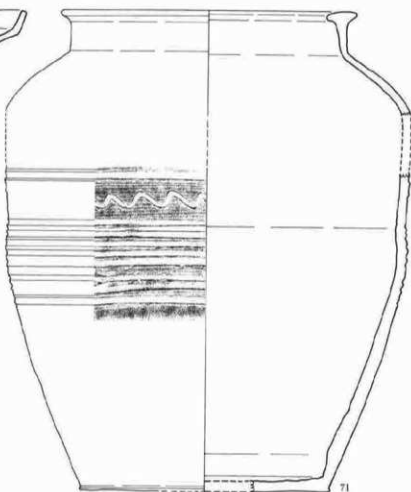
68



69



70



71



72



73



Fig.50 SI010出土遺物実測図⑤ (1/3) 石製品 (1/2)

鉢型土器 (67~68) 67は丸底で内厚である。口唇部が工具により平坦に面取りされている。外面は指頭痕が残り、内面は不定方向に丁寧にナデられる。68はく字口縁の丸底の鉢で、外面は体部の屈曲まで横方向にナデかミガキのような調整を施し、体部屈曲下から底部が不定方向にナデが入る。内面は横方向に丁寧にナデが施される。

陶器 (69~71) 69は陶器の皿で、高台外面から旋軸され見込み部分をカキ取る。胎土は灰色を呈し、透明に近い釉がかかる。70は底部糸切りで口縁付近に油煙が付く。71は陶器の中型甕で口縁は内外に突出し、外面には波状文と沈線が巡る。内面には格子の明き後ナデ消す。

石製品 (72~73) 共に砥石で72は砂岩製で1面が磨削しているが残りの面は全て使用している。73は砂岩製で4面の使用が認められる。

S1025 (Fig. 51~53, Pl. 42~44)

壺型土器 (74~78) 74, 75, 76は丸底で口縁が直に立つ壺で内外面ともにハケ目で、黒灰が残る。75の内面は底部から時計回りに丁寧にハケ目を施す。76は口唇部に沈線が巡る。78は口縁片で口縁端部に刻み目、口唇部に櫛目に近い文様が入る。

甕型土器 (79~84) 79は内外面ともにハケ目。80は外面ハケ目後ナデ、内面はハケ目、口唇部に沈線が巡る。81は副長の甕で、外面にタタキ、内面にハケ目を施す。82は副長で尖り気味の底部で、体部外面上半をタタキ、下半はハケ目、内面はハケ目を施す。外面に黒灰が残る。83, 84は底部片で83は尖り気味の丸底で、外面をケズリに近い工具による強いナデが入り、内面も工具によるナデが施される。84は凸レンズ状の底部で内外面ともにハケ目である。

鉢型土器 (85~91) 85から87は口縁がく字になる鉢で、85は口唇部に沈線が入り、内外面ともにハケ目である。86は口縁外部面に横方向のハケ目を施す。87はハケ目後、ナデを施す。88は口唇部を平坦に面取りした歪れのない鉢で、内外面を斜めにハケ目を施す。89は内厚で粗雑なつくりの鉢で、外面は焼成時にひび割れをおこしている。底部外面はケズリとも捉えられる強い工具痕が残る。内面はハケ目である。90, 91はミニチュアの鉢である。

高杯型土器 (92~93) 92は杯部で口縁部が大きく開き、鉢の可能性がある。調整は磨耗のため不明。93は脚部で1/3残存の1ヶ所に穿孔が残る。

支脚型土器 (94~95) 94は小型の支脚で天井部が傾斜し、全面ナデを施す。95は天井部が傾斜し、体部外面にはほろほろナデが施される。

器台型土器 (96) 脚部片で、外面はタタキ後ナデを施す。内面はハケ目。根端部が内側に踏込み張り、平坦に仕上げる。

土製品 (97) 土製の柄杓で杯部が欠損する。柄杓部分に指頭痕が残る。杯部内面はハケ目を施す。

鉄製品 (98) 鉄製の鎌で、幅27cmの裏板を鋭角に折り曲げており、途中で破損している。着装時の木質等は認められなかった。

石製品 (99~101) 99, 100は花崗岩製の磨石と考えられ、中央部分に小さな窪みが残る。101は花崗岩製の砥石である。

S1030 (Fig. 54~55, Pl. 44~46)

壺型土器 (102~103) 102は平底の底部を有し、内外面共にハケ目で、内外面ともにハケ目、口縁部は横方向にナデを施す。胎土は小砂粒が多く粗い。103は小砂粒を殆ど含まない精選された胎土の小型甕で、外面は不定方向のナデ、内面は横方向にナデを施す。外面体部に黒灰が残る。

壺型土器 (104~113) 104は大型の甕で、頸部に断面三角形の突帯が張り付く。内外面ともにハケ目、口縁部は横方向にナデを施す。105から109は壺口縁部片で、105は内外面をハケ目、口唇部にもハケ目が残る。106は柄きから並の龍崎に入るが、内外面ともにハケ目、外面に黒灰が残る。焼成不良である。107は内面にハケ目を施され、外面は焼成不良のため不明。108は体部内外面に横方向のハケ目、口縁部は横方向のハケ目を施す。頸部から体部にかけて肉厚である。109は体部外面に横方向のハケ目、口縁内面は横方向のナデ、外面は焼成不良のため不明。頸部内側の縁は明瞭である。110は体部外面を縦方向のハケ目、内面を斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施す。111から113は底部片で

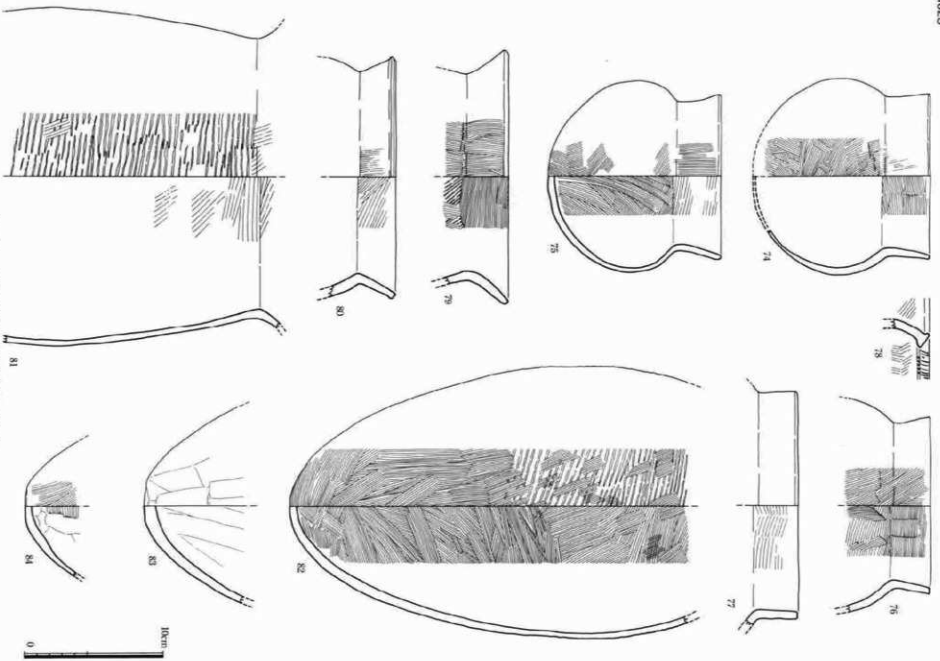


Fig. 51 SI025出土遺物実測図① (1/3)

SI025

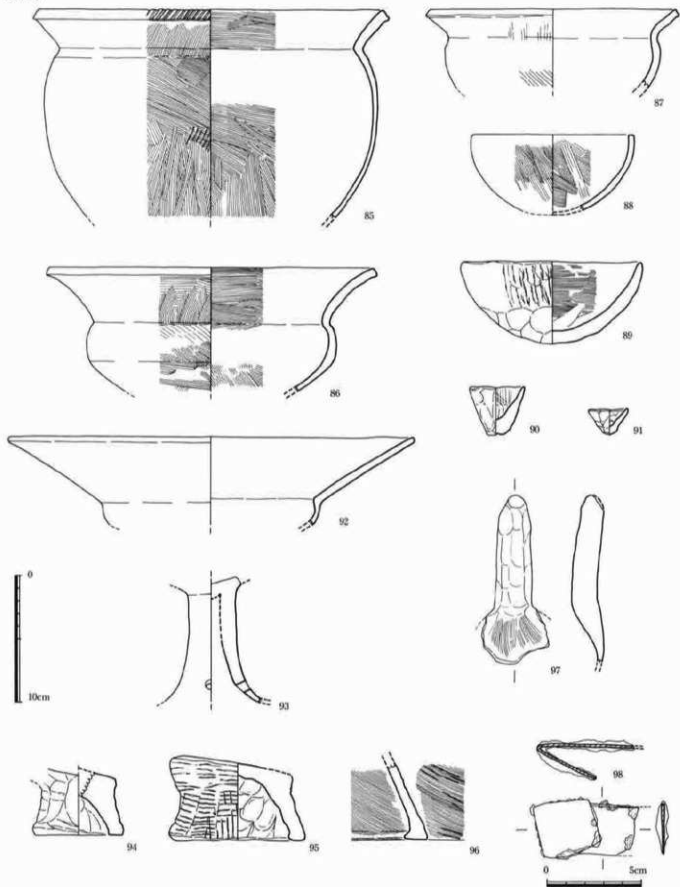


Fig.52 SI025出土遺物実測図② (1/3) 鉄製品 (1/2)

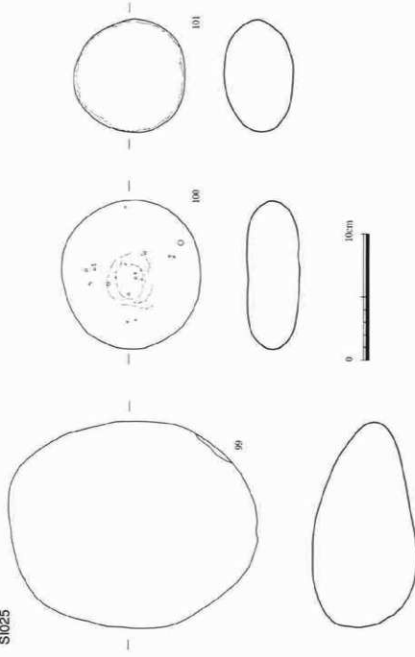


Fig.53 S1025出土遺物実測図③ (1/3)

111は内外面ともに内外面ともに縦方向のハケ目を施す。112、113は平底を呈し、小型である。112は内外面を不定方向のナデ、113は外面をハケ目、内面を不定方向にナデで調整する。114は菱(並)の体部片で、上部に断面三角形、下部に断面台形の夾帯が貼り付けられる。焼成不良で調整は不明。

鉢型土器 (115~119) 115、116は平底の鉢で115は外面底部までハケ目、内面は丁寧にナデが入る。焼成は良好で、小砂粒が比較的多く入る。116はほぼ完形で、全体的に黒灰色を呈し、外面に縦方向のハケ目、内面は不定方向にナデを施す。口唇部に沈痂が約2/3固する。117は体部外面ををハケ目、内面を縦方向にナデが入り、口縁部は縦方向にナデする。内外面に黒斑が残る。118は精選された胎土で器壁が薄い丸底になる鉢である。体部外面下半にハケ目後、ナデ調整され、口縁部は横方向にナデが入る。内面は丁寧にナデを施す。119は小型の鉢で平底を呈し、外面はミガキに近い縦方向の工具痕が残る。内面は不定方向にナデを施す。

支脚型土器 (120~123) 120は体部から口縁部が直に立ち、121は裾部が直に踏ん張る。外面には指頭痕が残る。122、123は器台に近く、裾部が開き、122は外面を縦方向のハケ目、内面を縦方向のナデで裾端部を横方向にナデで調整する。123は肉厚で外面は縦方向のハケ目、内面は縦方向にナデ、裾端部を横方向にナデする。

石製品 (124~127) 124は砂岩製の砥石で1面のみの使用痕が残る。125、126は花崗岩製の小型の磨石である。127は結晶片岩製の石包丁で半分が欠損している。継穴間の芯々距離は約2.5cm、背までは0.9cmである。

S1035 (Fig.56, Pl.46)

壺型土器 (128~130) 128は底部が尖り気味になる丸底で、内外面にハケ目が施され、黒斑が残る。129はレンズ状の底部で、胎土に小砂粒を多く含む、焼成不良のため調整は不明。130は二重口縁壺の口縁部片で接合面から剥離している。内面に横方向のハケ目を施す。

壺型土器 (131~133) 131は頸部内側の縁が明瞭で、体部外面中位にタタキ後、縦方向のハケ目を施し、口縁外面は斜め方向にハケ目が入る。体部内面は斜め方向にハケ目、口縁内面には横方向のナデを施す。2ヶ所に黒斑が残る。内外面とも淡黄褐色を呈する。

SI030

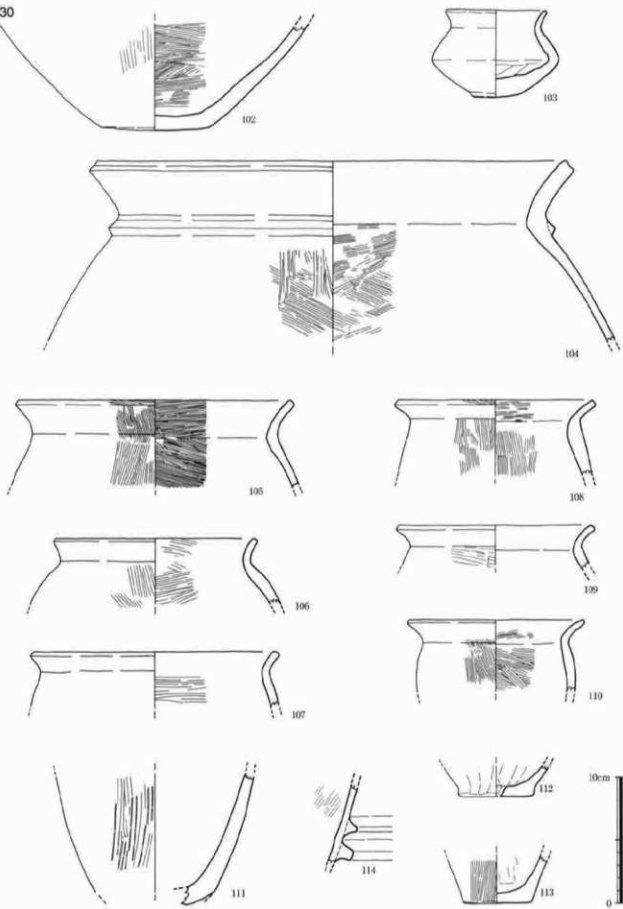


Fig.54 SI030出土遺物実測図① (1/3)

S1030

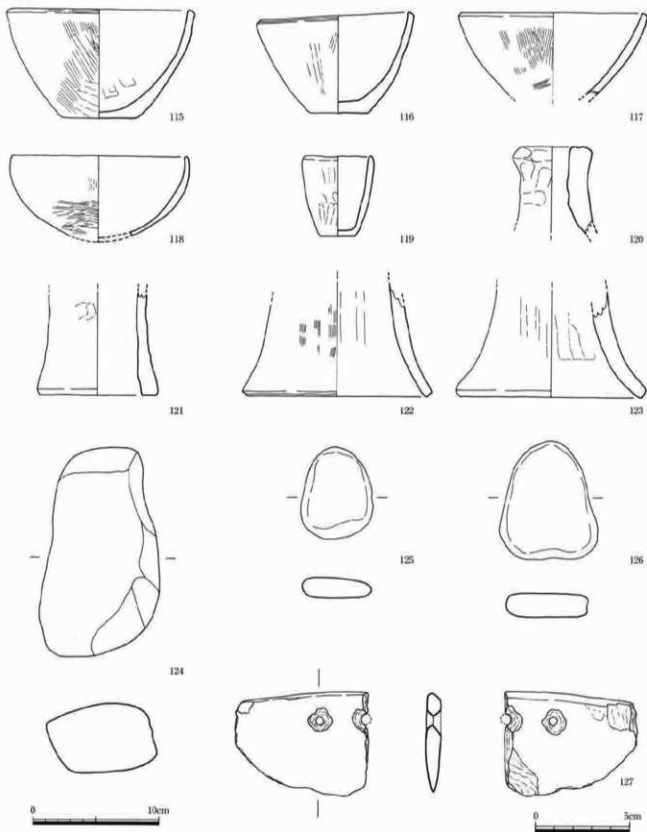


Fig.55 S1030出土遺物実測図② (1/3) 石包丁 (1/2)

SI035

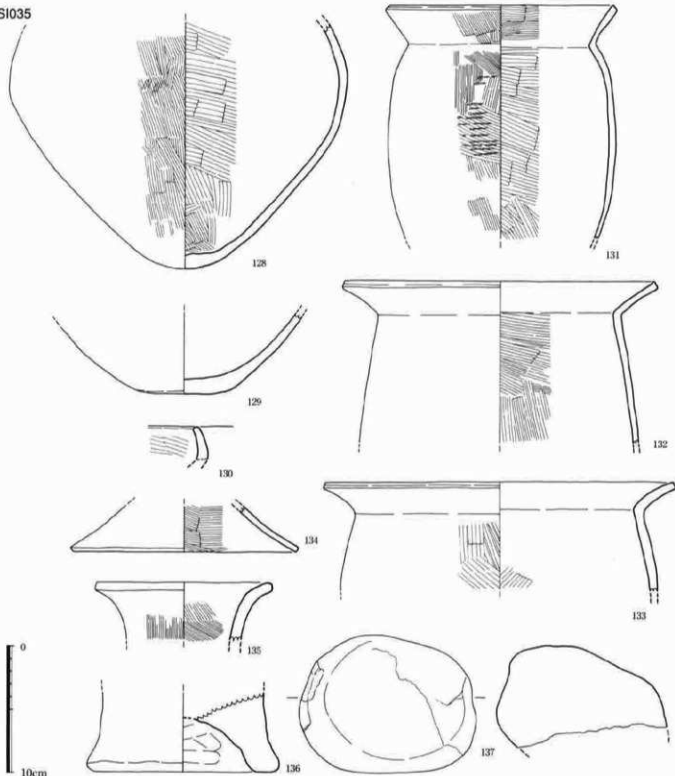


Fig.56 SI035出土遺物実測図③ (1/3)

132は頸部屈曲が明瞭な甕で、外面は磨耗のため調整は不明。内面はハケ目が入る。口唇部に浅い沈線が巡る。133は外面にハケ目、内面にナデを施す。焼成は不良である。

高坏型土器 (134) 外面は縦方向のナデ、内面はハケ目を施す。胎土はよく精選されている。焼成は不良で外面は明橙茶色、内面は淡黄褐色を呈する。

器台型土器 (135) 口縁部片で、内外面ともにハケ目を施す。胎土には小砂粒が多く入り、焼成は不良。
支脚型土器 (136) 粗雑な作りで厚みのある支脚で胎土は精選されており、植物痕が看取できる。内外面にナデを施す。焼成は不良で内外面ともに明赤褐色を呈する。

石製品 (137) 不明石製品で叩き石等の類か。

SI050 (Fig.57, Pl.47)

壺型土器 (138) 複合口縁壺で、口縁が内側に屈曲する。外面は縦方向のハケ目、口縁端部外面は横方向のナデ、内面はハケ目、口縁端部内側は横方向にナデが入る。焼成は良好で、淡黄灰色を呈する。

甕型土器 (139) 口縁屈曲下に稜が入り、胴部が張らない甕で、体部外面はハケ目、内面は縦方向にハケ目が入る。全体的に焼成が不良で調整が不鮮明である。

器台型土器 (140) 肉厚で体部外面に縦方向の強い工具痕が残る。内面は縦方向のハケ目を施す。

SI070 (Fig.57~58, Pl.47, 48)

壺型土器 (141) 底部片で、丸底を呈する。胎土に小砂粒が多く入り、内外面ともにハケ目が施される。

甕型土器 (142~147) 142は体部外面にタタキが残り、口縁部は縦方向のハケ目が入る。体部内面はハケ目が施される。淡黄褐色を呈する。143は体部外面に縦方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施す。比較的薄い器壁で、淡茶褐色を呈する。144は外面口縁付近まで縦方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施し、淡黄褐色を呈し、外面に黒斑が残る。145は口縁部屈曲が明瞭で、外面の口縁一部にまでタタキが入り、内面はナデを施す。焼成はやや不良で淡黄灰色を呈する。146は口縁小片で、口縁外面ナデ、内面は横方向のハケ目を施す。147は丸底で内外面ともにハケ目を施す。

鉢型土器 (148~152) 148は体部外面にタタキに似た工具痕が残り、ナデ消している。内面は横方向のナデを施す。149はく字口縁をもつ鉢で、口縁屈曲が明瞭である。調整は磨耗のため不明。150はく字口縁の鉢で、体部外面は口縁部までハケ目、底部に近い部分でハケのような工具痕が残る。内面はハケ目を施す。内外面に黒斑が残る。152は口縁部が直に立つ小型の丸底(壺)で、外面底部から体部の屈曲までをヘラケズリに近い工具痕が残り、体部の屈曲から頸部にかけて斜め方向のハケ目、口縁部は縦方向のハケ目後、横方向にナデを施す。内面はハケ目である。

高坏型土器 (153~154) 153は脚部片で磨耗が著しいため調整は不明であるが、胎土は精選されている。154は脚部片で内外面ともにハケ目を施す。

土製品 (155~156) 共にメノコ状土製品で甕片である。

SI070床面 (Fig.58, Pl.48)

壺型土器 (157~158) 157は外面屈曲下半は不定方向のハケ目、内面はナデ、口縁内外面は横方向のナデ。158は口縁が直に近い立ち上がりをもつ甕で器壁が薄い。焼成不良で調整は不明。

SI070住居内土壌 (Fig.58, Pl.48)

甕型土器 (159) 甕小片で、口縁屈曲が明瞭である。磨耗のため調整は体部外面にハケ目が看取できるのみである。小砂粒を若干含み、淡黄褐色を呈する。

鉢型土器 (160~162) 160は口縁を端部を内湾させ、体部外面から底部にかけてミガキ、ケズリとも捉えられる工具痕が残る。内面はハケ目後、ナデで仕上げる。161は小型の鉢で、体部外面にケズリのような工具痕が残り、口縁内外面は横方向にナデを施す。162はミニチュアの鉢で外面をハケ目、内面をナデで調整する。

SI075 (Fig.58~59, Pl.48~50)

壺型土器 (163~168) 163は体部外面をハケ目、内面を斜め方向のハケ目、口縁外面は縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目を施す。165は底部が凸レンズ状を呈し、体部外面縦方向のハケ目、内面はハケ目、底部はナデで調整する。164は無頸壺で口縁が内側に入る。体部内外面をハケ目、口縁内外面を横方向にナデする。166は丸底の壺で、球形を呈する。外面は内外面ともにハケ目を施す。167、168はく字口縁の壺で胴部最大径部分に縦方向のハケ目、体部下位に横方向のミガキが入る。内面上位は横方向のハケ目、下半に不定方向のハケ目を施す。2点は同一個体の可能性があるが接合面がない為、あえて

別図にしている。

堯型土器 (169~175) 169は外面を斜め方向のハケ目、内面は横方向のハケ目。170は外面ハケ目、内面はナデ。171は口縁端部を内側に積み上げる。外面は縦方向のハケ目後、横方向のナデ、内面は横方向のハケ目を施す。172は口縁部屈曲が明瞭で体部外面ハケ目、内面は不定方向のナデ、口縁外面は縦方向のハケ目後、横方向のナデを施す。173は体部内外面にハケ目を施す。174は胴部片で内外面ともにハケ目を施す。175は底部片で丸底を呈するものと考えられ、内外面ともにハケ目を施す。

鉢型土器 (176~186) 176から179は丸底の鉢で、176は体部外面が焼成時にひび割れしている。内外面共にナデ調整。177は内面をナデ、外面は磨耗により不明。178は体部外面から底部をケズリを施したような工具痕が残り、内面はナデを施す。坏の範疇に入れてよいのではないか。179は尖り気味の底部を有する鉢で、底部外面から体部の一部分にケズリのような工具痕が残り、内面はハケ目後、ナデが入る。180は底部が厚く、体部外面は焼成時にひび割れをおこしている。体部下半から底部にかけて、ケズリのような工具痕が残る。内面は不定方向のナデ。181は大ぶりの鉢で、口縁部が肉厚で口唇部を平坦に仕上げる。内外面ともにハケ目、外面に黒斑が残る。182、183は壺とも捉えられる小片である。外面は縦方向のハケ目、内面は口縁部が横方向のハケ目、体部がナデである。184は無頸の甕で体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。体部内外面ハケ目、口縁部は横方向のナデが入り、外面には黒斑が残る。185はく字に開く鉢で、脚付きの可能性がある。内面をナデ、外面は磨耗のため不明。186は小型の鉢で、口縁部を外側に積み出す。焼成不良で磨耗のため調整は不明。

高坏型土器 (187~189) 187は外面を刷毛目を施す。188、189は脚部で188は内外面ともにハケ目を施す。189は2ヶ所に穿孔が施され、欠損部分を復元すると4ヶ所の穿孔が想定される。内外面ともにハケ目、焼成は不良である。

土製品 (190~191) 不明粘土塊で、190は精選された胎土で淡黄褐色を呈する。191は淡黄褐色である。
SI080 (Fig.60, Pl.50)

壺型土器 (193~194) 口縁がく字に開く壺で、口唇部に刻み目を施す。外面はハケ目、内面はナデを施す。194は口縁が直に近い立ち上がりの壺で、体部内外面はケズリに近い工具痕が残る。口縁部は内外面共に横方向のナデを施す。

鉢型土器 (195~201) 195は完形の平底鉢で、全体的に黒灰色を呈し固く焼き締まっている。外面はハケ目であるが、底部付近にケズリが入る。内面は丁寧なナデを施す。196から201はほぼ完形の丸底鉢で、196、197、198は焼成時のひび割れが残る。196外面を不定方向のハケ目、内面はコテ当てのような工具によるナデが残り、底部には黒斑が残る。197、198は体部下半から底部にかけてケズリが入り、内面は不定方向のナデを施す。200の外面はハケ目後、ナデ消している。斜め方向のハケ目を施す。199、201は薄いつくりで、内外面をハケ目で仕上げている。共に土師器坏の範疇に入るものである。

SI080柱穴 (Fig.60, Pl.51)

堯型土器 (203) 口縁部小片で、内外面ともに横方向のナデ。淡茶褐色を呈する。

鉢型土器 (202) 小型のく字口縁になる鉢で、内外面ともにハケ目で淡黄褐色を呈する。

SI080第1床面 (Fig.60, Pl.51)

堯型土器 (204) 平底の甕で、内外面ともにハケ目。外面は淡茶黒色、内面は淡茶褐色を呈する。

鉢型土器 (205) ミニチュアの鉢で皿に近い。内外面に指頭痕が残り、ナデで調整する。黒斑が残る。

SI080第2下床面 (Fig.60, Pl.51)

壺型土器 (206) 193に近似した壺で内外面にハケ目を施す。口唇部に刻み目を有する。

石製品 (207~208) 207は不明石製品で磨石の類か。208は黒曜石製の剥片鏃で抉り部分を丁寧にする。

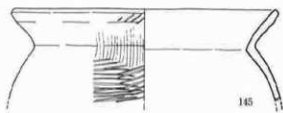
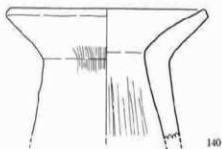
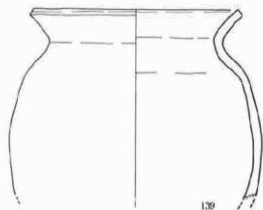
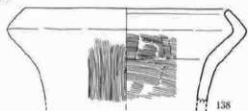
SI080住居内土壌 (Fig.60, Pl.51)

鉢型土器 (209) 小片であるが、体部外面に横方向のケズリが入り、口縁は斜め方向のハケ目、内面は横方向にナデを施す。

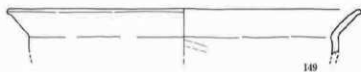
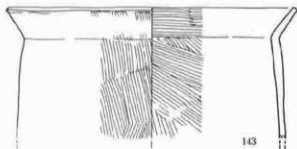
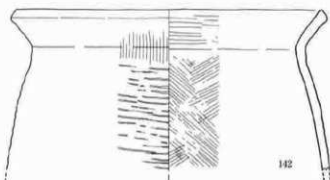
石製品 (210) 210は不明石製品で磨石の類か。

土製品 (211) 不明土製品で、棒状のもので穿孔されたような痕跡が残る。

SI050



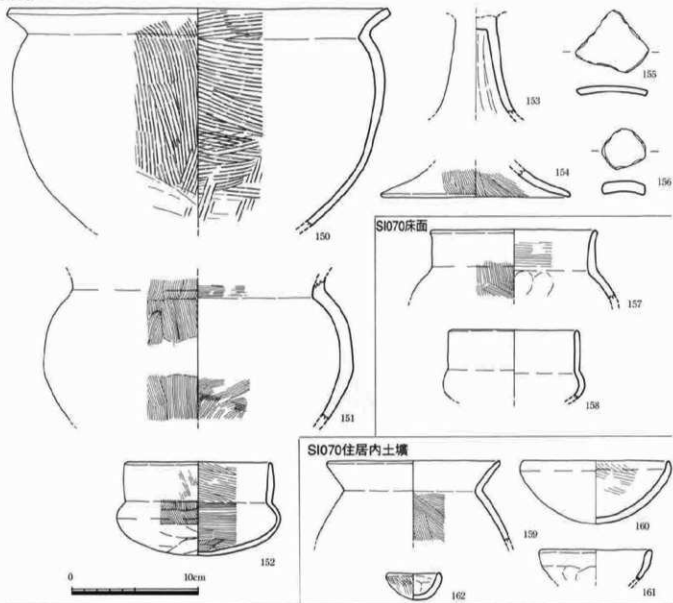
SI070



0 10cm

Fig.57 SI050・070出土遺物実測図① (1/3)

SI070



SI075

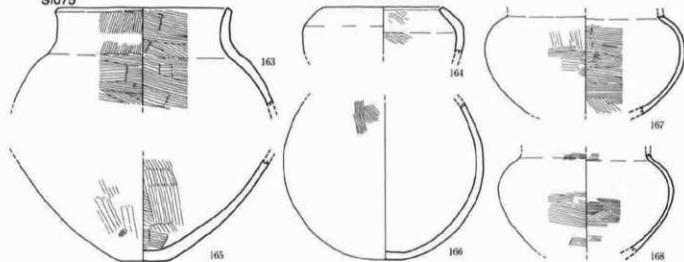


Fig.58 SI070・075出土遺物実測図② (1/3)

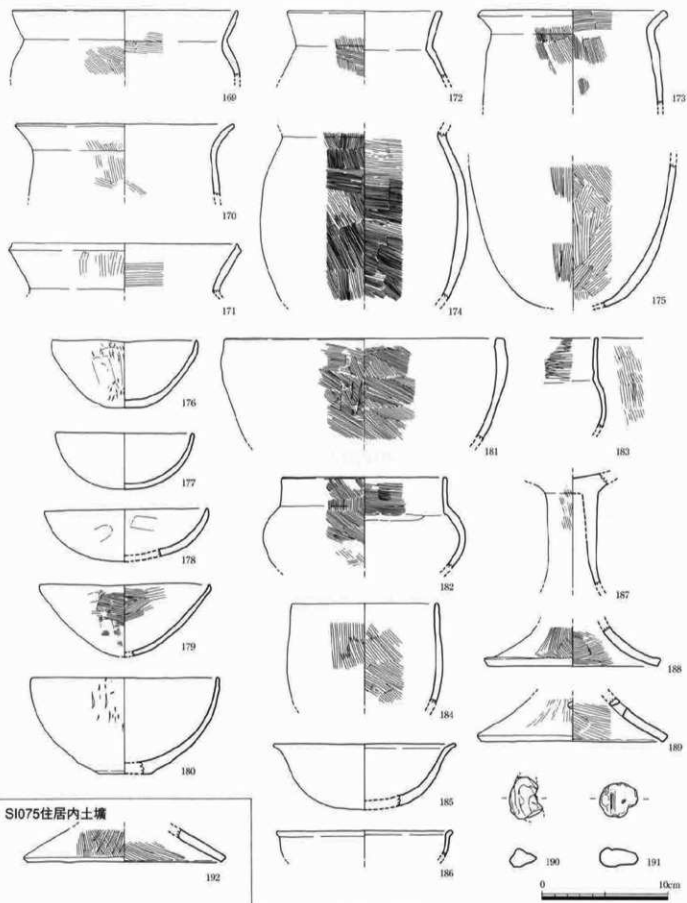
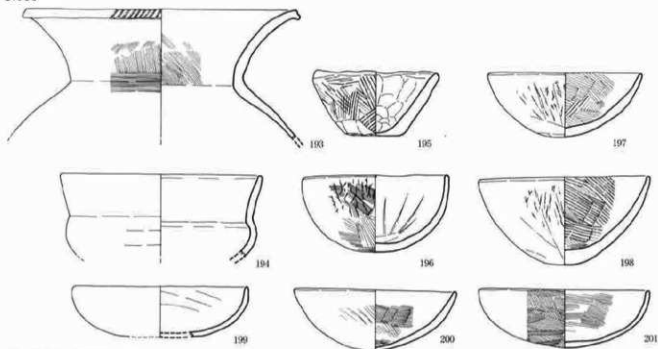
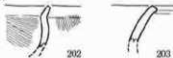


Fig.59 SI075出土遺物実測図③ (1/3)

SI080



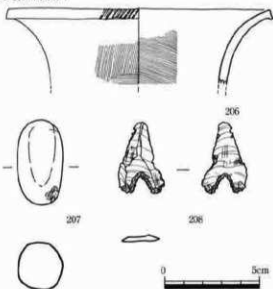
SI080 柱穴



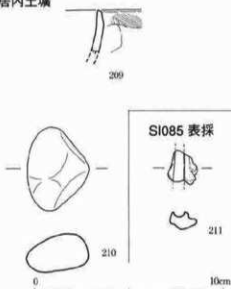
SI080 第1床面下



SI080 第2床面下



SI085 住居内土塊



SI095

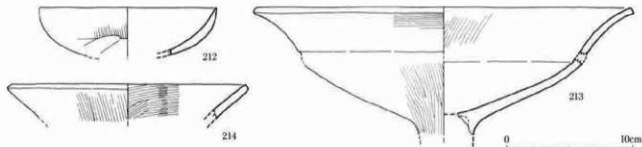


Fig.60 SI080・085・095出土遺物実測図 (1/3) 石製品・土製品 (1/2)

SI095 (Fig. 60, Pl. 51)

鉢型土器 (212) 胎土がよく精選されており、外面は底部ケズリ、体部ハケ目、口縁横方向のナズ、内面は横方向のナズで調整する。焼成は良好で淡茶褐色を呈する。

高坏型土器 (213) 口縁部が屈曲し外反する高坏で、坏部外面は縦方向のハケ目、内面はナズを施す。

器台型土器 (214) 口縁部片で外面はハケ目後、ナズ、内面は横方向にナズを施す。

SI100 (Fig. 61, Pl. 51, 52)

変型土器 (215~217) 215は頸部が若干縮まる型で、体部内外面をハケ目、口縁内外面を横方向にナズで調整し、淡茶褐色を呈する。216は外面を縦方向のハケ目、体部内面を斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を施す。217は口縁部が明瞭で、体部外面を縦方向のハケ目、口縁は横方向のナズ、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を丁寧に施す。

鉢型土器 (218~219) 218は外面に指頭痕が残り、ナズを施し、内面は不定方向にナズ、口縁内外面は横方向のナズを施す。内面に黒度が残る。219は平底の鉢で口縁が歪んでいる。淡黒灰色を呈し固く焼き縮まり、体部外面屈曲下下に工具痕が残る、全体的にナズを施す。内面はハケ目後、ナズを施している。

SI105 (Fig. 61~62, Pl. 52)

変型土器 (222~223) 222は底部片で平底を呈す。体部内外面にハケ目を施す。底部内外面はナズを施す。223は底部片で平底を呈する。内外面ともにハケ目を施す。

変型土器 (220~221) 220、221は同一側面と考えられるが接合面がない為、別図にしている。口縁屈曲の痕は明瞭である。体部外面を縦方向のハケ目、口縁は横方向のナズ、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を施す。

鉢型土器 (224) 平底の鉢で、内外面底部にまでハケ目を施す。底部外面に黒度が残る。

高坏型土器 (225) 坏部片で口縁が屈曲し外反して、口縁頸部で更に外反する。内面に横方向のミガキ、外面には波状の暗文と横方向のミガキを施し、淡茶褐色を呈する。

器台型土器 (226) ミニチュアの器台で、内外面を縦方向にナズを施す。

石製品 (227~230) 227は頁岩製の石剣で切先部を欠損する。研ぎの方向に筋が出ており、基部を折損した後に2次加工をして再利用している。残存長約1.1cm、幅3.2cm、厚さ0.7cmを測り、2本の筋は明瞭で、丁寧に作りである。228はサヌカイト製の石鏃である。229、230は不明石製品で磨石の類か。

SI105床面 (Fig. 62, Pl. 53)

石製品 (231) 緑泥片岩である。

SI105住居内土壌 (Fig. 62, Pl. 53)

鉢型土器 (232) ほぼ球形の鉢で、外面をハケ目、内面の口縁部を横方向のナズ、底部から体部にかけてを不定方向のナズを施す。焼成良好で淡茶黒色を呈する。外面に黒度が残る。

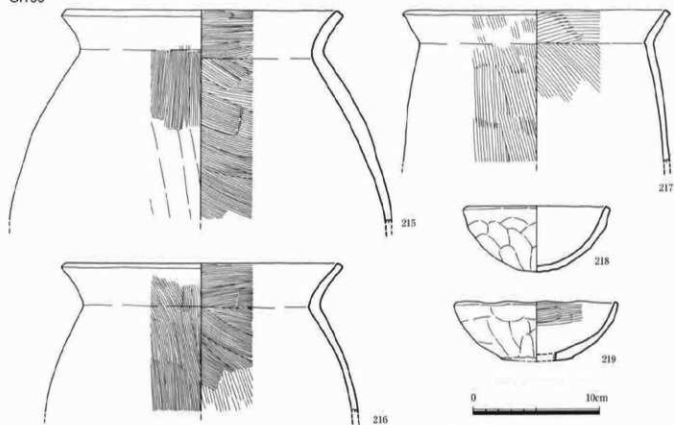
変型土器 (233) 口縁部が若干欠けた型で、平底を呈する。体部外面を縦方向のケズリ、底部をケズリ、口縁部にナズを施す。内面は縦方向に工具痕が残る、口縁部は横方向のハケ目を施す。固く焼き縮まり、黒灰色を呈する。

石製品 (234) 不明石製品で磨石の類か。

SI105床下 (Fig. 62, Pl. 53)

石製品 (235) サヌカイト製の石鏃で、切先部を欠損する。粗い作りで胴部が退化している。

SI100



SI105

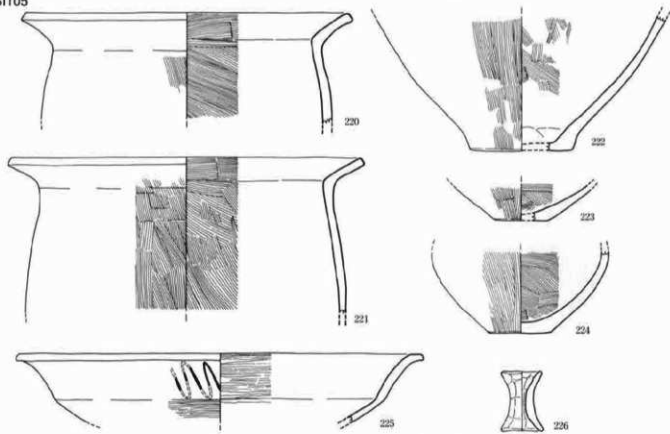


Fig.61 SI100・105出土遺物実測図① (1/3)

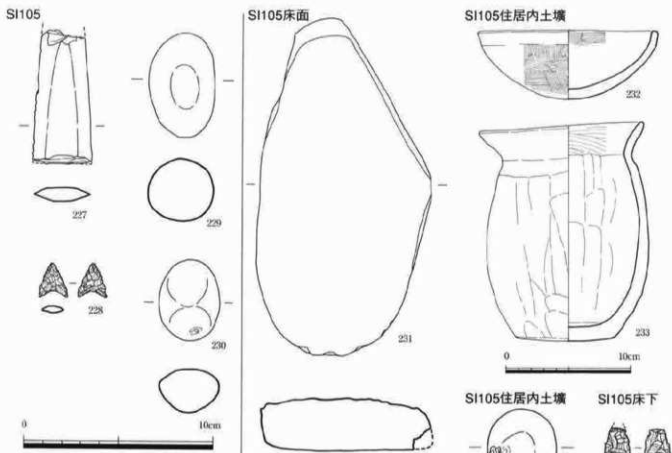


Fig.62 SI105出土遺物実測図② (1/3)

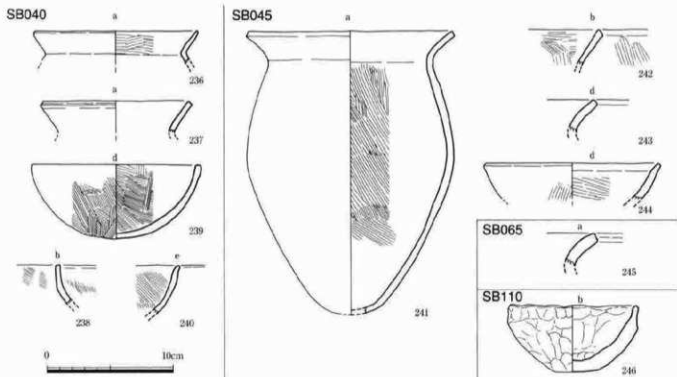


Fig.63 掘立柱建物出土遺物実測図 (1/3)

SB040 (Fig. 63, Pl. 53)

ビット a (略測図No. S-66)

変型土器 (236~237) 236、237ともに小型の甕で、236は口縁部内面は横方向のハケ目、外面は横方向のナデを施す。口縁外面の様は明瞭である。237は内外面ともに横方向のナデを施す。

ビット b (略測図No. S-61)

変型土器 (238) 内外面にハケ目を施す薄手のつくりである。内外面ともに淡黄褐色である。

ビット d (略測図No. S-63)

鉢型土器 (239) 体部内外面を不定方向のハケ目を施し、口縁内外面は横方向のハケ目を施す。

ビット e (略測図No. S-64)

鉢型土器 (240) 内面にハケ目を施し、磨耗のため外面の調整は不明である。

SB045 (Fig. 63, Pl. 53, 54)

ビット a (略測図No. S-42)

変型土器 (241) 口縁部と底部の破片資料で、尖り気味の丸底を呈する。外面は底部から体部中位までケズリ、口縁は横方向のナデ、内面は体部が不定方向のハケ目、口縁部は横方向のナデを施す。

ビット b (略測図No. S-41)

変型土器 (242) 外面を縦方向のハケ目、内面を横方向のハケ目を施す。口唇部に工具による段が入る。

ビット d (略測図No. S-77)

変型土器 (243) 磨耗が著しく内外面ともに調整は不明。

鉢型土器 (244) 体部が内湾し、口縁部で若干外反する。磨耗が著しく調整は不明。

SB065 (Fig. 63, Pl. 54)

ビット a (略測図No. S-68)

変型土器 (245) 外面を横方向にナデ、内面は磨耗が著しいため不明。

SB110 (Fig. 63, Pl. 54)

ビット b (略測図No. S-48)

鉢型土器 (246) ほぼ完形の鉢で、凸レンズ状の底部を呈し、外面は指面痕と焼成時のひび割れが残り、内面は不定方向のナデを施す。内面が暗黄褐色を呈し、外面は淡黄褐色を呈する。

SX005

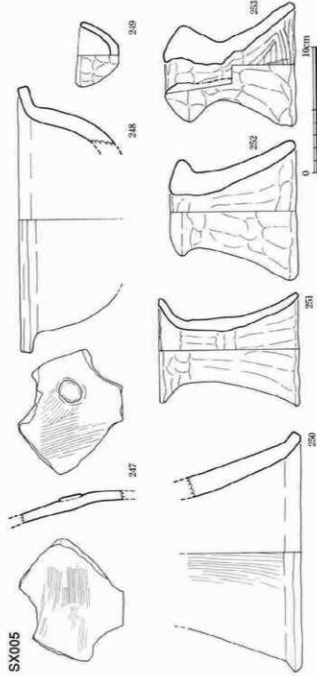


Fig. 64 SX005出土遺物実測図 (1/3)

SX005 (Fig. 64, Pl. 54)

壺型土器 (247) 胴部片と考えられ、外面にボタン状の粘土を貼り付けている。胎土は3mm程度の小砂粒を多く含む、内外面に不定方向のハケ目を施す。

鉢型土器 (248~249) 248は土器内面が剥離しており、接合している。内外面ともに磨耗が著しく不明で、淡橙褐色を呈する。249はほぼ空形のミニチュアの鉢で、内外面ともにナデを施す。外面に黒斑が残る。丁寧なつくりである。

器台型土器 (250~251) 250は外面を縦方向のハケ目、内面をナデで仕上げている。裾端部の内外面は横方向のナデを施す。外面は淡灰茶色、内面は淡灰黒色を呈する。251は内外面を縦方向のナデ、口縁端部を平滑に仕上げた壺、粘土が内側に移動している。

支脚型土器 (252~253) 252、253ともに天井部に円形の穿孔があり、天井部をナデ、外面体部から裾部にかけて縦方向のナデ、内面は横方向のハケ目に近い工具痕が残る。253は定形である。

SX011 (Fig. 65, Pl. 55)

磁器 (254) 白磁碗で、全面に青みがかった釉をかけ、高台皿付が露胎。胎土はきめ細かく精良である。

SX022 (Fig. 65, Pl. 55)

土師器 (255) 鉢の口縁と考えられ、外面を縦方向の工具痕が残り、内面をヨコナデを施す。

SX036 (Fig. 65, Pl. 55)

鉢型土器 (256~257) 256は口縁部にかけて内湾する鉢で、外面は底部をケズリ後、ナデ、体部を斜め方向の工具痕、口縁部に横方向のナデを施す。内面には不定方向に工具によるナデが入る。丁寧な作りで薄い。257は脚付鉢の坏部片で、外面は体部を縦方向のハケ目、口縁部を横方向のナデ、内面は不定方向にナデ、口縁部は磨耗が著しいため不明。

SX047 (Fig. 65)

土師器 (258~259) 共に小皿で、体部内外面をヨコナデ、底部糸切りである。258は復元口径7.8cm、器高1.8cm、底径4.2cm、259は復元口径6.8cm、器高1.7cm、底径3.6cmである。

磁器 (260) 染付碗片で外面に文様を入れる。呉須はくすんだ青色を呈する。復元口径9.6cm。

SX072 (Fig. 65, Pl. 55)

壺型土器 (261) 器台の可能性があるが、外面は磨耗が著しいため不明、内面は横方向のナデ。鉢型土器 (262) 内外面に横方向のナデを施す。外面を淡橙褐色、内面は淡黄褐色を呈する。

SX074 (Fig. 65, Pl. 55)

土師器 (263) 口縁が外側に屈曲し、外面にスタンプが入るが磨耗が著しいため不明。内面は暗紫褐色の付着物が見られる。外面は淡橙褐色である。

陶器 (264) 碗片で、外面体部に淡黄紫褐色の釉がかかり、高台外面は露胎。内面には透明釉がかかり、見込みにカキ取りが見られる。

土製品 (265~266) 265は軒平瓦片で、内外面ともにナデを施し、淡橙褐色を呈し、焼成不良。266は棒状土製品で4面をナデで仕上げ、2次的に1面のみ火を受けており、灰物が融解した付着物が残る。

SX078 (Fig. 65)

壺型土器 (267~269) 267の外面は体部を縦方向のハケ目、口縁をナデ、内面の体部は横方向にナデ、口縁部は横方向のハケ目を施す。口唇部に沈線が通る。268、269は口縁外面をナデ、口縁内面を横方向のナデを施す。269は口唇部に浅い刻み目を有する。

鉢型土器 (270) 体部から口縁部にかけて内湾する鉢で、外面をハケ目、内面をナデで仕上げている。

SX083 (Fig. 66, Pl. 55~57)

磁器 (271) 白磁碗で粗製品である。全面施釉で、高台皿付をカキ取る。高台径4.4cmを測る。陶器 (272~274) 272は灯明皿で、内面と口縁外面に鉄釉、底部外面に白灰色の釉がかかり、口縁端部に黒が付着する。273は壺の底部片で内面と外面に施釉しており、高台内側をケズリ出している。胎土は小砂粒を含み粗い。274は湯鉢で、全面に暗紫黒色の釉を施す。胎土は若干小砂粒が混じるが精良である。

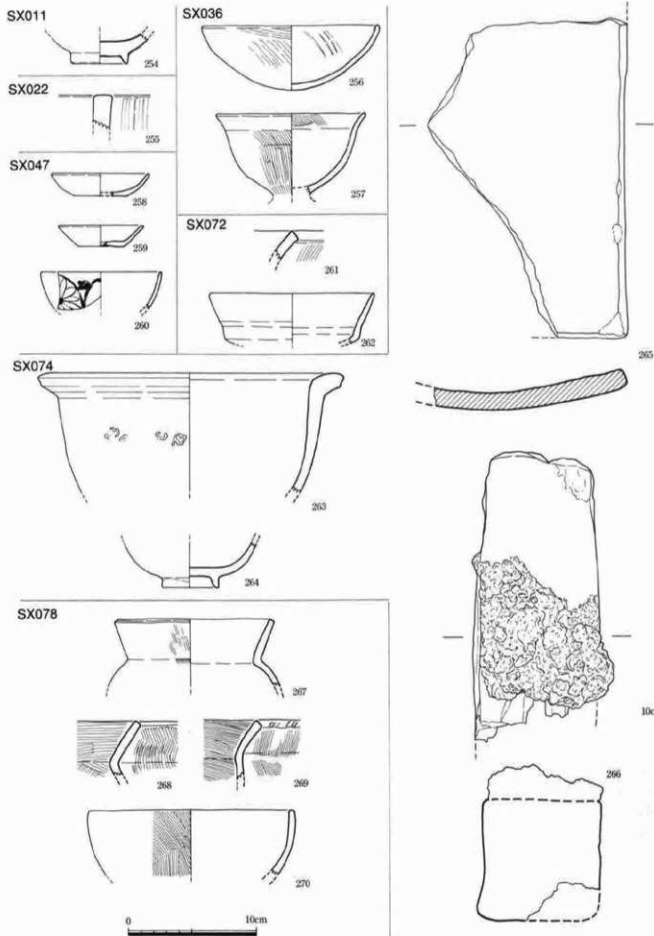
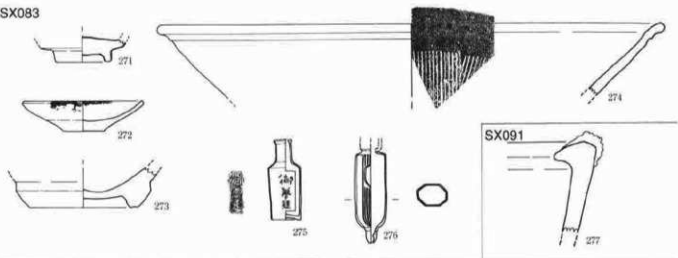


Fig.65 その他、不明遺構出土遺物実測図① (1/3)

SX083



SX092

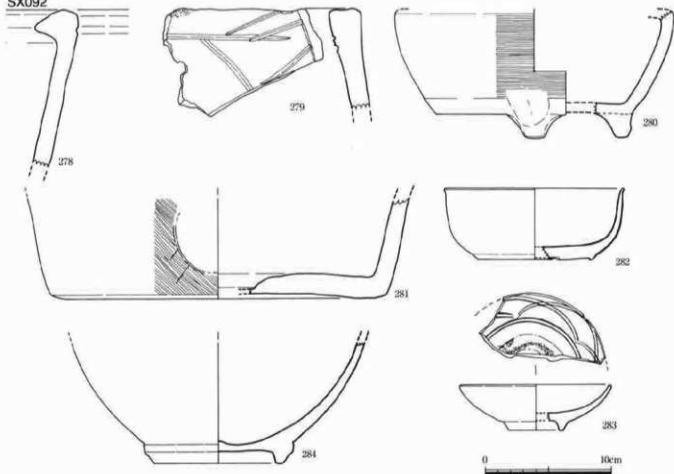


Fig.66 その他、不明遺構出土遺物実測図② (1/3)

ガラス製品 (275~276) 275は透明の化粧瓶か薬瓶と考えられ、体部に「御夢旭」若しくは「御夢想」の文字が浮き出される。276は青色の目薬瓶である。

SX091 (Fig.66, Pl.56)

土師器 (277) 火鉢と考えられ、口縁外面に棒状土製品と同様な付着物が見られ、全面に2次的に熱を受ける。

SX092 (Fig.66, 67, Pl.56)

土師器 (278~281) 278は鉢で、火鉢の一種か。内外面ともにナデで仕上げる。279は内面にヘラで沈線を描く。内面に277と同様の付着物が見られる。280は火鉢で体部内外面をヨコナデを施す。281は体

部外面を不定方向のナデ、内面にヨコナデを施す。体部に凹孔の一部が見られる。

磁器 (282~283) 282は白磁碗で、外面の高台内側を蛇の目に軸をカキ取る。胎土は精良で青みがかった透明軸をかける。283は染付碗で、内面に施文し、全面に白味がかった軸をかけ、内面見込み部分の軸をカキ取る。呉須はくすんだ青色を呈する。

陶器 (284) 甕にかなる可能性もあるが、高台以外に暗紫黒色の軸を施す。

土製品 (285~288) 棒状土製品で各面をナデで調整している。2次的に火を受けており、底物が融解した付着物が付く。小型から大型まで幾種類か存在している。

SX094 (Fig. 68, Pl. 57)

甕型土器 (289) 口唇部に刻み目を施し、外面は体部をタタキ後、斜め方向のハケ目、口縁部を縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目、口縁部は横方向にハケ目を施す。焼成良好で淡茶褐色である。

SX099 (Fig. 68~70, Pl. 57~59)

土器器 (290~291) 290は坏で、外面は底部を不定方向のナデ、体部から口縁部をはヨコナデ、内面は底部から体部にかけて不定方向のナデ、口縁部付近にヨコナデを施す。胎土がよく精製品である。291は土鍋で、口縁部は波状に仕上げ、その下に突帯を貼り付ける。外面は真黒に薬が付着しており調整は不明。内面はヨコナデを施す。

磁器 (292~310) 292は白磁皿で、口縁部を外反させ輪花状に挿み出す。全面施軸であるが、底部内面と高台接地面は軸をカキ取り、全面に貫入が入る。293から300は染付皿である。293は内面に丸文を入り、口縁部は波状に仕上げ、内面に砂目跡が残る。294は口縁部を玉縁状に仕上げ、内面に丸文を入ると竹、外面に菅草文様を描く。295は内面に丸文、外面に文様を描く。296は口縁部を蛇の目に軸をカキ取り、高台内面の軸をカキ取る。297は内面に丸文、外面に文様を描き、全面施軸。298は底部内面と高台接地面の軸をカキ取り、内面には緑灰色の呉須で3ヶ所残る。299は底部を蛇の目状に軸をカキ取り、底部内面は山水文を描き、重ね焼き跡が3ヶ所残る。300は内面に濃い青色の呉須で文様を入れ、外面には手書きの文が入る。301から307は染付碗である。301は小碗(坏)で外面にくすんだ青色の呉須で文様を入れ、高台接地面には砂目跡が残る。302はくわらんか碗で外面に文様を描くが緑青色を呈し不良である。内面に針文跡が残る。303はくわらんか碗で外面に文様を描き、透明に近い軸をかけるが全体的に灰色を呈する。304は広底碗で外面に文様を描き、高台端部は露胎する。305は乳白色の軸を施し、中央に二重斜格子の文様を描く。306は口縁部が若干外反する端反り碗で、内外面に文様を描く。307は外面と底部内面に文様を描く。308は湯呑碗でほぼ完形。外面に青黒色の文様を描く。309は筒茶碗で底部内面に附れた五弁花文を入れ、高台接地面には砂目跡が残る。310は蓋で内外面に文様を描く。311は皿で、内外面に黒茶褐色の軸をかけ、内面見込み部分を蛇の目に軸をカキ取る。高台は軸だれしているが、露胎である。ほぼ完形。322は透明に近い軸が施され、高台は露胎。323は小碗で、内外面に透明に近い軸が施される。底部は露胎。324は蓋の底部片で、内外面に暗紫黒色の軸が施される。325は指鉢で内外面に暗紫黒色の軸が全面に施される。

土製品 (311~318) 311から317は棒状土製品である。2次的に熱を受けており、赤褐色に変色し、底物が融解した付着物が付く。318は木田焼の素焼きの人形で、一部欠損しているが、ほぼ完形である。鉄製品 (319) 鋼製の簪で一部欠損しているがほぼ完形である。玉は水晶製である。

SX101 (Fig. 70, Pl. 60)

甕型土器 (326) 小型の甕で外面を縦方向のハケ目、内面を斜め方向のハケ目を施す。鉄彩土器 (327~328) 327はミニチュアの鉢で、内面に横方向のハケ目、外面はナデを施す。328は完形の鉢で2ヶ所に成型時の穿孔が見られる。外面は不定方向にハケ目を施し、内面はハケ目後、ナデを施す。外面に黒面が残る。

SX113 (Fig. 70, Pl. 60)

土製品 (329) 土製の有孔円盤で中央に穿孔があり、ほぼ完形である。

SX113 (Fig. 70, Pl. 60)

並彩土器 (330) 底部片で、平底を呈し、内面はナデ、外面は成型時の粗い調整が残る。

土製品 (331~332) 331、332は不明土製品で、331は端部に穿孔の痕跡が残る。調整は磨耗のため不明。332は右手で粘土を握っただけの成形で焼かれた土製品で一部に欠損が見られる。

SX117 (Fig.70, Pl.60)

変形土器 (333~334) 333は小型の甕で内面に粘土接合痕跡が残りハケ目を施し、外面は磨耗のため不明。334は甕ないしは鉢の底部片で外面は磨耗のため調整は不明、内面は工具によるナデの痕跡が残る。鉢形土器 (335~337) 335は手づくわの小型甕で、平底である。外面は全体的に指頭痕が残り、調整は内外面ともにナデである。336はミニチュアの鉢で、尖底である。337は小型の口縁がく字になる鉢片で内外面に指頭痕が残る。

石製品 (338) 砂岩製の砥石である。

茶褐色土 (Fig.70, Pl.60, 61) 遺構上面の包含層出土遺物である。

変形土器 (339~340) 339は凸レンズ状の底部片で外面は磨耗のため調整は不明、内面は縦方向の工具痕が残る。外面に黒班が残る、粘土には角閃石が入る。340は口縁部片で端部外面にに刻み目を施し、外面を横方向のナデ、内面はハケ目後、ナデを施す。粘土がよく精選されている。

変型土器 (342~345) 342は内外外面を不定方向のハケ目、外面に黒班が残る。343は外面をハケ目、内面はケズリに近い工具痕が残る。焼成不良である。344は体部内外面をハケ目、口縁部は内外面を横方向にナデを施す。345は口縁部外面を縦方向のナデ、内面を横方向のハケ目、口唇部に浅い刻み目を施す。体部は外面は斜め方向のハケ目、内面はナデを施す。

鉢形土器 (341) 口縁がく字になる鉢で、内面をナデ、外面は磨耗のため不明。

石製品 (346) 黒曜石製の石鏃で、先端と抉り部を欠損する。

攪乱出土遺物 (Fig.71~72, Pl.61~63) S番号は略測図番号である。

S-9

変形土器 (347) 複合口縁甕で、横方向のナデを施す。

鉢形土器 (348) 小型の口縁が若干内湾する鉢で、外面には指頭痕が残り、内面はナデである。

S-27

土師器 (349) 鉢の口縁部で外面に波状文が施される。内外面ともにヨコナデである。

磁器 (350) 染付碗で外面に斜格子の文様を描き、呉須は淡灰緑色で、透明に近い釉を施す。

陶器 (351) 片口鉢で全面施釉をするが、焼成不良である。

S-32

鉢形土器 (352) 外面は磨耗のため不明。内面は横方向のナデを施す。

S-34

変型土器 (353) 口縁部片で、内面を横方向のナデを施す。外面は磨耗のため不明。

S-76

鉢形土器 (354) く字口縁の鉢で外面を口縁近くまでタタキ後、ハケ目を施し、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面はナデを施す。

土師器 (355) 火鉢片で脚が欠損する。内外面をヨコナデ調整する。

磁器 (356) 染付皿で、内面に文様を描き、底部中央に五弁花文を入れ、透明に近い釉を施し、内面見込みの釉をカキ取る。

陶器 (357) 甕の口縁部で全面に鉄釉が施される。

S-79

土師器 (358) 坏片で、口縁内外面をヨコナデ、体部外面を不定方向にナデ、体部内面には工具によるナデの痕跡が残る、焼成良好。粘土がよく精選されたもので外面には黒班が残る。

S-93

変型土器 (359) 内外面ともに磨耗が著しいため調整は不明であるが、口唇部に浅い刻み目を有する。高坏形土器 (360~361) 短脚の高坏の脚部片で、内面をハケ目、外面はハケ目後、ナデ調整する。

S-102

鉢形土器 (362) く字口縁の鉢で、体部外面をハケ目、口縁内外面と体部内面はナデを施す。
支脚型土器 (363) 天井部が傾斜する支脚で、外面をタタキ後、ナデ、内面は縦方向にナデを施す。
磁器 (364~366) 364は染付皿片で内面に文様を描き、外面には針文えが削り取り残されず、そのまま残る。
365は内外面に施文される。366は仏具と考えられ、外面に丸文が描かれる。

陶器 (368~369) 368は褐釉で、内面見込みを蛇の目状に釉をカキ取る。高台は露胎。369は全面に灰釉を施し、褐釉を一部に施す。内面見込み部分の釉を蛇の目状にカキ取る。

S-103

磁器 (370) 染付碗で外面に草花文を描く。

陶器 (371~376) 371は不明製品で外面に暗褐色の釉が施される。372、373は長頸の瓶で372は褐色の釉がかけ残り、白色の釉で痰状に文様を描く。373は頸部から口縁にかけて鉄釉、体部は透明に近い釉がかかる。374から376は土瓶で374は外面に淡緑色の釉が施され、375、376は灰釉が施され底部には煤が付着する。

石製品 (377) 頁岩製の砥石で、表面に落書きのような痕跡が残る。

S-109

薬型土器 (378~379) 378は体部外面を縦方向のハケ目、内面を横方向のハケ目を施す。379は大型の甕で、口縁屈曲部に断面三角形の突起を貼る。口縁内外面を横方向のナデ、体部内外面をハケ目。

鉢形土器 (380) く字口縁の鉢で、体部外面を縦方向のハケ目、内面にナデを施す。

土製品 (381) 土製の玉で中央部に穿孔される。

表土出土遺物 (Fig. 72, Pl. 63) 調査区での表採遺物である。

鉢形土器 (382) 体部外面を縦方向のハケ目、内面は口縁までハケ目を施す。焼成不良。

器台形土器 (383) 天井部を強いハケ目が残り、体部外面は頸部から体部中位の下方方向にハケ目、裾部までを上方向にケズリに近い工具痕が残る。内面はハケ目後、ナデを施す。

土脚器 (384・389) 384は瓦質の土器片で、外面に「西郷村」の押し型が入る。内面はヨコナデ。389はサナデ穿孔が2ヶ所残る。

磁器 (385~387) 385は碗で、外面に緑青色の釉が全面に厚くかかる。386、387は染付皿で、386は内面に文様を描き、見込み部分の釉をカキ取る。387は無高台の皿で、内面に文様を描き、釉は淡緑白色の釉を施し、外面は淡白色の釉を施す。

陶器 (388) 底部糸切りの灯明皿で、内面から口縁外面にかけて茶褐色の釉が施される。口縁基部に油煙が残る。

土製品 (390) 土製の紡錘車と考えられ、中央に穿孔され、完形品である。

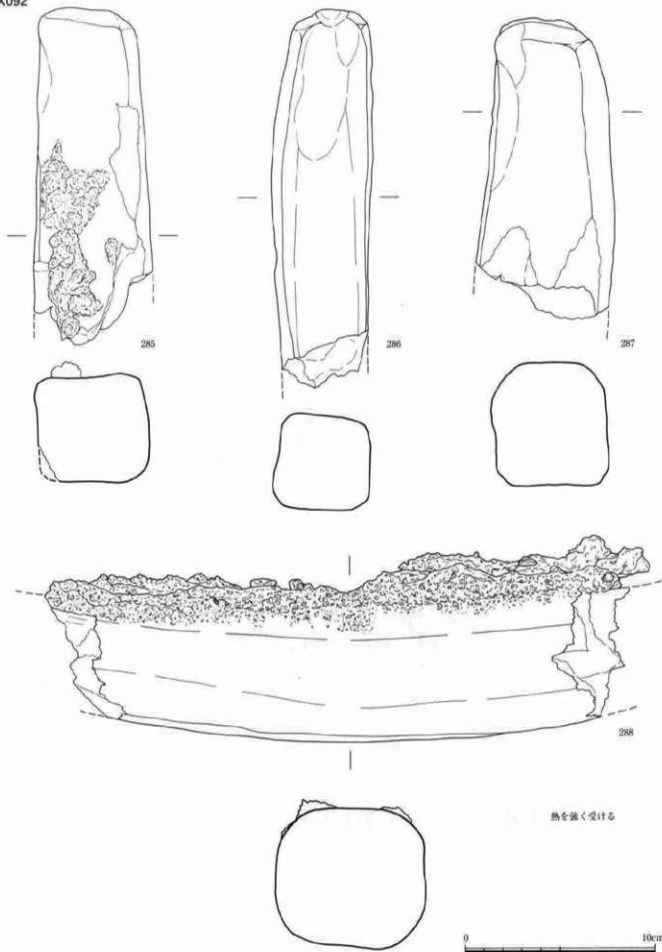
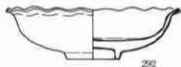
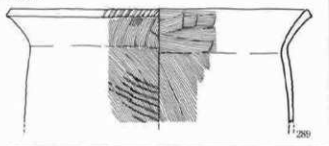


Fig.67 その他、不明遺構出土遺物実測図③ (1/2)

SX094



282



285



300



302



303



304



301



305

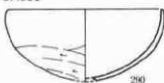


306



307

SX099



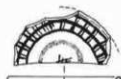
290



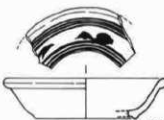
291



293



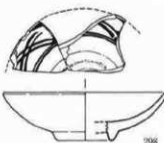
294



296



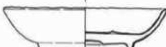
297



298



299



310



Fig.68 その他、不明遺構出土遺物実測図④ (1/3)

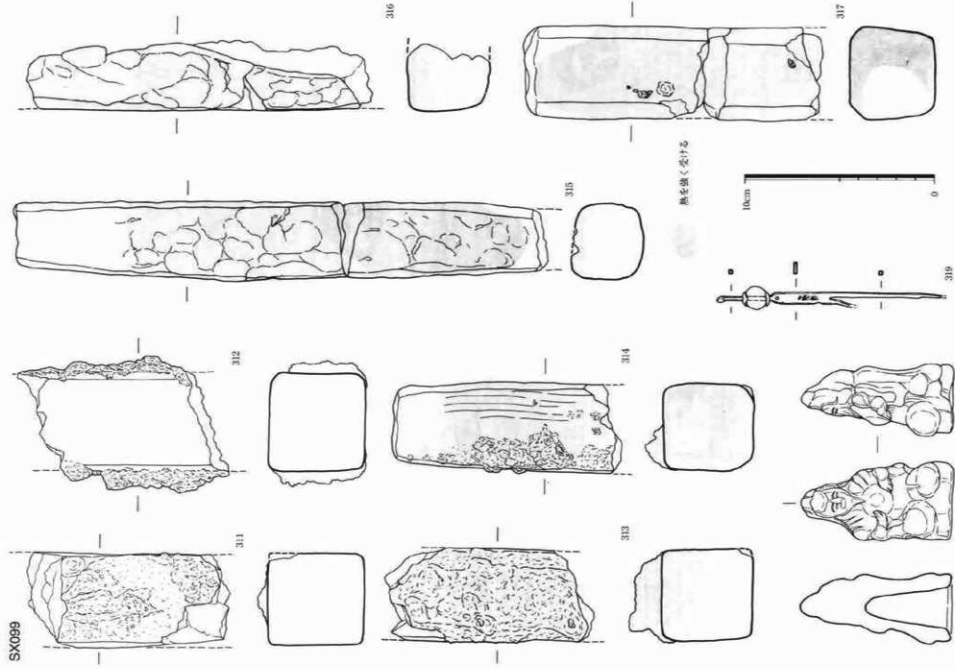


Fig. 69 その他、不明遺精出土遺物家源図5 (1/2)

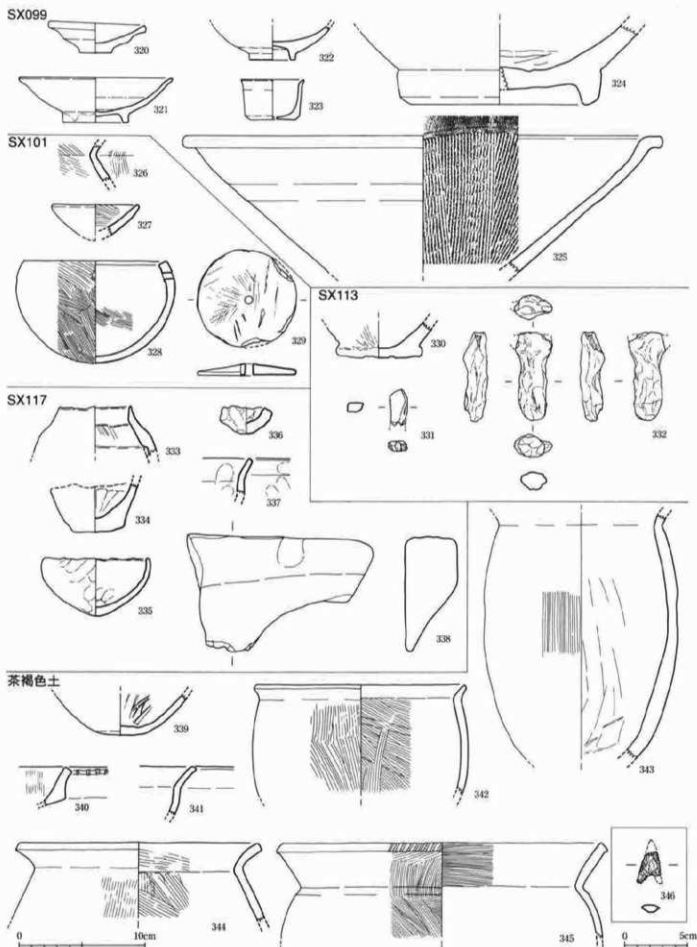


Fig.70 その他、不明遺構、茶褐色土出土遺物実測図 (1/3)(石鏝1/2)

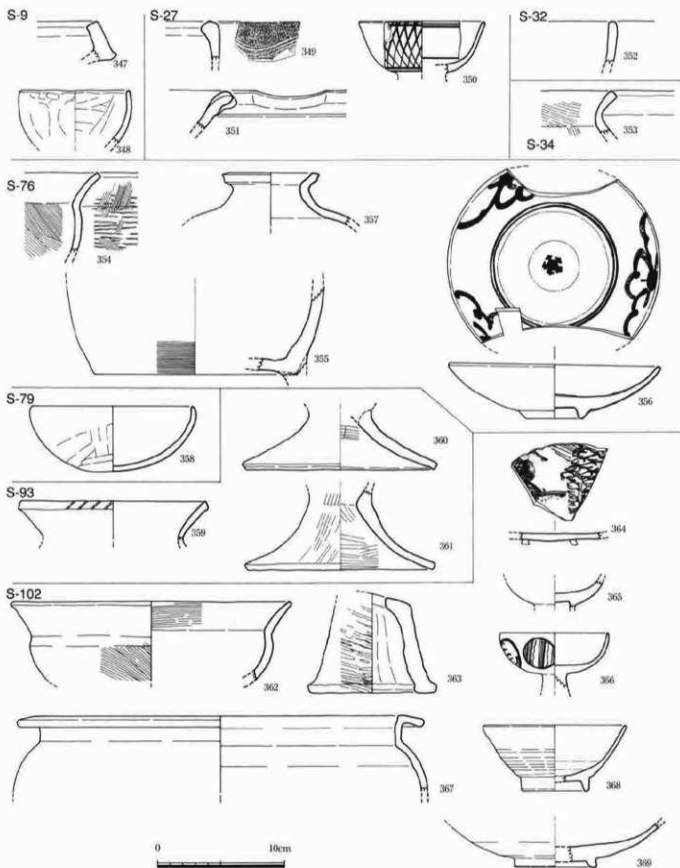
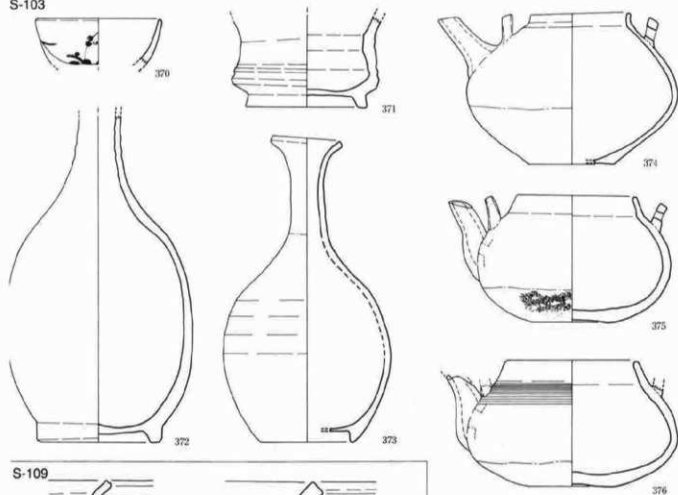
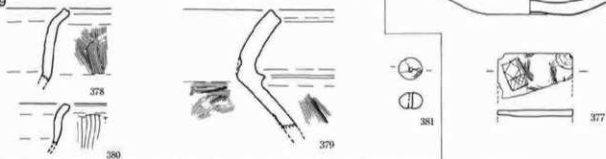


Fig.71 搅乱出土遺物実測図 (1/3)

S-103



S-109



表土

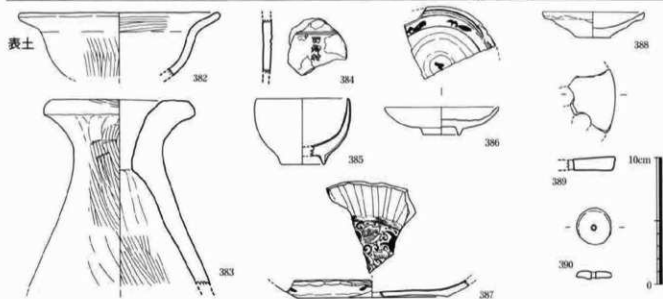


Fig.72 攪乱、表土出土遺物実測図 (1/3)

(4) 小結

今回の発掘調査では13棟の竪穴住居と9棟の掘立柱建物、2基の周溝状遺構など弥生時代後期末を中心とした遺構を検出している。また攪乱等の出土であるが、近世の遺物も多量に出土している。以下に遺構と遺物に分けて述べてみる。

I. 遺構

1. 竪穴住居の形態と規模について (Tab.9, 10)

13棟の竪穴住居を検出したが平面プランについては、概ね長方形である。規模は、大型ではSI105の6.8m×4.45m、小型ではSI050の3.9m×2.7mになり、床面積から4グループに分けられる。

床面積	約25㎡	約20㎡～約15㎡	約15㎡～約10㎡
約30㎡			
aグループ	bグループ	cグループ	dグループ
SI100	SI10 (26.5)	SI001 (16.5)	SI060 (10.5)
SI105 (30.2)	SI035 (25.5)	SI025 (17.6)	SI075 (12.9)
SI030 (30.8)		SI080 (19.7)	
		SI085 (19.0)	

2. 竪穴住居・掘立柱建物の方位と切り合い関係について (Fig.73)

方位から5グループに分けられる。

1グループ	2グループ	3グループ	4グループ	5グループ
N-80°-70°-E	N-69°-60°-E	N-59°-50°-E	N-49°-40°-E	N-39°-25°-E
SI010 (b) (71°)	SI080 (c) (64°)	SI035 (53°)	SI001 (c) (45°)	SI030 (a) (30°)
SI025 (c) (79°)	SI085 (c) (63°)	SI070 (c) (57°)	SI050 (d) (45°)	SI095 (27°)
SB065	SI100 (a) (60°)	SB040 (58°)	SI075 (d) (45°)	SI105 (a) (31°)
SB120		SB055 (56°)		
SB125				

転出時の切り合い関係は以下のとおりである。(カッコ内は、1、2のグループ分け)

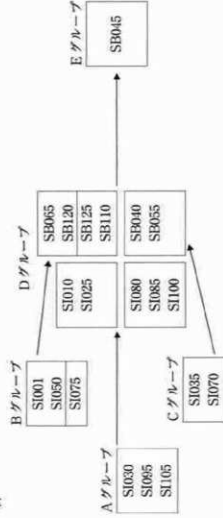
II 新

SI001 (b・4) → SB120・125 (1)
SI030 (a・5) → SI025 (c・1)
→ SI085 (c・2)
SI035 (c・3) → SB055 (3) → SB045
SI105 (a・5) → SI080 (c・2)

3. 遺構から捉えられる住居群の変遷

住居の規模、切り合いと方位から考えると、住居の変遷が概ね5グループに分けられる。

III 新



Tab.9 竪穴住居一覧表

遺構番号	Fig.番号	主 軸	平面プラン	長 軸	短 軸	形 状	ベッド	柱	壁小遣	住居内土壁
001	20	N-45°-E	長方形	4.65m	3.55m	○	×	×	-	南壁
018	23	N-71°-E	隅丸長方形	5.90	4.50	○	4	4	○	南壁
025	24	N-79°-E	長方形	5.70	3.10	○	2	2	-	南壁
030	25	N-30°-E	長方形	6.10	4.70	×	2	2	○	南壁
035	26	N-83°-E	長方形	5.95	4.30	○	4	2	○	南壁
050	27	N-45°-E	隅丸長方形	3.90	2.70	○	×	×	○	南壁
070	28	N-57°-E	方形	*3.1	*2.2	-	*1	2	×	南壁
075	28	N-45°-E	長方形	4.80	2.70	×	*1	2	×	南壁
080	29	N-64°-E	長方形	5.70	3.47	○	?	2	×	×
085	30	N-63°-E	隅丸長方形	4.95	3.85	×	?	2?	×	南壁
095	31	N-27°-E	方形	*3.9	*3.2	-	*1	-	○	-
100	31	N-60°-E	長方形	6.70	*3.5	-	*2	-	○	-
105	32	N-31°-E	長方形	6.80	4.45	×	1	×	○	南壁

*は残存・検出長、×は遺構なし、○は調査区外

Tab.10 掘立柱建物一覧表

遺構番号	Fig.番号	主 軸	桁×礎	総 数	総 壁	桁柱間	桁柱間
011	33	N-33°24'44"-E	1×1	5.5m	5m	-	-
040	34	N-58°12'4"-E	1×2	3.00	2.25	1.30m	1.60m
045	35	N-21°25'14"-E	1×1	3.25	3.25	-	-
055	35	N-55°53'19"-E	1×1	3.50	2.40	-	-
060	35	N-66°41'53"-E	1×1	3.00	2.60	-	-
065	37	N-20°19'23"-W	1×1	3.00	2.86	-	-
110	38	N-7°52'59"-W	1×1	3.25	3.25	-	-
120	30	N-18°9'10"-W	1×1	3.30	2.75	-	-
125	30	N-12°9'18"-W	1×1	3.25	3.00	-	-

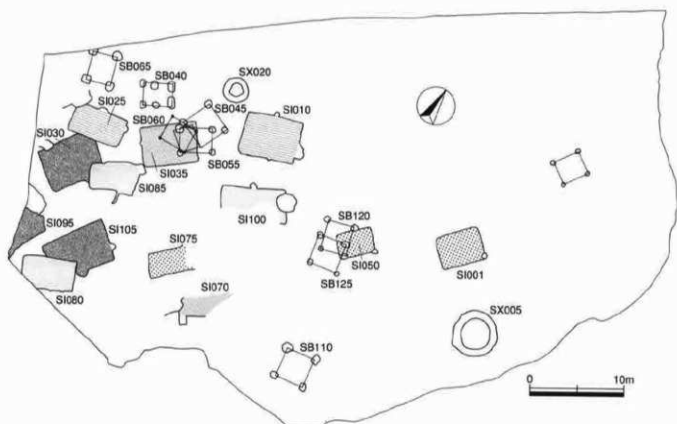


Fig.73 主要遺構配置模式図 (1/400)

4. 竪穴住居内の諸施設について

(1) 炉跡

13棟中6棟から検出している。住居中央に設けるが、比較的浅く窪んでいるだけで、埋土には焼土を確認したものはあるが、炉の床面が焼けている痕跡は殆ど検出していない。

(2) ベッド状遺構

検出した住居の9棟から検出しており、5種の形態を呈している。

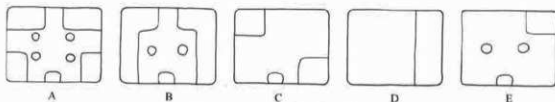


Fig.74 ベッド状遺構の配置

ベッドの構築については、1.盛り土による貼付、2.地山削り出し+盛り土貼付の2種類が存在する。

1. SI030	2. SI010	左図のように分けられ、1.についてはA・Bグループ、2.についてはC・Dグループに分けられ、この事からベッドは盛り土によるものから地山削り出し+盛り土貼付に変化していることが解る。また、SI035の南東隅のベッドは右半分を盛り土貼付、左半分を地山削り出しになり、変則的な構築方法である。
SI075	SI025	
SI095	SI035	
SI105	SI085	
	SI100	

(3) 柱穴

SI010では4本柱を検出し、他は長軸に2本柱の構成である。しかし、小型の住居であるSI001、050、大型住居であるSI105からは柱穴を検出していない。田佛遺跡7号住居では住居外の南北にビツが設けられており、SI001、SI050、SI105についても住居外に柱を据えている可能性が考えられるが検出に至っていない。また、SI030の柱穴は東西に溝状に掘り、両端を深く掘り窪め柱穴(布掘り)としている。

(4) 壁小溝

7棟の住居から検出しており、4棟からは確認できなかった。溝はSI050のみ住居全辺を巡り、他は間隔が開くものや小さいビツ等を検出している。また、住居内土壁との関係については、接続しているもの、離れているもの等混在している。

(5) 住居内土壁

10棟の住居から検出している。全て南方向の壁際で検出しており、土壁上部に床の硬化面を持たず、埋土も住居覆土と同様であることから住居内の生活空間に存在していたと考えられる。使用目的を屋内貯蔵や出入口に伴う梯子の設置等諸説を明確に裏付ける資料は確認していないが、SI035土壁からは両端に小ビツを検出している。

(6) 貼床

SI050以外の住居からは硬化面を持つ床面を検出している。SI080については2面の硬化面を確認しているが、最初の床面では柱穴や炉を検出しておらず、床面も凹凸が激しい状態で検出しており床面として認識出来るのかは疑問である。

(7) その他の施設

SI035の北東隅ベッド状遺構にビツを検出している。プランが円形を呈しており、他の掘立柱建物の柱穴と並ばない事や住居覆土除去後、ベッド確認時に検出していることから住居内の施設の可能性が考えられ、甘木市立野遺跡135号住居等での検出例と同様である。使用目的についても立野遺跡での報告から諸説論じられており、貯蔵・保管施設の可能性が指摘できる。

5. 整穴住居・掘立柱建物出土遺物について

3. で分けられたグループ毎に遺物を観察していく。カッコ番号は挿図番号である。

Aグループ

(SI030)

小型の壺 (103) は特異性のある遺物であるが、突帯の付く大型壺 (104, 114)、平底を呈する壺 (112, 113) は畿内五塚式系の遺物であり、平底の鉢は底部外面にハケ目が残る。出土した土器の中では古い様相を呈する。

(SI095)

出土遺物が少なく資料に欠けるが、底部にケズリを施す鉢ないしは杯 (212)、坏部が中位で屈曲反転し、口縁部で外反する鉢 (213) 等SI030に比べて新しい様相を示す。

(SI105)

壺の底部は平底 (222, 224)、レンズ状 (223) を呈し、底部外面にハケ目が入り、壺は胴部より口縁部径が最大を測るタイプ (220, 221)、高坏は坏部で屈曲反転し口縁端部で大きく外反する (225) が挙げられ、下大段段階の遺物ではないか。

Bグループ

(SI001)

壺は手すくねの小型の平底 (6) のみで、壺は長胴で底部はレンズ状で径が小さくなる (1, 2, 3)、鉢は口縁がく字になり端部をつまみ (4)、高坏は脚部が長く (5) なる。

(SI050)

壺は複合口縁で (138) 器壁は厚い。壺は口縁部より胴部に最大径を測り (139)、器台は口縁部がく字で器壁が厚い (140)。

(SI075)

壺の口縁は直に立ち (163, 168)、内湾する無頸壺 (164)、底部がレンズ状 (165)、丸底 (166, 175) があり、壺も口縁が直に近く立つ (169, 172)、口縁屈曲が殆どない (170) 等がある。鉢は壺として捉えられる直立口縁の (182, 183)、は古式土師器の範疇に入ってもよいが、調整にケズリは用いていない。

Cグループ

(SI035)

壺は丸底で胴部が張る (128) やレンズ状底部を呈する (129)、複合口縁の (130)、壺には外面に叩きが入り長胴である (131)。高坏はつくりが希薄で裾が開く (134) 等がある。

(SI070)

壺は直立口縁で (152, 158)、布留系古段階の遺物である。壺は外面に叩きが入り (142, 145) 丸底である (147)、鉢は在地の外面に叩きが入る (150) がある。

Dグループ

(SI010)

壺は直立口縁の (7)、頸部径が小さく胴部が張るもの (8)、壺も口縁が直に近い立ち上がり、丸底を呈し、肩部に横ハケを呈する五塚式系の (13)、壺は口縁に折み目のある (14, 15, 19)、外面に叩きがあり丸底を呈するもの (19)、鉢は丸底 (30~33)、く字口縁で脚付き (63)、高坏は短脚で精製品である (42) は布留系、坏部が浅く口縁が開く (40) がある。

(SI025)

壺は直立口縁で完全に丸底化し (74~76)、壺は長胴で外面に叩きが入り、丸底である (81~84)、鉢はく字で口縁に最大径を求めると在地の (85~87)、高坏は坏部が屈曲部から口縁までが長く直線的な

(92) は布留系の遺物である。器台は裾部が開くが踏ん張るタイプ (96)、支脚は外面に叩きが残り天井部の傾斜があるタイプ (95) がある。

(SI080)

甕は頸部径が小さく口縁に刻み目のある (193, 206)、直口縁で丸底の (174) は布留系、鉢は平底の (175) 以外は丸底で (196~198)、土師器の坏の範疇に入る (199, 201) がある。

(SI085)

出土資料が少なく、鉢は直に立つ (209)。

(SI100)

甕は頸部に最大径を測り長胴になる (216, 217)、胴部に最大径を測る (215)、鉢は手すくねで平底に近く器壁が厚手の (218, 219) がある。

(SI065)

資料が少なく甕の口縁片 (245)。

(SI110)

平底の鉢 (246) 出土。

(SI040)

甕は直立口縁 (238)、甕の口縁屈曲が明瞭で (236)、鉢は丸底 (239)、口縁端部が若干開く (240) がある。

E グループ

(SI045)

甕は口縁が緩やかに立ち (242)、胴部中心が最大径を測り、底部は丸底に近く径が小さく、(241)、鉢は口縁がつまみ出される (244) がある。

6. 竪穴住居・掘立柱建物出土遺物の時期について

筑後地域での弥生時代後期の土器については、狐塚遺跡³¹、室岡遺跡³²で編年が示されている。狐塚は竪穴住居の重複関係（切り合い）から器種のセット関係を用い、室岡遺跡では筑前での各遺跡から併行関係を求め、狐塚はⅢ期、室岡はⅣ期に分けられた。各編年の後期の土器は筑前で基礎となる桑貞次郎氏の「高三瀬」「下大隈」「西新」に対比しており、室岡と狐塚（上北島式）が古式土師器の時期に設定されている。

弥生時代	後期前半	後期中～後半	後期末
筑前地域	高三瀬	下大隈	西新町
室岡遺跡群	室岡Ⅰ(古)・Ⅱ(新)	室岡Ⅲ	
狐塚(上北島式)			上北島Ⅰ・Ⅱ

上記の編年を基に鶴田西牛ヶ池住居出土遺物を観察してみると、以下の現象を指摘できる。

1. 下大隈期の複合口縁甕が狐塚遺跡と同様に極端に少ない。また、長頸甕もない。
2. 甕の体部はハケ目から叩きを施すようになる。また、器台や支脚にも叩きが残る。
3. 高環は口縁部が屈曲し直に立つものが少ない。坏部の口縁部が屈曲し反転して外反するタイプ。
4. 平底を呈する甕、甕がSI030、105を除いて殆ど存在しない。坏部の口縁部が屈曲し反転して外反するタイプ。
5. 無頸の鉢は平底で体部器壁が厚く、直線的に立ち上がるタイプと土師器環に近い丸底の口縁部が内湾するタイプが混在するが、手すくね系の平底鉢は調整や焼成が同様である。
6. 無頸の鉢の外面にケズリや裏跡を若干認めると、内外面にケズリ調整する遺物は殆どない。
7. 外米系と言われる遺物が殆ど入っていない。

以上の点を考慮して各竪穴住居出土遺物の時的幅は以下の様になる。(カッコのアルファベットは遺構グループである。)

弥生後期	中頃	後半	終末/庄内・布留併行期
筑前	下大隈		西新町/庄内・布留
筑後	室岡Ⅲ		上北島 (*1)
		(A) SI001	----- (D) SI010 ----- (D) SI025 -----
	(A) SI030	-----	
	(B) SI050	(C) SI035	----- (C) SI070 ----- (B) SI075 ----- (D) SI080 -----
		(D) SI100	
	(A) SI105		(A) SI095 -----
		(D) SI040	----- (E) SI045 -----

(*1) 狐塚遺跡 1.2.3.11.12.16.19.21号住居出土遺物

7. 鶴田西牛ヶ池遺跡

調査地は狐塚遺跡から東南に約900mの地点にあり、裏山遺跡から北東に約600mの位置に展開する。遺構に関しては調査区西寄りに密集する。特に弥生時代後期を中心に竪穴住居、掘立柱建物が検出され、当該期の主要な市内遺跡としては狐塚遺跡、蔵数森ノ木遺跡、田佛遺跡での調査例が報告されている。

先述した遺構、遺物の報告から蔵数森ノ木のV～VIに該当するが、蔵数森ノ木では複合口縁の壺の出土頻度が高く、様相としては狐塚遺跡に類似している。また、以前から狐塚遺跡のⅢ期区分設定に関する前後関係の疑問点が指摘されてきたが、鶴田西牛ヶ池遺跡では遺物時期幅が狭く後期を全体的に包括する遺物資料が提示できず、器種の系譜等を追える資料提示ができなかった。八女市室岡遺跡群での編年では、SI025・070出土遺物が室岡Ⅲ期の後にくる資料になるのではないかと。しかし、遺物の扱いについては全て住居覆土遺物であり、遺構のグルーピングによる結果との時期差が狭い範囲であるが生じており、遺構時期の判断についての危険性は否めない。調査時の遺物廃棄のグループをある程度掘り上げての等、精密な調査方法を取ることは遺物を正確に判断し取り扱う絶対条件であることを痛感した。

また、周溝状遺構が2基検出されており、SX005については、溝底部にピットを検出しているが溝埋土との前後関係を掘んでおらず、埋土も灰白色粘土であること等、不明な点を残した。遺物は体部にボタン状の貼付がある壺が特異な遺物として挙げられる。

近世の遺物も多量に出土している。これらは攪乱(重機で掘られたもの)出土や不定形の土壌からの出土であるが、18世紀後半から幕末にかけての資料である。その中でも土製の棒状土製品については、久留米市中世(13世紀)の土器と出土しており、瓦器焼成等の窯道具や工房に関する道具の一種とされている。しかし、今回出土した棒状土製品は近世の遺物と出土(一部攪乱のため現代遺物も混じるが)しており、付着物痕等を観察すると、かなりの高温(1000°以上)で2次的に熱を受けている事や、法量が大形から小型まであり、久留米市の出土遺物と一種趣を異にしている。

以上、鶴田西生ヶ池遺跡の調査成果である。遺構は調査区から西側に広がりをもつと考えられ、筑後市内での周辺遺跡の調査成果や資料の増加により今後、筑後地区での弥生時代後期の生活の実態や土器相の成果を期待するところである。

(注) 参考文献

- 註1. 『大野坂遺跡』在賀市文化財調査報告書48集 在賀市教育委員会 1993
 註2. 『田傳遺跡』筑後市文化財調査報告書第5集 筑後市教育委員会 1988
 註3. (1)「まがたま」福岡県立小倉高等学校創立六十周年記念 福岡県立小倉高等学校 1988
 (2)「九州縄貫自動車道縄貫文化財調査報告書XIX」
 八女市室瀬所在遺跡の調査 福岡県教育委員会 1977
 吉川弘文館 1990
 註4. 「石野博信『日本原始・古代住居の研究』」
 (3)「九州橋立自動車道阿蘇縄貫文化財調査報告書-8-」 福岡県教育委員会 1986
 甘木市立野渡跡の調査 (3) 筑後市教育委員会 1970
 註5. 『狐塚遺跡』筑後市文化財調査報告書第2集 筑後市教育委員会 1966
 註6. 註3. (2) に同じ
 註7. 『栗山遺跡』筑後市文化財調査報告書第1集 筑後市教育委員会 1966
 註8. 『磯波遺跡』筑後市文化財調査報告書第6集 筑後市教育委員会 1990
 註9. 岩本晋三「土器から見た弥生時代社会の動向」
 - 北部九州地方の後期を中心として - 『鶴山清一先生遺言記念論集』 1989
 鶴田康雄「三・四世紀の土器と鏡」
 - 『伊都』の土器から見た北部九州 - 『奈良文化財研究所報告23集』 1982
 小郡市教育委員会 1985
 註10. 『三沢原遺跡』小郡市文化財調査報告書第23集 小郡市教育委員会 1985
 『大青寺北部地区遺跡報告』久留米市文化財調査報告書第92集 久留米市教育委員会 1994

参考文献

- 『阿蘇新遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第79集 福岡市教育委員会 1982
 『福原公行「古墳時代初期前後の土器編年」調査研究報告16集』在賀県立博物館・佐賀県立美術館 1991
 『大宰府・佐賀地区遺跡群VI』太宰府市の文化財第31集 太宰府市教育委員会 1986
 久住延雄「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究XIX』庄内式土器研究会 1999

Tab.11 鶴田西平ヶ池遺跡出土遺物一覧表

1	薬智土器	薬、小瓶	21	石製品	平ノ子ノ土須石
	鉢形土器	鉢	22	土師器	鉢
	高杯	高杯	23		小片
100円以上遺	薬智土器	壺	24	薬智土器	壺
100円以下	薬智土器	小片	24	薬智土器	壺
2	薬智土器	壺	25	薬智土器	壺
	磁器	磁付		薬智土器	壺
4	薬智土器	鉢		鉢形土器	鉢、12×8.7cm
	鉢形土器	鉢		高杯	高杯
5	薬智土器	壺		磁付土器	磁付
	磁付土器	磁付		土師器	12×8.7cm土師
	鉢形土器	12×8.7cm鉢		石製品	平ノ子、徳土、磁付
	支那陶土器	支那		石製品	鎌
6	磁器	小片		石製品	石須石
7		小片	2508円	薬智土器	壺
8	鉢形土器	小片	2509	小片	小片
9	薬智土器	12×8.7cm鉢	30円以内土師	薬智鉢形土器	壺ノ子
	薬智土器	壺	26	陶器	小片
10	薬智土器	壺		土師器	小片
	薬智土器	鉢、小鉢	27	薬智鉢形土器	丸、徳土、高杯
	高杯	高杯		磁器	磁付、白磁
	磁付土器	磁付	28	陶器	片貝鉢
	土師器	平ノ子、徳土、支那	29	土師器	丸
		不明土師器	30	薬智土器	壺
		不明石、磁石		薬智土器	壺
100円未満	薬智土器	壺		鉢形土器	12×8.7cm鉢
	鉢形土器	鉢		土師器	磁付
	土師器	小皿、杯		土師器	徳土
	磁器	磁付、青磁	2608円	石製品	石須丁
	陶器	磁鉢、陶		小片	小片
100円以上遺	石製品	銀行	31	土師器	壺
100円	薬智土器	壺		磁器	壺
100円以下	薬智土器	小片		陶器	壺
100円以下	薬智土器	壺	32	鉢形土器	鉢
11	磁器	白磁		土師器	小片
12	磁付土器	磁付	33	土師器	徳土
	土師器	徳土	34	薬智土器	壺
13	薬智土器	壺	35	薬智土器	壺
	鉢形土器	鉢		鉢形土器	鉢
	磁付、薬智土器	磁付×鉢		高杯	高杯
14	薬智土器	壺		磁付土器	磁付
16	薬智土器	小片		支那陶土器	支那
17	薬智土器	壺	3508円	石製品	石須石
	磁器	磁付		薬智土器	壺
	陶器	鉢		支那陶土器	支那
18	土師器	徳土	350円以内土師	薬智土器	壺
19	陶器	小片	36	土師器	徳土
20	薬智土器	壺	37	鉢形土器	磁付鉢
	磁器	磁付		薬智土器	壺
	陶器	小片	38	薬智土器	壺
	土師器	徳土	39	薬智土器	壺
21	薬智土器	壺	41	薬智土器	壺

33	森林型土壁 組壁	森林 組壁	森林 組壁	森林 組壁	森林土壁 壁付壁土壁	森林 組壁
34	石製品 豪華土壁	照壁行組壁 豪華	111	豪華土壁	豪華土壁 壁付壁土壁	壁付 玉、瓦、壁土 小片
35	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	112 113	豪華土壁 森林土壁	豪華土壁 森林土壁	豪華 壁
	壁付壁土壁 森林型土壁	壁付 森林	114	豪華土壁	豪華土壁	壁付壁土壁 壁
36	森林土壁 豪華土壁	森林 豪華	115	森林土壁 豪華土壁	森林土壁 豪華土壁	森林 豪華
37	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	117	森林土壁 豪華土壁	森林土壁 豪華土壁	壁付壁土壁 壁
38	森林土壁 組壁	森林 組壁		石製品 土製品	石製品 土製品	壁付壁土壁 壁土
39	土製品 土壁壁	メソソウチ土製品 瓦、壁、壁土	118			小片
	組壁	壁付、森林、白組 壁土、瓦	119	豪華土壁		小片
	土製品	壁付土製品、大組片 壁	121	豪華土壁		小片
100	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	122	豪華土壁 組壁	豪華土壁 組壁	豪華 壁付壁土壁 壁
	森林土壁	森林	123	石製品	石製品	壁付壁土壁 壁
100以下	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	124	豪華土壁	豪華土壁	小片
101	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	125	森林土壁	森林土壁	森林
	土製品	石付山壁	127	豪華土壁	豪華土壁	豪華
102	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林	129	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	土製品	玉組壁土壁	130	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	組壁	組壁	131	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	組壁	組壁	132	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	組壁	組壁	133	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	組壁	組壁	134	豪華土壁	豪華土壁	豪華
	土製品	壁土	136	森林土壁	森林土壁	森林
104	石製品 石製品	石製品 石製品		壁付壁土壁	壁付壁土壁	壁付
105	豪華土壁 豪華土壁	豪華 豪華		石製品	石製品	メソソウチ土製品
	森林土壁	森林	137	豪華土壁	豪華土壁	不明
	森林型土壁 壁付壁土壁	森林 壁付		森林土壁	森林土壁	森林
	石製品	メソソウチ土壁 壁付壁土壁	138	石製品	石製品	不明
		石製品、不明	139	石製品	石製品	不明
105製品	土製品 豪華土壁	森林 豪華	141	森林土壁 豪華土壁	森林土壁 豪華土壁	森林 豪華
105以外の土壁	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林		豪華土壁	豪華土壁	豪華
	土製品	壁土		森林土壁	森林土壁	森林
106以下	豪華土壁 豪華土壁	豪華 豪華		豪華土壁	豪華土壁	豪華
106未満	石製品 豪華土壁	石製品 豪華		豪華土壁	豪華土壁	豪華
106以下	石製品 豪華土壁	石製品 豪華		森林土壁	森林土壁	森林
106	豪華土壁 豪華土壁	豪華 豪華		豪華土壁	豪華土壁	豪華
107	豪華土壁 森林土壁	豪華 森林		豪華土壁	豪華土壁	豪華
108	土壁壁 組壁	豪華、瓦、小瓦 壁付		壁付壁土壁	壁付壁土壁	壁付
	組壁	豪華、瓦		土壁壁	土壁壁	壁付
109	豪華土壁	豪華		組壁	組壁	壁付、森林 壁

Tab.12 鶴田西ヶヶ池遺跡遺物観察表

【単位:cm, *は視察所, †は文相】

遺 跡	Flz	番号	名 称	形 様	数量	口 径	底 径	残 存 量
SH01	45	1	栗原土器	葉	001	*26.0	*23.8	1/4
	45	2	栗原土器	葉	003		*21.9	*5.0
	45	3	栗原土器	葉	004		*12.0	*5.0
	45	4	林原土器	杯	005	*17.5	*6.3	口縁1/8
	45	5	高坪土器	高坪	006			胴部片
SH06(石原河上遺)	46	7	栗原土器	葉	007	6.5	6.0	5.8
	46	8	栗原土器	葉	005	*16.0	*6.9	小片
SH11	46	9	栗原土器	葉	006	*18.2	*14.6	1/6
	46	10	栗原土器	葉	011		*19.0	胴部1/8
	46	11	栗原土器	葉	024			口縁部片
	46	12	栗原土器	葉	022		*3.0	*5.0
	47	13	栗原土器	葉	013	*25.0		口縁部片
	46	14	栗原土器	葉	005	*13.6	*22.5	2/3
	46	15	栗原土器	葉	008	*27.0		口縁部片
	46	16	栗原土器	葉	009	*25.4		口縁部2/5
	46	16	栗原土器	葉	010	*17.6		口縁部片
	46	17	栗原土器	葉	045		*8.3	胴部1/6
	46	18	栗原土器	葉	001		*16.5	胴部1/2
	47	19	栗原土器	葉	040	*27.3	*43.0	4/3
	47	20	栗原土器	葉	014			口縁部片
	47	21	栗原土器	葉	012	*26.0		口縁部片
	47	23	栗原土器	葉	016			口縁部片
	47	24	栗原土器	葉	017			口縁部片
	47	25	栗原土器	葉	015			口縁部片
	47	27	林原土器	杯	051	*16.2	8.4	1/3
	47	28	林原土器	杯	053	*15.0	*7.2	口縁部片
47	29	林原土器	杯	004	*11.9	6.5	3/4	
47	30	林原土器	杯	041	14.2	6.3	口縁部片	
47	31	林原土器	杯	003	*14.6	7.6	2/3	
47	32	林原土器	杯	050	10.5	4.9	口縁部片	
47	33	林原土器	杯	049	*11.6	6.1	1/2	
47	34	林原土器	杯	042	*16.0	*5.5	口縁1/6	
48	35	林原土器	杯	018			口縁部片	
48	36	林原土器	杯	002			口縁部片	
48	37	林原土器	杯	019	*18.0		口縁部片	
48	38	林原土器	杯	020	*17.0		口縁部片	
48	39	林原土器	杯	021	*15.0		口縁部片	
48	40	高坪土器	高坪	039	*22.0	*2.4		
48	41	高坪土器	高坪	023			杯部片	
48	42	高坪土器	高坪	046		*7.5	12.8	
48	43	高坪土器	高坪	026			胴部小片	
48	44	高坪土器	高坪	028			胴部小片	
48	45	高坪土器	高坪	027			胴部小片	
48	46	石製品	砥石	057	14.0	6.1	6.1	
48	47	石製品	不明石	047				
48	48	石製品	不明石	047				
48	49	石製品	不明	037	5.1	3.6	2.4	
48	50	石製品	不明	038	4.5	3.3	2.3	
48	51	石製品	不明石	044				
47	52	栗原土器	葉	052			口縁部片	
49	53	石製品	不明石	058				
49	54	土製品	支脚	059		24.3		
49	55	土製品	支脚	056		16.6		
49	56	土製品	支脚	042		21.4		
49	56	土製品	不明	022			小片	
49	57	土製品	粘土塊	030				
49	58	土製品	粘土塊	029				
49	59	土製品	粘土塊	031				

	49	60	土製品	粘土塊	032							
	49	61	土製品	粘土塊	033							
	49	62	土製品	粘土塊	034							
SD10前面	50	63	鉢型土器	鉢	062	209	14.8	*13.4	4/5			
SD10背面内土層	50	64	壺型土器	壺	061			*15.0	1/2			
SD10上面覆土	50	65	壺型土器	壺	072	*22.0				口縁部片		
	50	66	壺型土器	壺	065	12.2	*6.6			口縁部片		
	50	67	鉢型土器	鉢	063	13.0	7.2			口縁部片		
	50	68	鉢型土器	鉢	064		*6.1			1/6		
	50	69	陶器	皿	067	*12.0	2.9	*4.6				
	50	70	陶器	皿	068	*9.5	2.5	*5.8				
	50	71	陶器	壺	066	*23.4		*19.8	1/4			
	50	72	石製品	砥石	070							
SD25	50	73	石製品	砥石	069							
	51	74	壺型土器	壺	007	*13.0	*14.0			上半1/2		
	51	75	壺型土器	壺	025	13.0	13.7			口縁部片		
	51	76	壺型土器	壺	006	*14.0				口縁部1/2		
	51	77	壺型土器	壺	005	*18.0						
	51	78	壺型土器	壺	004							
	51	79	壺型土器	壺	003	*20.0						
	51	80	壺型土器	壺	002	*19.0						
	51	81	壺型土器	壺	001							
	51	82	壺型土器	壺	026		*32.0			底部2/3		
	51	83	壺型土器	壺	014					底部片		
	51	84	壺型土器	壺	015		3.2			底部片		
	52	85	壺型土器	壺	013	*28.0				口縁部1/4		
	52	86	鉢型土器	鉢	009	*26.0				口縁部片		
	52	87	鉢型土器	鉢	008	*20.0				口縁部片		
	52	88	鉢型土器	鉢	010	*13.0	*6.4			1/2		
	52	89	鉢型土器	鉢	011	*14.4	6.5			口縁1/3欠		
	52	90	鉢型土器	鉢	022	*4.4	3.8	1.3		1/2		
	52	91	鉢型土器	鉢	023	*3.2	2.0			1/3		
	52	92	高坏型土器	高坏	016	*30.0				口縁部片		
	52	93	高坏型土器	高坏	017					底部片		
	52	94	支脚型土器	支脚	020		*7.2			1/2		
	52	95	支脚型土器	支脚	021	9.5	6.7	10.6		口縁部片		
	52	96	器台型土器	器台?	019							
	52	97	土製品	柄杓	024		*13.5			坏底欠損		
	52	98	鉄製品	鏝	027							
	53	99	石製品	不明石	028							
	53	100	石製品	不明石	029							
SD30	53	101	石製品	不明石	030							
	54	102	壺型土器	壺	022			8.6		底部片		
	54	103	壺型土器	壺	012					1/2		
	54	104	壺型土器	壺	013	*38.2				口縁部1/3		
	54	105	壺型土器	壺	014	*22.0				口縁部1/8		
	54	106	壺型土器	壺	020	*16.2				口縁部1/6		
	54	107	壺型土器	壺	019	*16.6				口縁部1/8		
	54	108	壺型土器	壺	017	*16.0				口縁部1/6		
	54	109	壺型土器	壺	015	*15.8				口縁部1/8		
	54	110	壺型土器	壺	016	*14.0				口縁部1/8		
	54	111	壺型土器	壺	021							
	54	112	壺型土器	壺	011			*5.8		底部1/2		
	54	113	壺型土器	壺	010			*5.4		底部片		
	54	114	壺型土器	壺	018							
	55	115	鉢型土器	鉢	001	*15.0	8.6	6.1	1/3			
	55	116	鉢型土器	鉢	004	12.5	7.7	4.8		口縁部片		
	55	117	鉢型土器	鉢	003	*15.0						
	55	118	鉢型土器	鉢	005	13.8	*6.8	*1.3		底部欠		
	55	119	鉢型土器	鉢	002	*5.8	6.4	*2.8	1/3			ミニチュア
	55	120	器台型土器	器台	008	6.3						
	55	121	器台型土器	器台	009	*9.6				1/6		

55	122	寶石樹上型	寶石	寶石	907			150	琥珀片	
55	123	寶石樹上型	寶石	寶石	906			150	琥珀片	
55	124	石製品	寶石?	寶石?	928					
55	125	石製品	不明行	不明行	929					
55	126	石製品	不明行	不明行	924					
55	127	石製品	6.5x.7	925						
56	128	琥珀上型	琥珀	601						
56	129	琥珀上型	琥珀	605				72	琥珀片	
56	130	琥珀上型	琥珀	906						
56	131	琥珀上型	琥珀	907				183	琥珀片	
56	132	琥珀上型	琥珀	902				261	琥珀片	
56	133	琥珀上型	琥珀	903				278	琥珀片	
56	134	琥珀樹上型	樹牙	607				180	琥珀片	
56	135	寶石樹上型	寶石	608				140	琥珀片	
56	136	琥珀樹上型	不明	909						
56	137	石製品	不明行	910						
56	138	琥珀上型	琥珀	901				160	琥珀片	
56	139	琥珀上型	琥珀	902				168	琥珀片	
56	140	寶石樹上型	寶石	903				160	琥珀片	
56	141	琥珀上型	琥珀	911						
56	142	琥珀上型	琥珀	903				250	琥珀片	
56	143	琥珀上型	琥珀	904				210	琥珀片	
56	144	琥珀上型	琥珀	901				206	琥珀片	
56	145	琥珀上型	琥珀	902				210	琥珀片	
56	146	琥珀上型	琥珀	905				186	琥珀片	
56	147	琥珀上型	琥珀	912						
56	148	琥珀上型	琥珀	909				180	琥珀片	
56	149	琥珀上型	琥珀	910				280	琥珀片	
56	150	琥珀上型	琥珀	906				202	琥珀片	
56	151	琥珀上型	琥珀	907				67	琥珀片	
56	152	琥珀上型	琥珀	908				116	琥珀片	
56	153	寶石樹上型	樹牙	914						
56	154	寶石樹上型	樹牙	913				915	琥珀片	
56	155	石製品	不明	915				50	琥珀片	
56	156	石製品	不明	916				33	琥珀片	
56	157	琥珀上型	琥珀	918				132	琥珀片	
56	158	琥珀上型	琥珀	918				100	琥珀片	
56	159	琥珀上型	琥珀	917				158	琥珀片	
56	160	琥珀上型	琥珀	902				116	琥珀片	
56	161	琥珀上型	琥珀	903				90	琥珀片	
56	162	琥珀上型	琥珀	901				44	琥珀片	
56	163	琥珀上型	琥珀	901				138	琥珀片	
56	164	琥珀上型	琥珀	919				96	琥珀片	
56	165	琥珀上型	琥珀	909						
56	166	琥珀上型	琥珀	912						
56	167	琥珀上型	琥珀	911						
56	168	琥珀上型	琥珀	910						
56	169	琥珀上型	琥珀	906				177	琥珀片	
56	170	琥珀上型	琥珀	903				174	琥珀片	
56	171	琥珀上型	琥珀	902				164	琥珀片	
56	172	琥珀上型	琥珀	905				122	琥珀片	
56	173	琥珀上型	琥珀	901				180	琥珀片	
56	174	琥珀上型	琥珀	908						
56	175	琥珀上型	琥珀	907				27	琥珀片	
56	176	琥珀上型	琥珀	918				117	琥珀片	
56	177	琥珀上型	琥珀	920				44	琥珀片	
56	178	琥珀上型	琥珀	915				130	琥珀片	
56	179	琥珀上型	琥珀	916				136	琥珀片	
56	180	琥珀上型	琥珀	913				76	琥珀片	
56	181	琥珀上型	琥珀	914				220	琥珀片	
56	182	琥珀上型	琥珀	921				132	琥珀片	
56	183	琥珀上型	琥珀	924						

	59	184	鉢形土器	鉢	022	*118				口縁部 1/5	
	59	185	鉢形土器	鉢	017	*144	52			1/2	
	59	186	鉢形土器	鉢	023	*140				口縁部 1/5	
	59	187	高坏型土器	高坏	031					胴部片	
	59	188	高坏型土器	高坏	026				*140	胴部 1/6	
	59	189	高坏型土器	高坏	025				*150	胴部 1/2	
	59	190	土製品	粘土塊	027						
	59	191	土製品	粘土塊	028						
S075住居内土器	59	192	高坏型土器	高坏	032					胴部細片	
S080	60	193	甕型土器	甕	001	218				口縁部片	
	60	194	甕型土器	甕	008	*160				上半 1/5	
	60	195	鉢形土器	鉢	002	100	52	4.0		完形	
	60	196	鉢形土器	鉢	003	117	61			ほぼ完形	
	60	197	鉢形土器	鉢	004	122	51			ほぼ完形	
	60	198	鉢形土器	鉢	005	137	70	2.0		完形	
	60	199	鉢形土器	鉢	010	*140	*40			1/3	
	60	200	鉢形土器	鉢	006	129	4.8			ほぼ完形	
	60	201	鉢形土器	鉢	007	136	4.6			一部欠	
S080柱穴	60	202	鉢形土器	鉢	002					口縁部片	
	60	203	甕型土器	甕	001					口縁部片	
S080第一床面	60	204	甕型土器	甕	012				*4.3	底部片	
	60	205	鉢形土器	鉢	011	7.2	23			ほぼ完形	
S082第二床面下	60	206	甕型土器	甕	001	*210				口縁部片	
	60	207	石製品	不明石	002						
	60	208	石製品	石鏝	013					完形	
S085住居内土器	60	209	鉢形土器	鉢	001					口縁部片	
	60	210	石製品	不明石	002						
	60	211	土製品	不明品	003						穿孔有り
S095	60	212	鉢形土器	鉢	001	*140				口縁部片	
	60	213	高坏型土器	高坏	004	*300				口縁部片	
	60	214	器台型土器	器台	002	*150				口縁部片	
SI100	61	215	甕型土器	甕	003	*220				口縁部片	
	61	216	甕型土器	甕	002	*220				口縁部 1/4	
	61	217	甕型土器	甕	001	*210				口縁部 1/5	
	61	218	鉢形土器	鉢	004	*116	51			2/3	
	61	219	鉢形土器	鉢	005	*130	*4.8	*5.8		1/2	
SI105	61	220	甕型土器	甕	012	*260	17.6	7.8		口縁部片	
	61	221	甕型土器	甕	001	*280				口縁部 1/4	
	61	222	甕型土器	甕	002			*6.0		底部 1/3	
	61	223	甕型土器	甕	004			4.2		底部片	
	61	224	鉢形土器	鉢	003			4.8		底部片	
	61	225	高坏型土器	高坏	005	*320				口縁部 1/5	
	61	226	器台型土器	器台	006	*3.3	4.7	*3.3		1/2	ミニチュア
	62	227	石製品	石鏝	007	3.0	7.1			一部欠	
	62	228	石製品	石鏝	008					完形	オヌカイト
	62	229	石製品	不明石	010						
	62	230	石製品	不明石	011						
SI105床面	62	231	石製品	不明石	017						
SI105住居内土器	62	232	鉢形土器	鉢	014	145	5.6			ほぼ完形	
	62	233	甕型土器	甕	013	*132				一部欠	
	62	234	石製品	不明石	015						
SI105床下	62	235	石製品	石鏝	016						オヌカイト
S040 (S-66)	63	236	甕型土器	甕	001	*130				口縁部片	
	63	237	甕型土器	甕	002	*120				口縁部片	
(S-61)	63	238	甕型土器	甕	001					口縁部片	
(S-63)	63	239	鉢形土器	鉢	001	*134	5.9			1/5	
(S-64)	63	240	鉢形土器	鉢	001					口縁部片	
S045 (S-42)	63	241	甕型土器	甕	001	*164	*22.5			1/2	
(S-41)	63	242	甕型土器	甕	001					口縁部片	
(S-77)	63	243	甕型土器	甕	001					口縁部片	
	63	244	鉢形土器	鉢	002	*140				口縁部片	
S065 (S-68)	63	245	甕型土器	甕	001					口縁部片	

SD10 (S-88)	63	246	鉢形土器	鉢	001	10.2	5.3	3.5	ほぼ定形		
SX005	64	247	甕形土器	甕	002				底部片	ボタン状付着	
	64	248	鉢形土器	鉢	007	*21.0					
	64	249	鉢形土器	鉢	005	5.1	3.4	0.9	ほぼ定形	ミニチュア	
	64	250	器台型土器	器台	002				*19.0		
	64	251	器台型土器	器台	001	*8.2	11.0	*9.0	一部欠		
SX011	64	252	支脚型土器	支脚	006	7.6	10.0	*11.0	ほぼ定形		
	64	253	支脚型土器	支脚	004	7.0	10.4	9.8	定形		
	65	254	白磁	碗	001					底部片	
	65	255	土師器	鉢	001					口縁部片	
SX036	65	256	鉢形土器	鉢	001	*14.0	5.1		1/2		
	65	257	鉢形土器	鉢	002	*11.8				口縁部1/2	
SX047	65	258	土師器	小皿	001	*7.8	1.8	*4.2	1/4		
	65	259	土師器	小皿	002	*6.8	1.7	*3.6	1/3		
	65	260	磁器	染付碗	003	*9.6				口縁部1/6	
SX072	65	261	甕形土器	甕	001					口縁部片	
	65	262	鉢形土器	鉢	002	*13.0					
SX074	65	263	土師器	鉢	001	*24.0			4.4		
	65	264	陶器	碗	002					底部1/2	
	65	265	土製品	平元	003						
SX078	65	266	土製品	棒状土製品	004	6.4	6.4	*15.0			
	65	267	甕形土器	甕	003	*13.0				口縁部片	
	65	268	甕形土器	甕	001					口縁部片	
	65	269	甕形土器	甕	002					口縁部片	
SX083	65	270	鉢形土器	鉢	004	*16.0				口縁部1/6	
	66	271	白磁	碗	004				4.4	底部片	
	66	272	陶器	小皿	002	*9.6	2.4	3.2	2/3		
	66	273	陶器	壺	003				8.6	底部片	
	66	274	陶器	経鉢	001	*40.0				口縁部片	
	66	275	ガラス製品	瓶	005	1.4	5.4	2.4		定形	
SX091	66	276	ガラス製品	瓶	006			*8.0		一部欠	
	66	277	土師器	鉢	001					口縁部片	
SX092	66	278	土師器	鉢	001					口縁部片	
	66	279	土師器	甕	002					口縁部片	
	66	280	土師器	火鉢	003				*15.5	1/4	
	66	281	土師器	不明品	004				*26.4	底部1/2	
	66	282	白磁	碗	007	*14.2	5.6	*9.0	1/6	穿孔あり	
SX094	66	283	磁器	染付皿	006	*12.0	3.6	*4.3	1/3		
	66	284	陶器	鉢	005				*10.0	底部1/2	
	67	285	土製品	棒状土製品	009	5.7	*17.0	5.8		一部欠	
	67	286	土製品	棒状土製品	008	5.2	*20.0	5.1		一部欠	
	67	287	土製品	棒状土製品	010	6.5	6.0	*15.8		一部欠	
	67	288	土製品	棒状土製品	011	8.0	7.4	*31.0		一部欠	
	68	289	甕形土器	甕	001	*24.0				口縁部片	
	SX099	68	290	土師器	耳	008	*12.6	*5.8			1/3
		68	291	土師器	土鍋	009					口縁部片
		68	292	白磁	皿	038	*13.8	4.1	4.2		1/2
		68	293	磁器	皿	031	9.5	2.0	5.4		3/4
68		294	磁器	皿	030	*9.0	2.8	*4.0		1/2	
68		295	磁器	皿	035	*21.0	3.2	*13.2		1/6	
68		296	磁器	皿	032	*13.0	3.2	*8.0			
68		297	磁器	皿	029	*8.4	2.2	*6.2		1/3	
68		298	磁器	皿	033	*13.0	3.8	*4.4			
68		299	磁器	皿	034	*13.0	3.4	7.3		口縁部3/4欠	
68		300	磁器	皿	036					底部片	
68		301	磁器	杯?	028	6.4	2.2	2.5		口縁部3/4欠	
68		302	磁器	染付碗	021				4.2	底部片	
68		303	磁器	染付碗	022				*4.7	底部片	
68		304	磁器	染付碗	019				*5.8		
68		305	磁器	染付碗	023	*11.2	5.5	*4.8		1/4	
68		306	磁器	染付碗	024	*10.0				1/6	
68	307	磁器	染付碗	025				*3.9	底部1/2		

S-103	72	370	組型	象牙機	002	*100		05	底牌	
	72	371	組型	象牙品	003		258	110	底牌 1/2	
	72	372	組型	長筒機	005		242	*73	底牌 1/2	
	72	373	組型	長筒機	004	3.6	242	79	1/2	
	72	374	組型	上蓋	006	9.3	120	6.0	144-2-5	
	72	375	組型	上蓋	005	9.3	100	6.0	144-2-5	
	72	376	組型	上蓋	007	*101	9.8	6.6	1/2	
	72	377	右製品	組型	001					
	72	378	鑿削上型	機	002					口機部分
	S-109	72	379	鑿削上型	機	001				
72		380	鑿削上型	機	003					
72		381	上製品	機	004	1.4	1.3	1.1		空機
72		382	鑿削上型	機	002	*160				口機部分
R-1	72	383	鑿削上型	機	001	120				組部欠
	72	384	上製品	機	008					
	72	385	組型	有磁機	003	*74	5.3	*14	1/4	
	72	386	組型	象牙機	004	*10	2.2	*10	1/4	
	72	387	組型	有磁機	005			*120		
	72	388	組型	機	006	3.1	2.0	2.8		一磁欠
	72	389	組型	機	007					
	72	390	上製品	象牙機	009					

5. 鶴田木屋ノ角・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査

(1) はじめに

今回報告する鶴田木屋ノ角遺跡は茨後市大字鶴田字木屋ノ角569外に、鶴田牛ヶ池遺跡は茨後市大字鶴田字牛ヶ池814外に、それぞれ所在する。調査は水見が担当し、一部で小林の協力を得た。調査面積は合計で2,727㎡で、調査期間は平成10年11月1日から平成11年2月10日であった。この調査は、古代官道「西海道」の路線確認を主たる目的として実施した。事前の工事主体との協議の結果、遺構を破壊しない内容の工事を実施することで合意していたため、本路が新設される北端の80mを除いて遺跡の平面プランの確認にとどめた。したがって、本路予定地内以外にある遺構は完備に到着していない。



Fig.75 鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡 (第2次調査) 調査区位置図 (1:2,500)

(2) 検出遺構

今回は西海道の路線確認のための調査であるため、当然のことながら道路跡を検出している。鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査で検出が予想されたが、明確な遺構は確認できなかったため、全体図のみを報告する。また、水路予定地内で土壌を2基検出したので併せて報告する。以下、鶴田木屋ノ角遺跡の検出遺構を遺構種別ごとに記載する。

道路状遺構

SF20 (SD01・SD05・SD10)

今回の調査で確認した道路跡である。SD01とSD05が、それぞれ西と東の側溝にあたると思われる。また、路盤の中央にSD10が縦走しているが、道路との関係は確認できない。SD10の残存する深さは、最大で0.25m程である。側溝の断面形状は、東西ともに大きく崩れた逆台形で、極めて不整形である。

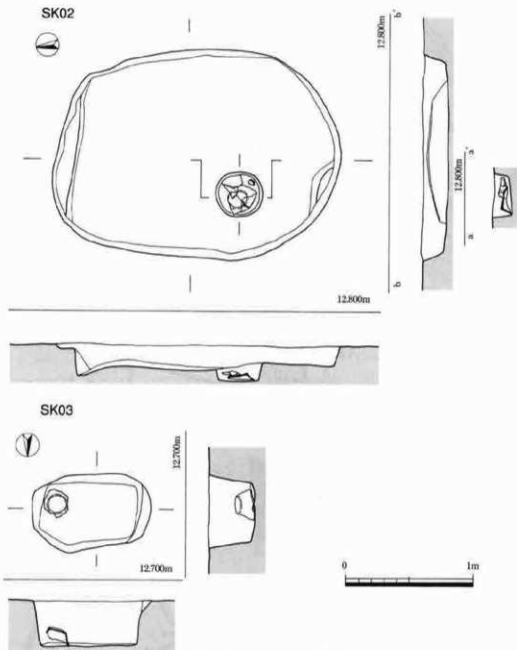


Fig.76 土壌実測図 (1/30)

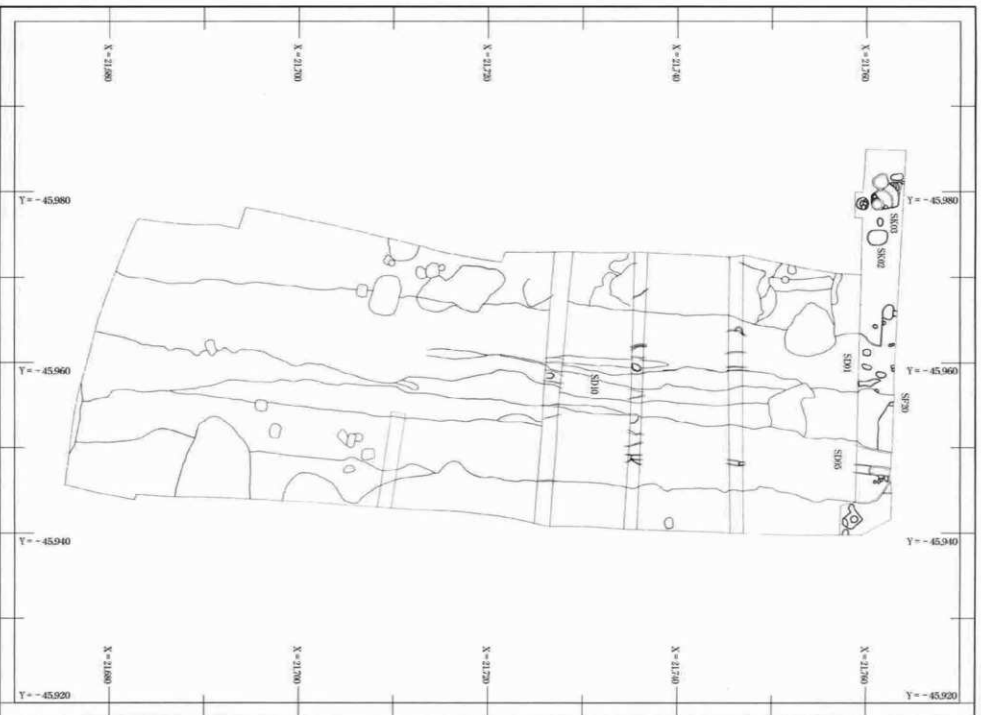


Fig.7-7-1 鶴田木屋ノ角遺跡遺構配置図 (1/400)

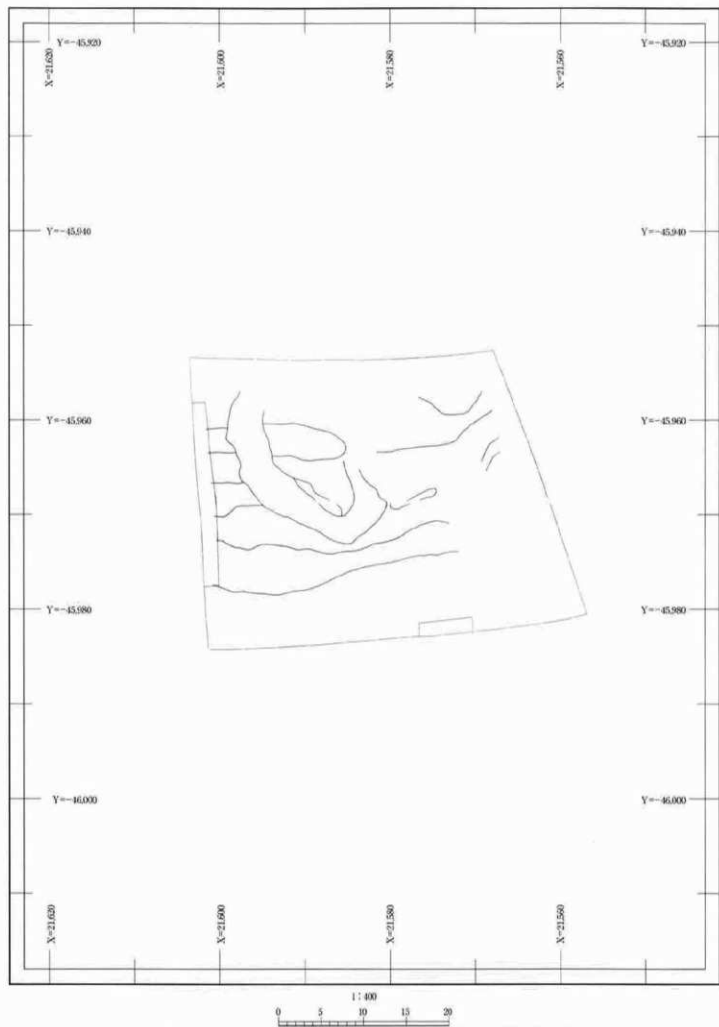


Fig.77-2 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）A調査区遺構配置図（1/400）

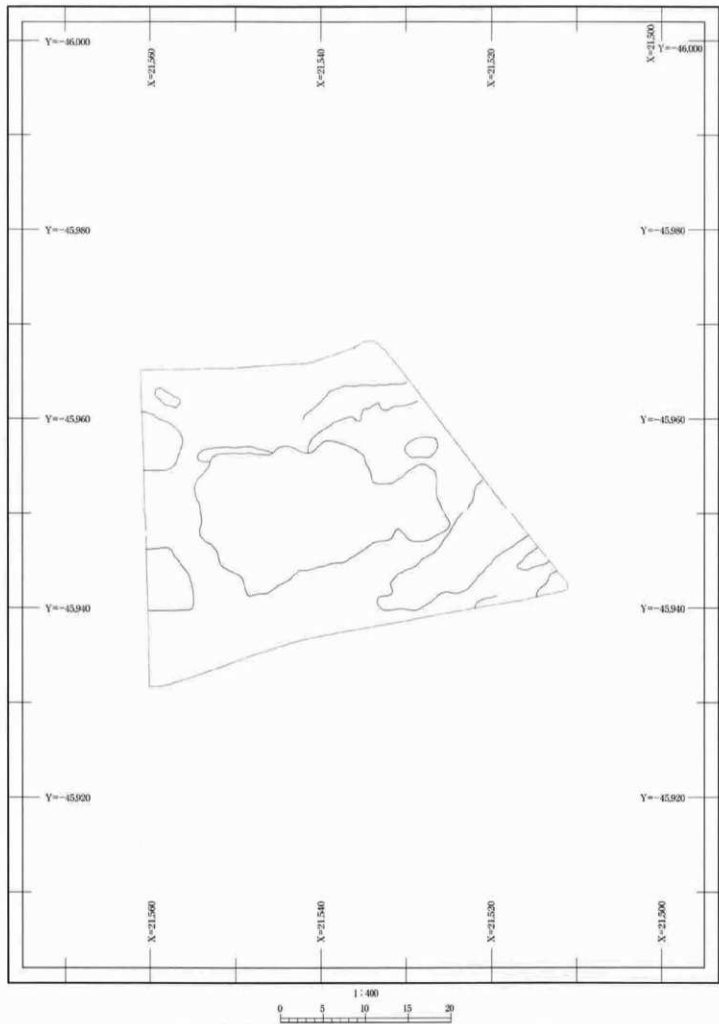


Fig.77-3 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）B調査区遺構配置図（1/400）

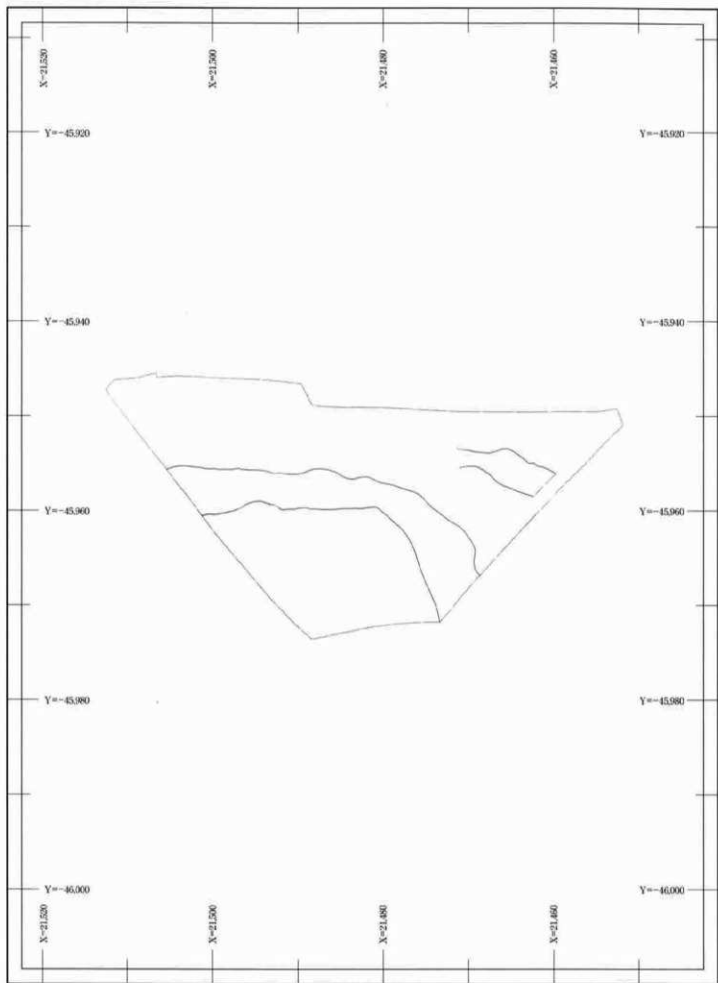


Fig.77-4 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）C調査区遺構配置図（1/400）



Fig.78 筑波市内面海運開港道路分布図 (1/50,000)

土壌

SK02 (Fig.76・Pl.65)

調査区の北端西寄りに位置する。平面形は、ほぼ円形である。規模は南北2.3m、東西1.7m、深さ0.2mをはかる。

SK03 (Fig.76・Pl.66)

調査区の北端西寄りに位置し、SK02の西隣にあたる。平面形は、隅丸方形である。規模は南北0.6m、東西0.8m、深さ0.65mをはかる。

(3) 出土遺物

今回の調査では土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器を出土した。以下、出土遺物別に報告する。

SK02 (Fig.79・Pl.67)

土師器・須恵器が出土した。1・2は土師器の甕である。1は口縁部が外反し、2は緩く外反する口縁部を丸くおさめている。

3は須恵器の坏蓋である。体部外面に不明瞭ながら墨書が認められる。「林家」ではないかと思われるが、一文字目は「北」二文字目は「賈」の可能性もある。一文字は二文字目と比べて肉内に書かれている。但し、不明瞭なため図示していない。また、内面は硯として使用されて平滑になっていて、墨痕も認められる。4は須恵器の壺の体部である。高台径は11.0cmを測る。

SD02 (Fig.79・Pl.67)

瓦質土器が出土した。5は瓦質土器のすり鉢である。1ヶ所に口が残存しているが他にあったかどうかは不明である。

SD03 (Fig.79・Pl.67)

瓦質土器・陶磁器が出土した。6は瓦質土器のすり鉢である。1ヶ所に口が残存しているが他にあったかどうかは不明である。7は白磁の合子蓋である。体部外面に呉具による施文が認められる。8は、染付の皿である。内底見込みに施文されるが、図柄は不明である。

(4) 小結

遺構の報告文でも触れたが、鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査では西海道関連の遺構は明確な形で確認できなかった。溝状の遺構の中には、道路傾溝の可能性を否定しきれないものもあるが、現時点での明確な判断はつかない。遺構全体図を報告しているので、各方面からの御教示を賜われれば幸いである。

ここでは、鶴田木屋ノ角遺跡第1次調査での成果を中心に若干の考察を試みたい。現在のところ、筑後市内で確認されている西海道と思われる道路状遺構はTab.13のとおりである。今回の調査で確認された路線は、山ノ井川口遺跡と鶴田中市ノ塚遺跡との間にあたる。側溝の断面形状を比較すると、山ノ井川口遺跡では比較的逆台形の形が整っているが、鶴田木屋ノ角遺跡では肩部が不明瞭になり、随分と崩れた断面形状である印象を受ける。

また、出土遺物から道路側溝の埋没時期は、8C後半を中心とした年代が与えられると思うが、今回の調査は道路側溝のごく一部を掘ったに過ぎないので、今後の周辺調査の結果を踏まえて議論することが重要であろう。

西海道の路線については、木下良氏の研究が現状ではもっとも説得力があると思われる。(註1) 筑後市付近の路線は、筑後市大字一条・熊野・前津の字車路(および車地)の大字界の延長をそれと考へ、筑後市内は大字蔵敷の1ヶ所で僅かに屈曲する以外は、ほぼ直線に走るとしている。また、筑後市内に比定される葛野駅は大字前津字車路付近とされている。

路線については、市の中央部付近では西寄りの大字和泉を迂回するとした意見もあるが、今日までの発掘調査の成果を照らし合わせると説得力に欠ける。なお、今日までに発掘調査で確認した官道クラスの道路状遺構は、すべて木下氏の推定路線上で確認されている。

また、葛野駅についても同様で、筑後中学校屋内運動場建設の際に調査した羽犬塚中道遺跡では、大

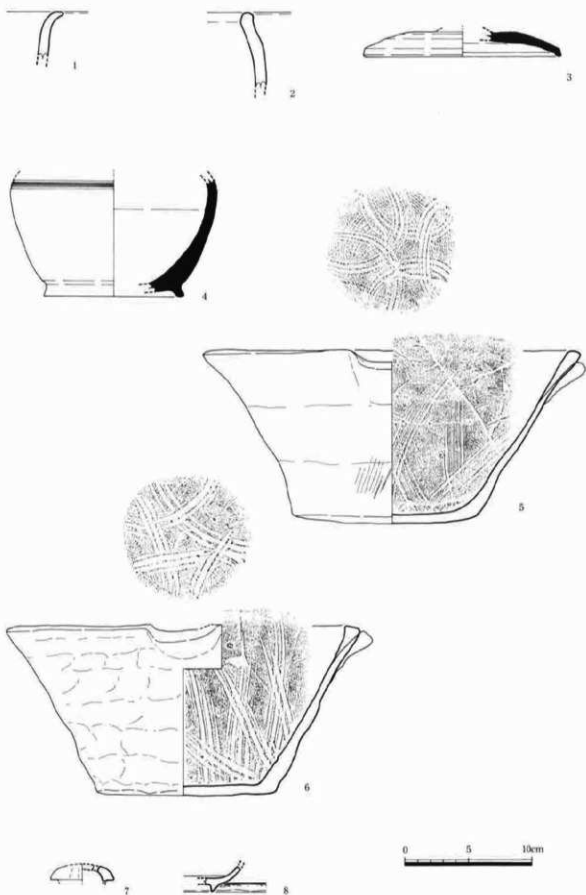


Fig.79 鶴田木屋ノ角遺跡出土遺物実測図 (1/3)

NO.	遺跡名	主な検出遺構	主な出土遺物	調査面積	調査年度	備考
1	鶴田木屋ノ角遺跡 (第1次調査)	古代官道	須恵器・土師器	1,400m ²	平成10年度	「林家」? 墨書土器
2	鶴田平ノ池遺跡 (第2次調査)	溝	なし	1,327m ²	平成10年度	
3	鶴田中市ノ塚遺跡 (第1次調査)	古代官道	土師器	2,600m ²	平成5年度	
4	鶴田中市ノ塚遺跡 (第3次調査)	古代官道	土師器	1,000m ²	平成7年度	「□部為?」 「東」 墨書土器
5	山ノ井川口遺跡 (第1次調査)	古代官道	須恵器・土師器	1,400m ²	平成10年度	「祝」 陶書土器
6	引大塚中遺跡 (第2次調査)	竪立柱建物・ 竪穴式住居	須恵器・土師器	1,400m ²	平成8年度	
7	前津中ノ玉遺跡 (第1次調査)	竪穴式住居・ 竪立柱建物	須恵器・土師器	1,600m ²	昭和60年度	
8	前津中ノ玉遺跡 (第2次調査)	竪穴式住居・ 竪立柱建物	須恵器・土師器	1,383m ²	平成9年度	
9	若菜森崎遺跡 (第1次調査)	竪穴式住居・ 竪立柱建物	須恵器・土師器・ 輪軸陶器	12,000m ²	平成4年度	

Tab.13 筑後市内西海道関連遺跡

型の竪立柱建物確認され、大量の墨書土器が出土している。大半は「東」の字が書かれているが、須恵器の坏体部に「□部為?」と思われる墨書も確認している。

今回の調査でも墨書土器が1点出土している。この墨書土器は官道の側溝と考えられる遺構から出土した、須恵器の坏蓋である。宝珠つまみをもつタイプである。体部上面の篋削りが施されないところから、8C中頃から後半の年代が与えられると思われる。墨書は、不鮮明ながら「林家」ではないかと思われる。この墨書の示す意味は現状では判然としなが、律令期に「林」姓の存在は知られており、そのあたりがひとつの可能性を示唆しているのではないだろうか。また、「家」は役所等の意味を持つことから、「林」氏が管理する役所的なものの存在を考えることも可能である。いずれにしても現在は推測の域を出ない。

なお、今回の報告にあたり、墨書の判読については太宰府市文化ふれあい館・太宰府市教育委員会・太宰府市市史編纂室の協力を得た。末筆ではあるが、記して謝意を表したい。

註

- 1 木下良 「車路考」藤岡謙二郎退官記念論集 1978

Tab.14 鶴田木屋ノ角・牛ヶ池2次調査遺物観察表

No.	遺構番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	図No	
1	1SD01		土師	壺				口縁部 断片	不明	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	外反		1	
2	1SD01		土師	壺				口縁部 断片	不明	不明	不明			明褐色	赤色粒点多	不良	緩く外反		2	
3	1SD01	D1	須恵	坏蓋	158		1/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ				淡青灰色	ほぼ精良	ほぼ良	肩部に中央 リあり	上面に「林家」の 墨書あり 転写図	8	
4	1SD01		須恵	壺	11.0		体高 1/4	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡青灰色	精良 黒色粒子含	良		肩部に北縁とカキ 目をのてらす	3	
5	1SK02		瓦貫	ナリ鉢	30.0	14.5	13.7	口縁1/2 欠損	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	横い 細毛目	暗黒褐色	上部精良 底部細砂粒多	やや良		直線的にひ らく 口付	ナリ目は曲線を多 用したもの	4
6	1SK03		瓦貫	ナリ鉢	28.0	14.0	13.5	上部2/3 欠損	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	未調整 細毛目	暗黒灰色	上部精良 底部細砂粒多	やや良		ナリ目は曲線を多 用したもの	5	
7	1SK03		白磁	合子	3.0			1/3	輪軸	輪軸	輪軸			乳白色	精良	良好		体部に穿孔有	7	
8	1SK03		赤付	煎				底唇断片	輪軸	輪軸	輪軸	輪軸	輪軸	乳白色	精良	良好		内底見込みの図柄 は不明	6	

6. 鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査

(1) はじめに

当遺跡は、筑後市大字鶴田字牛ヶ池に所在し、標高11.0m位の中段丘陵上にある。調査は、平成10年度に施工された果実市場整備事業筑後東部地区12工区内において、遺構が掘削・削平を受ける約420㎡を実施した。調査期間は平成11年2月17日から同年3月31日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は小林勇作が担当し、高田知恵の協力を得た。

調査の結果、調査区からはピット等を検出し、以下はその成果について報告する。

(2) 検出遺構

ピット群

調査区のはほぼ全面から、円形及び楕円形状のピットが多数確認された。ピットの殆どは黒褐色土の埋土で、深さは10cm未満と浅いものであった。遺構としての可能性は低く、遺構面の凹部に堆積した痕跡、若しくは植物等による根痕と考えられる。遺物はSP1及びSP2から縄文土器片を1点づつ出土している。

(3) 出土遺物

3SP1 (Fig.80)

縄文土器

鉢 (1) 口縁部の細片で、口縁部は大きく外反する。外面には粗大楕円の押型文、内面及び口縁端部には原体による条痕文を施文する。胎土は雲母、角閃石を少量含む。

(4) 小結

調査区からは主要と思われる遺構は確認されておらず、遺物は縄文土器片を僅かに認めただけである。

本来、調査の成果を記すところであるが、同事業である「鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査」の(4)小結で触れることとした。



Fig.80 3SP1出土器実測図 (1/3)

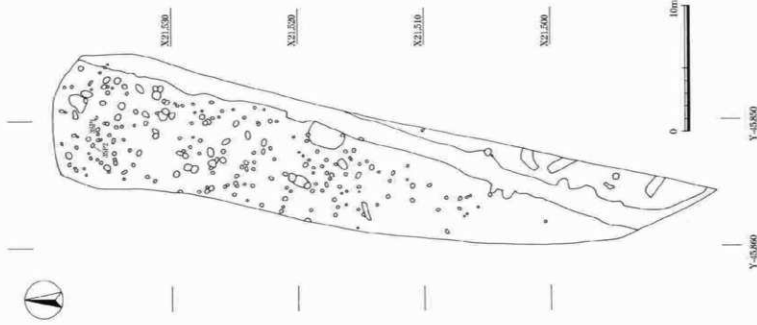


Fig.81 鶴田牛ヶ池遺跡 (第3次調査) 遺構全体実測図 (1/300)

7. 鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査

(1) はじめに

当遺跡は、筑後市大字鶴田字牛ヶ池に所在し、標高11~12m位の中段丘上にある。調査は、平成10年度に施工された県営ほ場整備事業筑後東部地区12工区内において、遺構が掘削・削平を受ける2,791㎡を実施した。調査期間は平成11年2月17日から同年3月31日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。なお、遺構全体実測図は(株)写測エンジニアリング、空中写真は(有)写真企画に委託した。調査は小林勇作が担当し、高田知恵の協力を得た。

調査の結果、調査区からは竪穴式住居、甕棺墓、溝、土壇等を検出し、以下はその成果について報告する。

(2) 検出遺構

竪穴式住居

4SI20

調査区のほぼ中央の南部で確認した。住居の南西側は現代のカクランを受けており、平面プランは不明であるが、隅丸形状を呈するものと思われる。北東壁長は3.70mを測り、深さは0.10mと遺存状態が非常に悪いものであった。床面上までの埋土は黒色土が堆積し、住居の底部には黒色土と茶色土の混合土(やや締まった埋土)で貼床を施していた。住居の方位はN-52°-Wを示す。住居内からは南東部と北西部の壁に近い部分から2基の屋内土壇を検出した。南東部の屋内土壇は楕円形状の平面プランを呈し、深さは床面から0.36mを測る。出土遺物はない。一方、北西部の屋内土壇は隅丸形状の平面プランを呈し、土壇内からは土師器(甕)が出土した。土師器(甕)は土壇の中心から出土し、上層部は黒色土、下層部は淡茶灰色粘土が堆積していた。深さは床面から0.46mを測る。

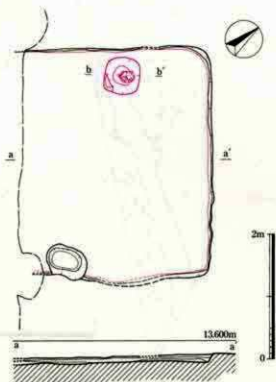


Fig.82 4SI20実測図 (1/40)

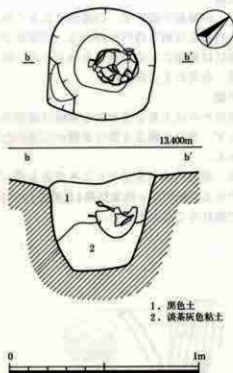


Fig.83 4SI20屋内土壇実測図 (1/20)



Fig.84 鶴田牛ヶ池遺跡遺構全体実測図 (1/300)

甕棺墓

4ST10

調査区の北東部で検出した。遺構は現代のカクランを著しく受けており、検出時には平面プランを確認することができなかった。しかし、カクラン土を徐々に除去していくと甕が上位からの圧力によって押しつぶされたかのような状態で確認され、平面プランを抑えることができた。接口式の成人棺と思われ、口縁の合わせ口には灰色粘土の目張りを実施している。甕棺の主軸はN・83°・Eを示し、埋置角度は+2°30'である。甕棺内からの出土遺物はなかった。

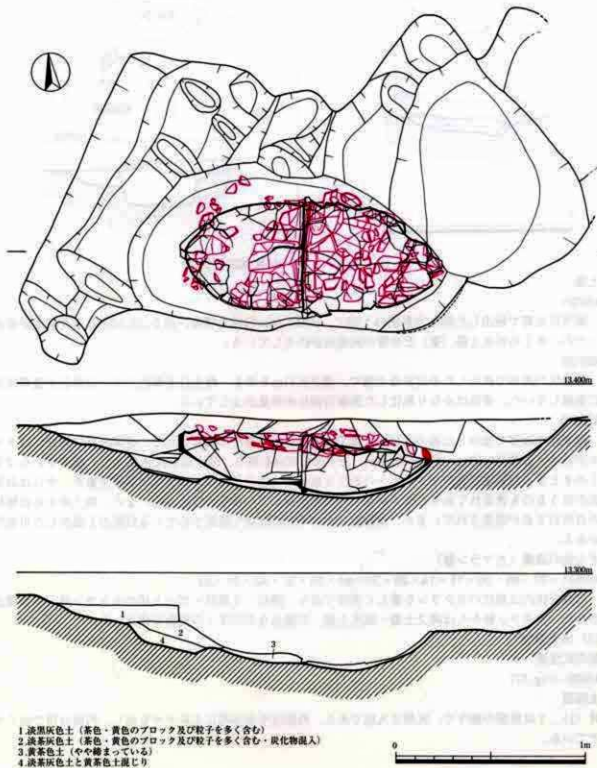


Fig.85 4ST10実測図 (1/20)

4SK21

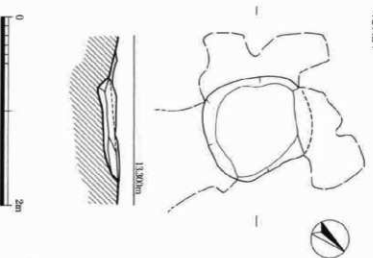
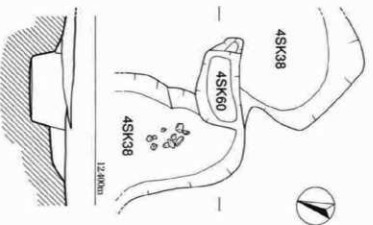


Fig.86 4SK21・38・60実測図(1/40)



土壌

4SK21 調査区北部で検出した隅丸方形形状の土壌で、径は1.00m前後を測る。深さは0.15mと遺存状態が悪かったが、多くの弥生土器(甕)と少量の河原石が出土している。

4SK38

調査区の西部で検出した不定形な土壌で、深さ0.11mを測る。埋土は茶褐色土で、自然石が遺構底部に集積していた。遺物はかなり風化した黒曜石剥片が多量出土している。

4SK60

調査区の西部で検出した長方形形状の土壌で、4SK38の下端から確認された。遺構内部の西側にはテラスがあり、長軸は0.95m、短軸は0.46m、深さは0.37mを測る。埋土は淡灰色粘土で、埋土中からは多くのまとまった黒曜石及びサヌカイトの剥片を認めた。出土した剥片は全部で30点を数え、中には剥離面の合うものも含まれており、全体的な風化が進んでいるものであった。また、埋土中からは棒状の自然石2点が確認されているが、遺物取り上げ時には4SK38で確認されている自然石と混在した可能性がある。

その他の遺構(カクラン跡)

4SX01・02・05・06・11・14・26・28・32~34・36・37・42・51・53

当調査区内は現代のカクランを着しく受けており、溝状・土壇状・ピット状のカクラン跡が多数確認された。カクラン跡からは縄文土器・弥生土器・石製品などの多くの遺物が出土した。

(3) 出土遺物

竪穴式住居

4SI20 (Fig.87)

土師器

跡(1) 1は底部の細片で、底部は丸底である。外面は不定方向に工具チズを施し、内面は指で強くナデている。

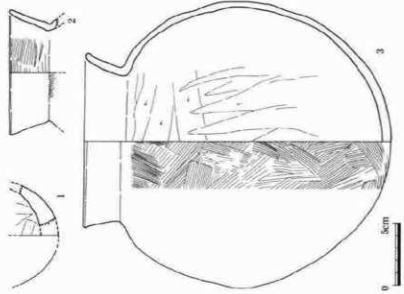


Fig.87 4S120出土土器実測図 (1/3)

堯 (2・3) 2は「く」字形口縁堯の口縁部細片で、口径10.0cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、口縁部内面及び体部外面は刷毛目の調整を施す。3は屋内土葬から出土した土器で、「く」字形口縁堯のはほぼ完形品である。体部が張るタイプで、口径13.9cm、器高24.7cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部及び底部の内面はヘラケズリ、底部外面はナデの調整を施す。堯の体部内面下位から底部にかけて、更に体部外面中位から口縁部にかけては、堯が厚く付着しているのが看取される。

壺形墓

4ST10

弥生土器

上堯 (4) はほぼ完形品で口径は48.5cm、底径は8.6cm、器高は63.5cm、器壁は8mm前後を測る。

口縁部に粘土帯を貼り付けたもので、口縁部外面には1条の沈線と沈線上位及び下位にはランダムに刻み目を施している。また、口縁部外面のすぐ下位と体部外面のはほぼ中位には3条の沈線を施す。内外面ともナデ調整を行っている。

下堯 (5) はほぼ完形品で、口径54.0cm、底径9.7cm、器高75.0cm、器壁8mm前後を測る。口縁部に粘土帯を貼り付けたもので、口縁部外面には1条の沈線を施す。体部外面のはほぼ中位には断面が三角形状の貼付突帯を施し、外面は工具によるナデ、内面はヘラミガキの調整を行っている。

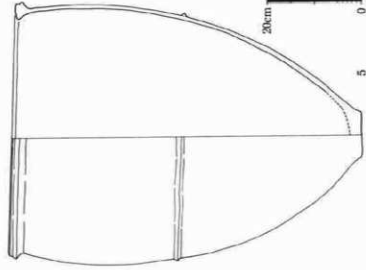
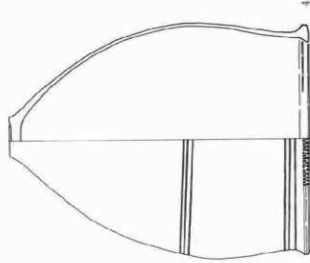


Fig.88 4ST10出土土器実測図 (1/8)

土壙

4SK21

弥生土器

甕 (6~9) 6は口縁部に断面が三角状の貼付け突帯を施した甕で、口径は22.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。胎土は1~2mm程度の砂粒を多く含む。7は口縁部に断面が三角状の貼付け突帯を施した甕で、口径は24.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目の後浅い沈線を施し、体部内面はナデの調整である。胎土は1mm程度の砂粒を含む。8は底部の破片で、底径7.5cmを測る。底部は厚く、やや「ハ」字形状に開き、底面の窪みは浅い。9は底部のみの細片で、底径は6.2cmを測る。底部は厚く、底面の窪みはやや浅い。

4SK60

石器

使用剥片 (25) 石材は黒曜石製で、縦長の剥片を利用している。ポジティブな裏面右側部には自然面を残しており、表面の右縁を使用しているものと思われる。

その他の出土遺物 (カクラン跡及び表採)

4SX01・02・05・06・11・14・26・32~34・36・37・42・51・53、表採

前項の (2) 検出遺構でも述べたが、当調査区内は著しく現代のカクランを受けた跡が確認され、カクラン跡からは多くの遺物が出土した。ここでは、カクラン跡及び表採から出土した遺物の中で図示できるものについて報告する。

縄文土器

深鉢 (10~18) 10~15は楕円押型土器の細片である。10は外面及び内面上位に同一原体による小さな楕円文を横走施文し、内面下位はナデ調整を施す。11・12は外面及び内面上位に同一原体による粗大楕円文を施文し、内面下位はナデ調整を施す。施文の方向は不明である。11の外面には煤が付着している。13~15は外面及び内面上位に同一原体による粗大押型文を施文し、内面はナデ調整を施す。施文の方向は不明である。16は山形押型土器の口縁部細片で、口縁部外面には原体による条痕文、口縁部外面下位及び体部内面には同一原体による山形文を施文する。体部外面及び口縁部はナデの調整を施し、口径は26.0cmを復原する。17・18は外面に微隆起線文を施文した細片で、内面はナデの調整である。18の外面には煤が付着している。10は4SX02、11は4SX42、12は4SX11、13は4SX01、14は4SX26、15は4SX51、16は表採、17は4SX14、18は4SX05の出土である。

弥生土器

鉢 (19) 4SX37から出土した口縁部の細片である。

甕 (20~23) 20・21は口縁端部に突帯を貼り付けたもので、21は4SX14、22は4SX36から出土した口縁部の細片である。23は4SX36、24は4SX53から出土した底部の細片で、共に底部外面に窪みを呈するタイプである。底径は23が6.6cm、24が6.2cmを測る。

土師器

高坏 (24) 脚部の細片で、脚部底径は12.0cmを復原する。4SX53から出土した。

石器

ナイフ形石器 (26) 4SX06から出土した。石材はサヌカイト製で、表面の左上辺には細かく刃部を作り出している。表面の右上辺及び左下辺に細かく平坦面の整形加工を施す。

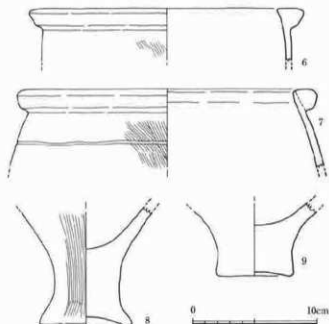


Fig.89 4SK21出土土器実測図 (1/3)

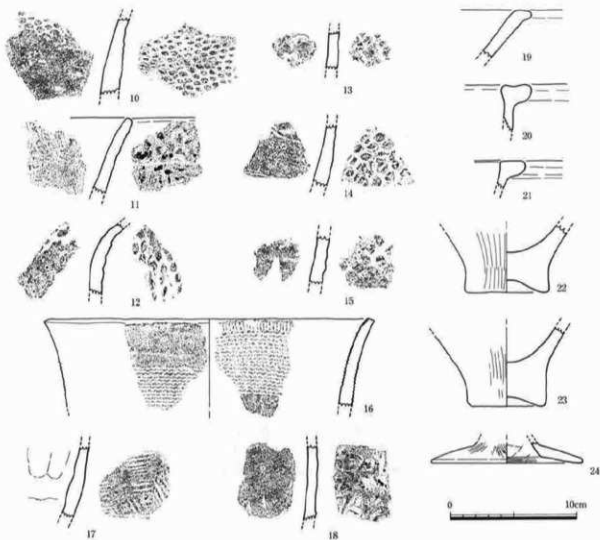


Fig.90 その他の出土土器実測図 (1/3)

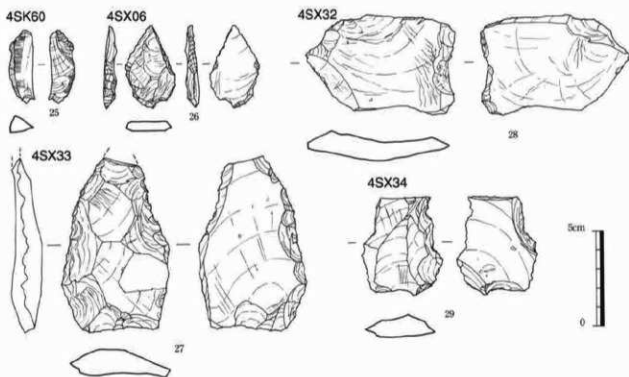


Fig.91 石器実測図 (1/2)

石棺 (27) 4SX33から出土した。石材はサヌカイト製で、尖頭部を欠損する。角礫ないしは重角礫から剥離された副片を素材としたものと思われ、表面のほぼ全体には調整加工を施し、表面左縁には刃部を作り出している。副作途中の未製品と思われ、表面には大割離面を大きく残す。

二次加工石器 (28・29) 共にサヌカイトを石材とし、風化が進んでいる。28は五角形状の副片を素材とした加工石器で、表面左下辺に若干の二次加工を施し、刃部を作り出し出している。4SX32からの出土である。29は縦長状の副片を素材とし、表面左下辺に打面を残す。裏面下縁に若干の二次加工を施し、刃部を作り出す。4SX34から出土した。

(4) 小竈

当調査区からは旧石器～古墳時代にかけたの遺構や遺物が確認された。

ここでは、当調査区南側に位置する「鶴田半ヶ池遺跡第3次調査」の成果とあわせて各時代について概観することとする。(遺構番号の頭に記載している番号は次数を示す。)

旧石器時代

市内で確認されている旧石器は、磯敷遺跡跡地点(大字磯敷字坂口)で出土した角礫状石器、鶴田東大坪遺跡第1次調査(大字鶴田字東大坪)から出土したナイフ形石器の種か2点である。何れも明確な遺構や包含層からの出土ではなく、周辺地域においても市ノ上北屋敷遺跡(久留米市)、大草平遺跡(星野村)などで僅かに例があるにすぎない。

さて、今回出土した旧石器は、4SK60から多量に出土した黒曜石及びサヌカイトの副片と使用副片(25)、4SX06から出土したナイフ形石器(26)、4SX34から出土した二次加工石器(29)で、先述した例に次ぐものとなった。4SX06及び4SX34の旧石器はカクラン跡からの出土であるが、注目されるのは、4SK60出土の旧石器は淡灰色粘土中から出土しており、仮にこの地区における旧石器包含層が「淡灰色粘土層」だったとすると、今後旧石器の発見において有力な手がかりとなることであろう。

旧石器は、現時点ではほんの数例に止まっているが、整理作業が進むにつれて今後更に増加していくことであろう。

縄文時代

今回確認された縄文時代の遺構は3次・4次共に確認されておらず、出土した遺物は全てカクラン跡から出土したものである。出土遺物をみていくと、土器では楕円押内文土器・山形押内文土器・条痕文土器があり、既知の編年からは早水台式と田村式を含むもので、早中期後半期の良好な資料となった。また、石器では4SX33出土の石槍(27)、4SX32出土の二次加工石器(28)があり、土器と同様の時期が与えられるものと考えられる。

弥生時代

この時期における遺構は、薬箱墓である4ST10と土塚である4SK21である。

薬箱墓は1基のみの検出に止まり、薬箱内からの出土遺物はない。出土した薬箱は上巻、下巻共に楕円口の編年によるKⅡa式に相当し、中期前半頃に相当する。また、4SK21から出土している巻がらも当該期に比定されよう。

古墳時代

当該期の遺構は堅穴式住居4S120の1軒がある。

住居の南西側は残念ながら現代のカクランにあり、全体プランを確認することができなかつたが、一辺4m位の隅丸方形状の住居であったものと想定される。主柱穴並びに壁体溝は設けておらず、カマドは検出されていない。また、住居内からは2基の屋内土壇を確認しており、内1基からは時期を比定できる良好な資料を認めている。時期は4C後半～5C前半頃が考えられよう。

【参考文献】

- 富永直樹 「熊谷市史 第一巻」 熊谷市史編纂委員会 1997
- 栗田 剛 「筑後東国地区遺跡群Ⅲ」 筑後県教育委員会 2000
- 山崎隆男 「日本土器事典」 湯山園 1996
- 橋口達也 「九州縄文自動車道関係遺跡文化財調査報告31 中巻」 福岡県教育委員会 1979

IV. まとめ



Fig.92 筑後東部地区遺跡群 平成10年度鶴田地区調査分布図 (1/2500)

平成10年度に行なった東部地区遺跡群発掘調査で鶴田牛ヶ池地域では旧石器時代から近世まで幅広い時期の調査を行っている。

旧石器時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑥からナイフ型石器等、市内では2例のみであった旧石器遺物を出土することとなり、今後筑後市内での旧石器時代遺跡調査の手がかりとなる資料である。

縄文時代

鶴田東牛ヶ池遺跡1・2次調査①・②、鶴田牛ヶ池遺跡3次・4次調査⑤・⑥から縄文早期の土器を出土している。調査地は低地である市南部の中でも比較的標高の高い11m前後の台地上に形成される。市内縄文早期の遺跡も市南部に集中するが、その殆どは標高8m～9mの低地に展開しており、関連が注目される。

弥生時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑤で中期前半の埴輪壺を出土している。しかし、調査区からは1基しか検出されておらず、周辺での試掘調査でも確認されておらず、当該期の墓塚には問題が現れた。

鶴田西牛ヶ池遺跡③からは、後期の竪穴住居等の良好な資料を得られた。今後、周辺遺跡の出土例と比較検討が課題である。

古墳時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑥では4世紀後半から5世紀前半の竪穴住居を検出している。周辺には当該期の集落は単独で検出される例が多数を占め、今回の調査地は削平は受けているが同様である。また、鶴田東牛ヶ池遺跡2次調査②でも竪穴住居を検出している。

歴史時代

鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡2次④で推定官道跡の確認調査を行っている。しかし、調査地は東西が台地上になり谷部での検出例であるが、確認のみの為、路面構造の成果は同年調査している山ノ井川口遺跡に委ねる。しかし、溝出土の土器の中に須恵器の墨書土器を出土していることは重要な点である。

近世・近代・現代

鶴田西牛ヶ池遺跡③での出土遺物は豊富である。時期的には18世紀後半が中心になり幕末までの遺物が出土している。

以上が鶴田牛ヶ池地区周辺の調査実績を概略でまとめた。今後、これらの資料を生かすべく、新たな調査事例や調査実績の再検討、資料調査等の成果を期待するところである。

筑後東部地区遺跡群では平成5年度から県営ほ場整備事業として発掘調査を実施してきた。平成10年度までに40遺跡の調査を行い、数多くの成果を挙げた。しかし、「遺跡保存」の名の下に地権者や事業主には多大なご協力とご理解を頂いたことは感謝の意に堪えない。また、調査された遺跡によって筑後市の歴史を紐解く資料が蓄積され、その資料が文化財の保護、活用材料となれば幸いである。

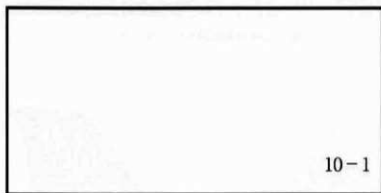
参考文献

- 註1.『筑後市史 第1巻』筑後市史編纂委員会 1997
- 註2.『筑後西部第2地区遺跡群(Ⅲ)』筑後市教育委員会 2000
- 註3.『筑後東部地区遺跡群Ⅲ』筑後市教育委員会 2000

PLATE

凡例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



Fig番号

遺物番号



溝口北新替遺跡調査区全景（東から）



5-1



5-2

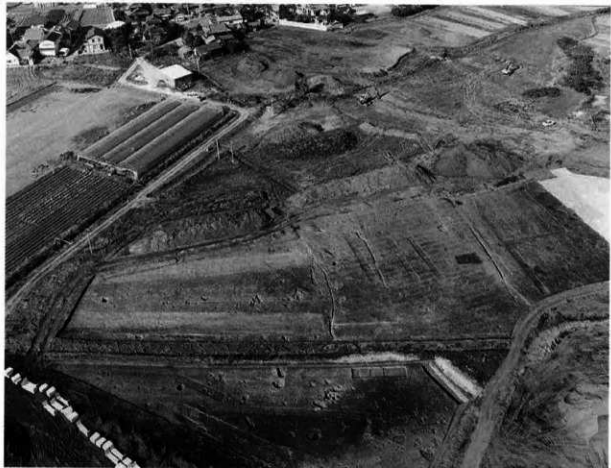
溝口北新替遺跡出土遺物



鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査全景（真上から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 SK001土層断面（南から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査全景（東から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査全景（真上から）



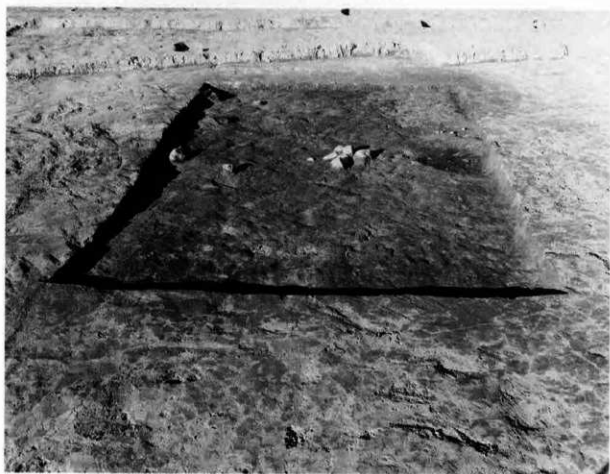
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SK005 (南西から)



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SK005完掘状況 (南西から)



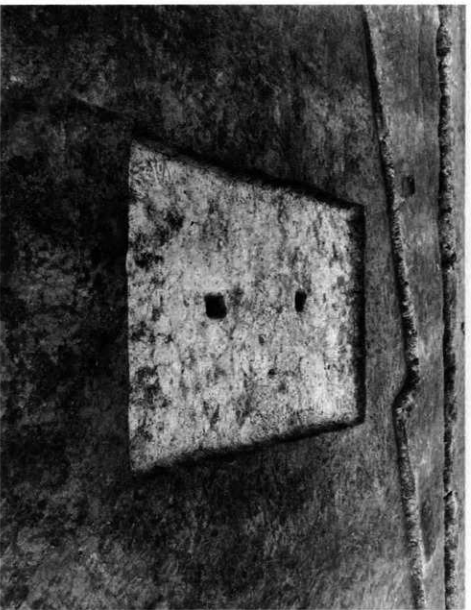
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SI010検出状況（南から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SI010床面検出状況（南から）



鶴田東生ヶ池遺跡第2次調査 SI010住居内土壇 (西から)



鶴田東生ヶ池遺跡第2次調査 SI010完掘状況 (南から)



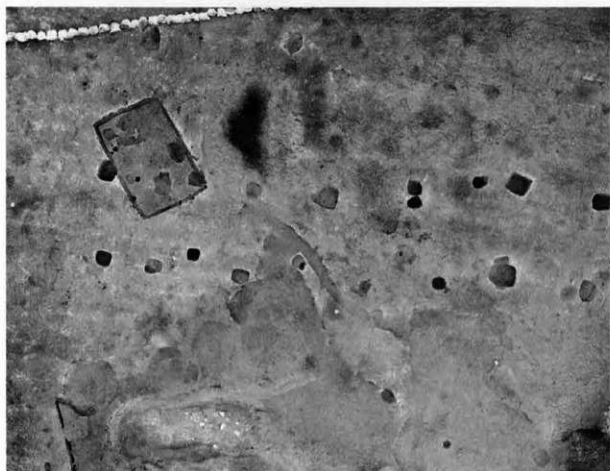
鶴田西牛ヶ池遺跡調査前全景（南東から）



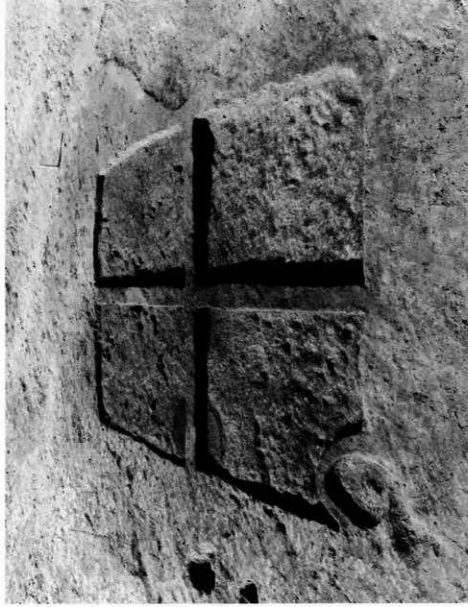
鶴田西牛ヶ池遺跡全景（真上から）



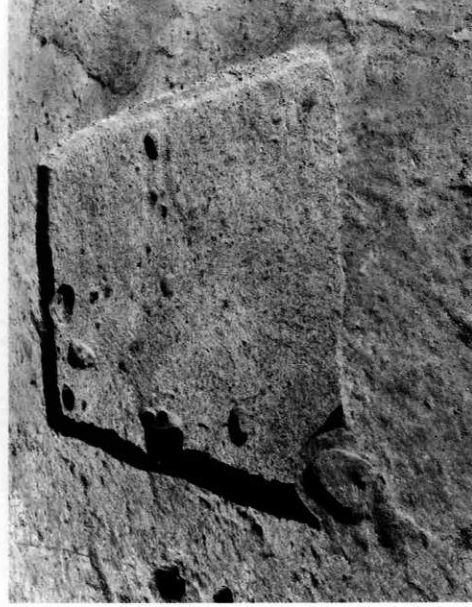
住居群完掘状況（真上から）



掘立柱建物群完掘状況（真上から）



SI001床面検出状況（東から）

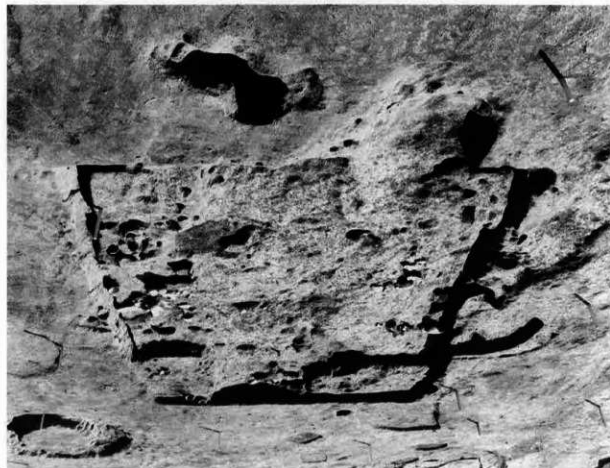


SI001完掘状況（東から）

S1010床面検出状況 (北から)



S1010床面・土器検出状況 (東から)





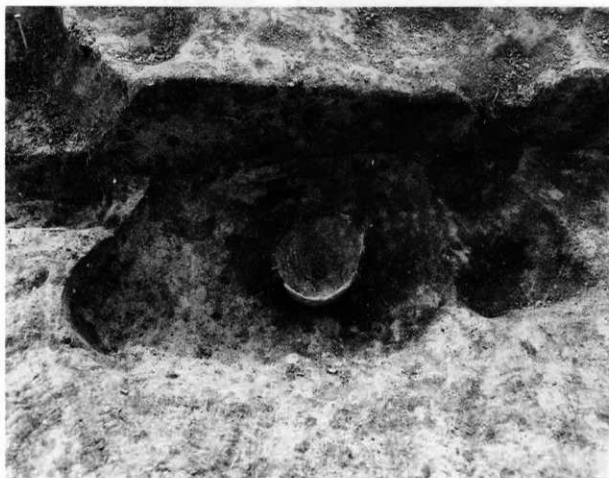
SI010土製支脚出土状況（北から）



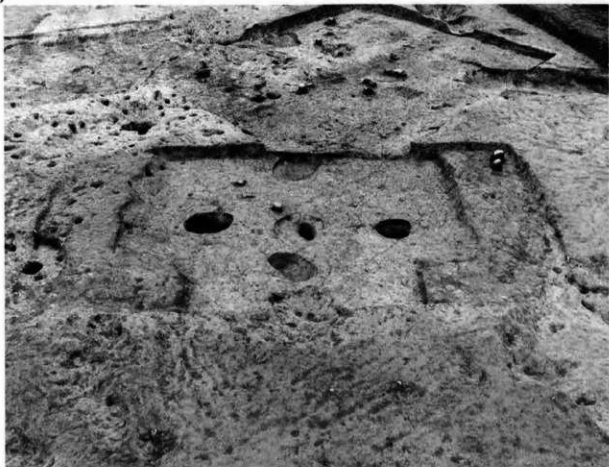
SI010土器出土状況（北から）



SI010住居内土壌土層断面（北から）



SI010住居内土壌発掘状況（北から）



SI025床面検出状況（北から）



SI025完掘状況（北から）



SI030完掘状況（北から）



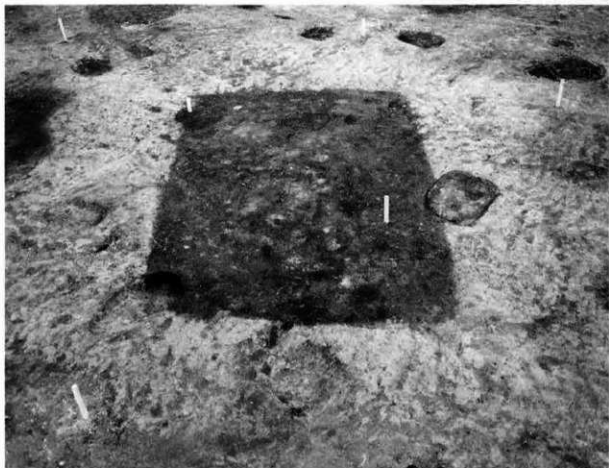
SI030柱穴完掘状況（北から）



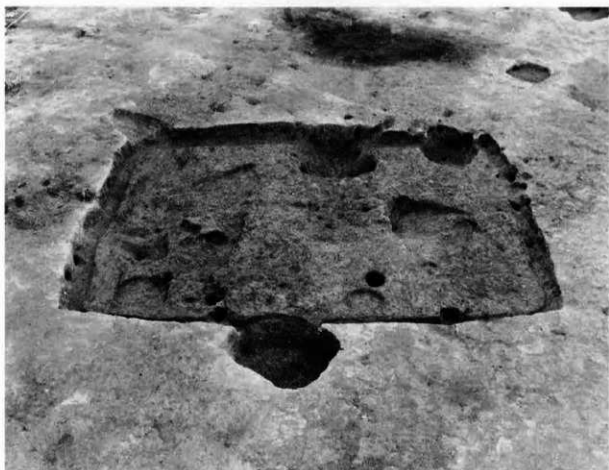
SI035床面完掘状況（東から）



SI035東南隅ベット完掘状況（東から）



SI050検出状況（東から）



SI050完掘状況（北から）

S1075床面検出状況 (東カ5)



S1070床面検出状況 (東カ5)





SI075完掘状況（東から）



SI080第1床面検出状況（東から）



SI080第2床面完掘状況（東から）



SI085床面検出状況（東から）



SI085完掘状況（東から）



SI095床面検出状況（北から）



SI095完掘状況（北から）



SI100床面検出状況（東から）



SI105検出状況（北東から）



SI105床面検出状況（北東から）



SI105空欄状況 (東カ5)



石罫出土状況 (北西カ5)



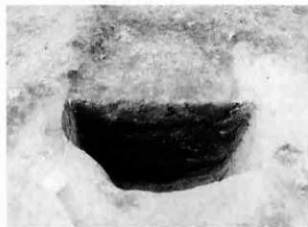
住居内土壙遺物検出状況 (東カ5)



SB040完掘状況（東北から）



SB040a土層断面（北東から）



SB040b土層断面（南西から）



SB040d土層断面（南西から）



SB040e土層断面（北から）



SB045完掘状況（南東から）



SB045a土層断面（東から）



SB045b土層断面（北から）



SB040c土層断面（南から）

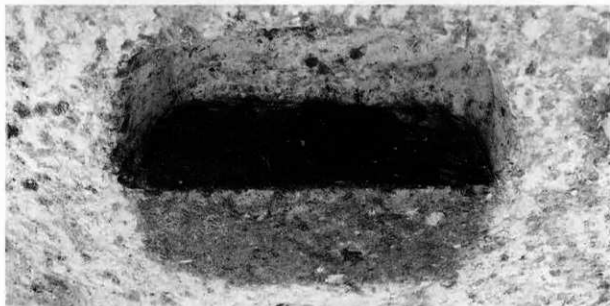


SB040d土層断面（北東から）

S1055d 土層断面 (西南から)



S1055c 土層断面 (西南から)



S1055e 完掘状況 (南東から)





SB065完掘状況（東から）



SB065a土層断面（南から）



SB065b土層断面（南から）



SB065c土層断面（南から）



SB065d土層断面（南から）



SI110a土層断面（東から）



SI110b土層断面（東から）



SI110d土層断面（東から）



SB120・125検出状況（北から）



SB120・125完掘状況（北から）



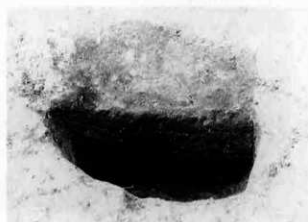
SB120a土層断面 (北から)



SB120b土層断面 (北から)



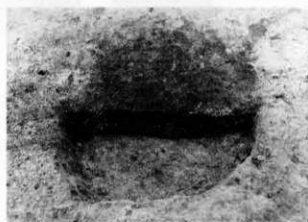
SB120c土層断面 (北から)



SB120d土層断面 (南から)



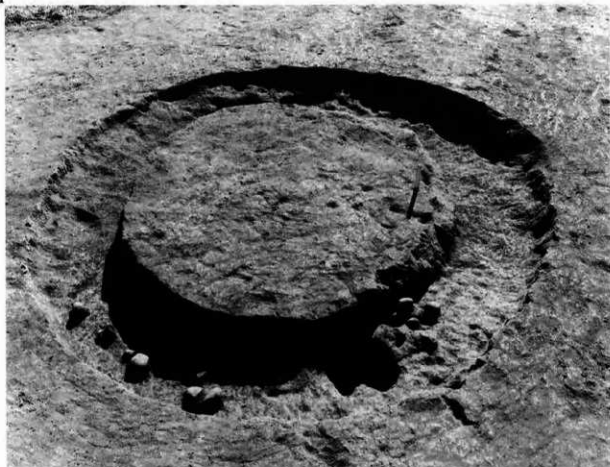
SB125a' 土層断面 (北から)



SB125c' 土層断面 (南から)



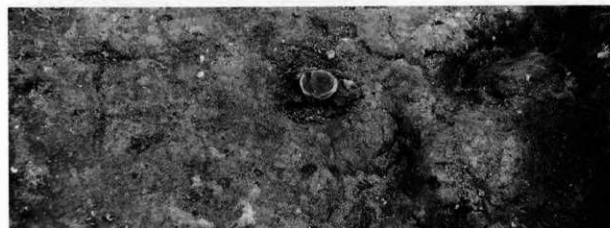
SB125d' 土層断面 (南から)



SX005完掘状況（北から）



SX005内ピット土層断面（北から）



SX005ミニチュア土器検出状況（南から）



SX020a-b土層断面 (東から)



SX020c-d土層断面 (南から)



SX020e-f土層断面 (東から)



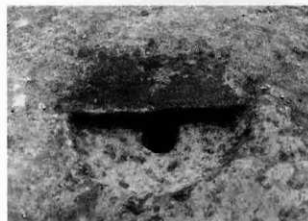
SX020g-h土層断面 (南から)



SK072土層断面 (西南から)



SK090土層断面 (東から)



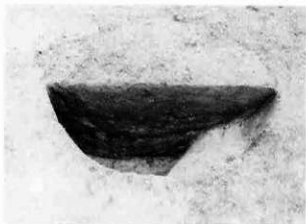
SX084土層断面 (東から)



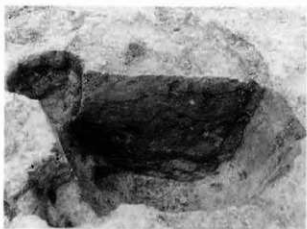
SX094土層断面 (南東から)



SX101土層断面 (西南から)



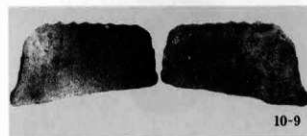
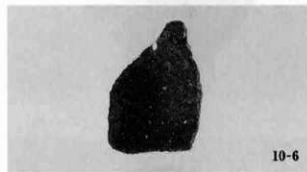
SX116土層断面 (北西から)



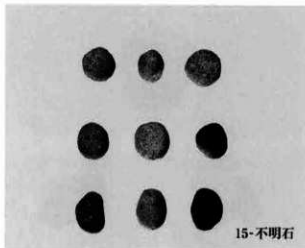
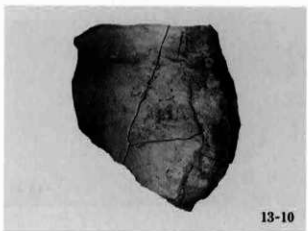
SX126土層断面 (東から)



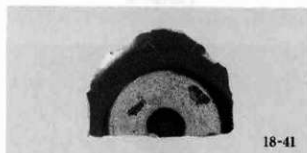
SX117遺物出土状況 (北から)

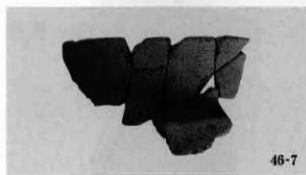
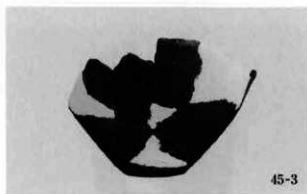
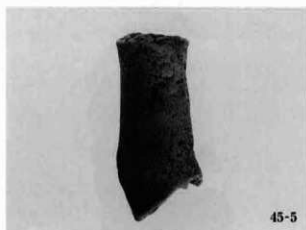
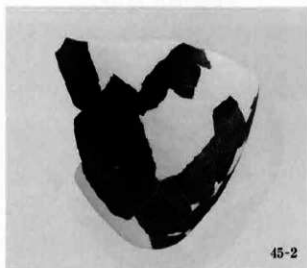
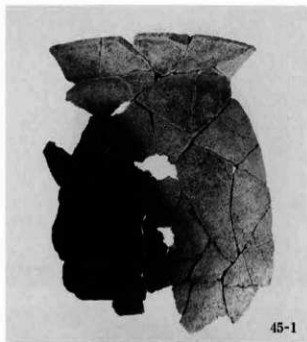


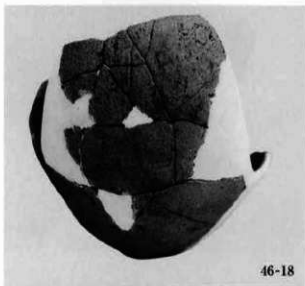
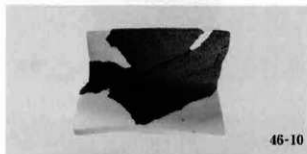
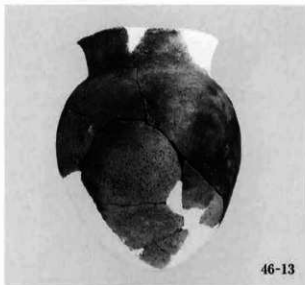
鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査出土遺物
 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査出土遺物

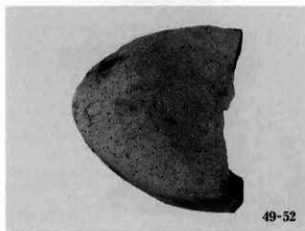
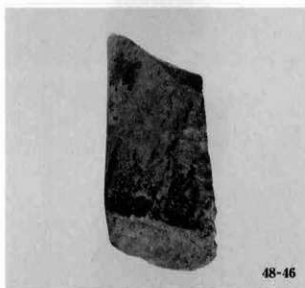
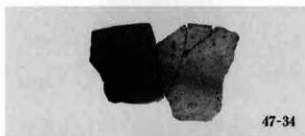


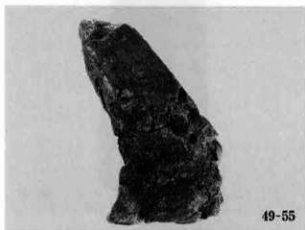


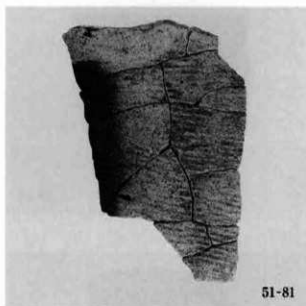
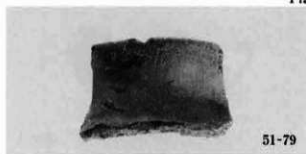


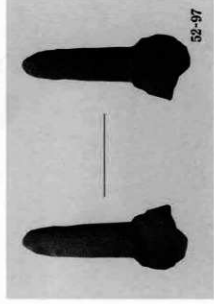
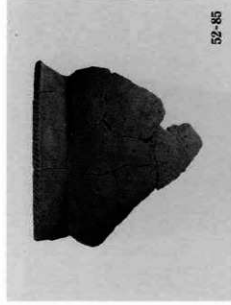


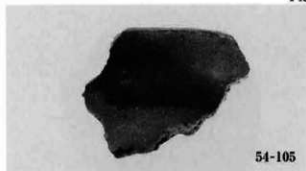


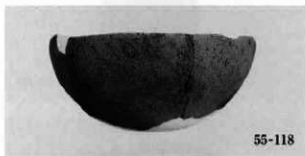
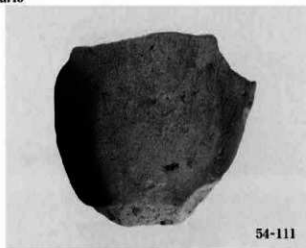


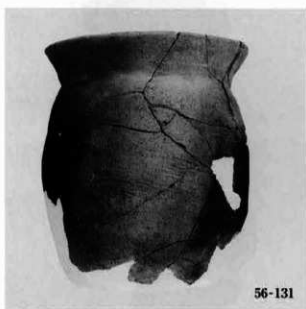
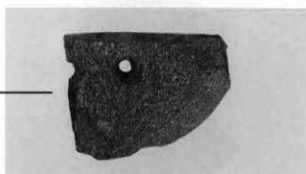
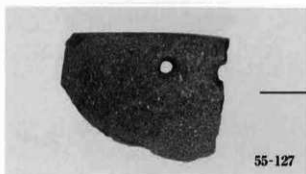
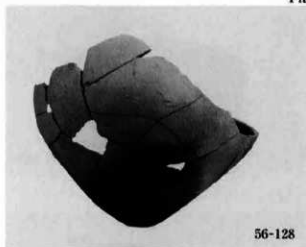
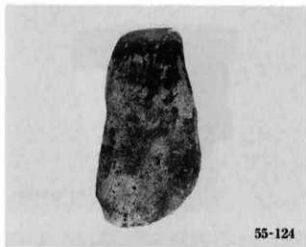


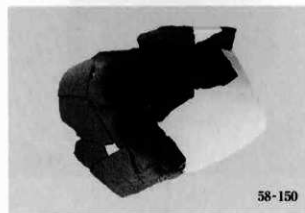
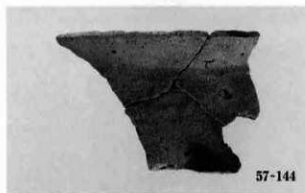
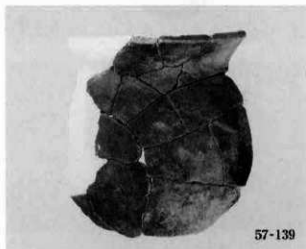


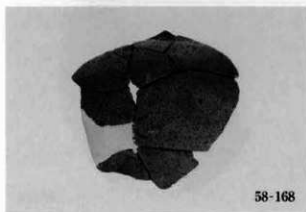
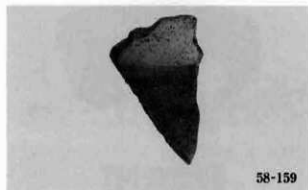
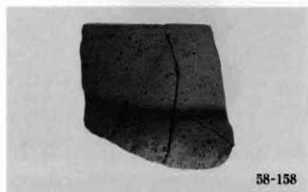
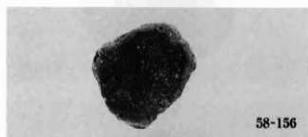


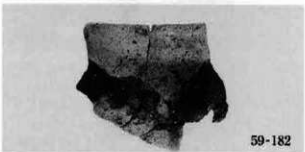
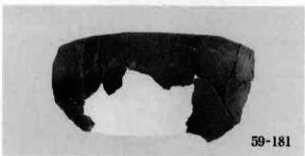
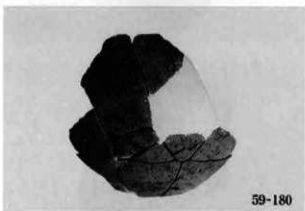
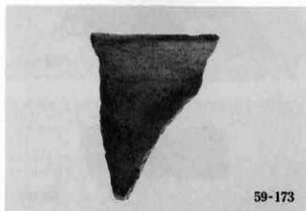


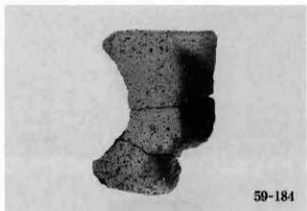


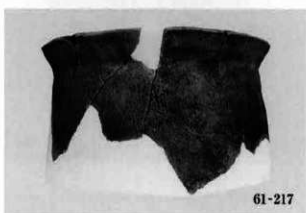
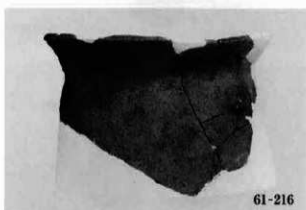
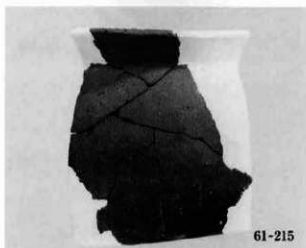


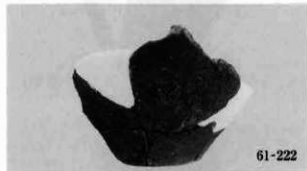
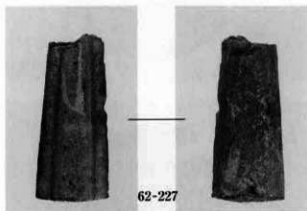
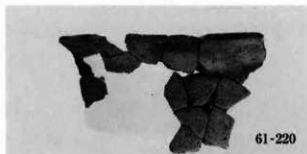
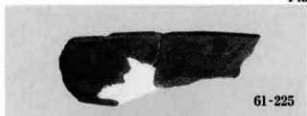














62-231



62-232



62-233



62-235



62-234



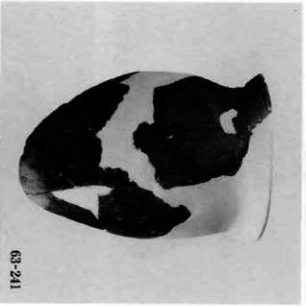
63-236



63-237



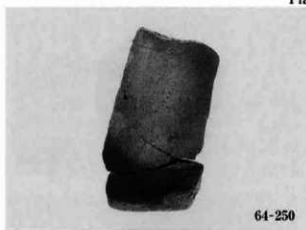
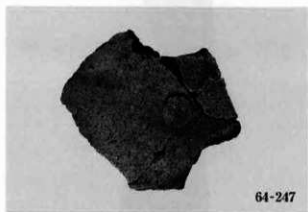
63-239



63-241



63-242





65-254



65-255



65-256



65-257



65-261



65-262



65-263



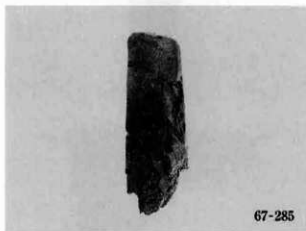
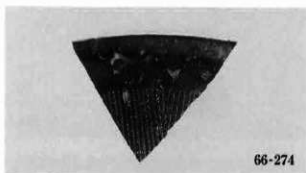
65-265

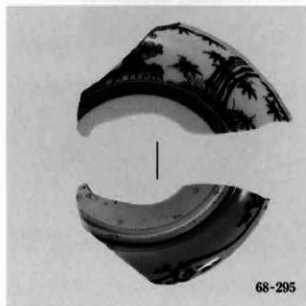
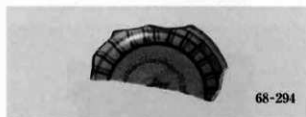
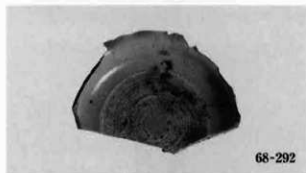
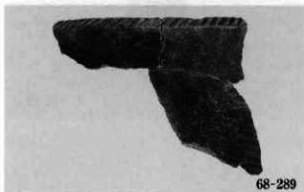
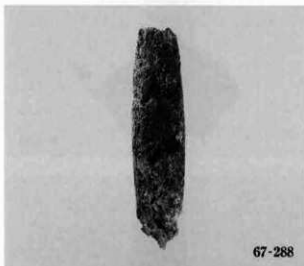
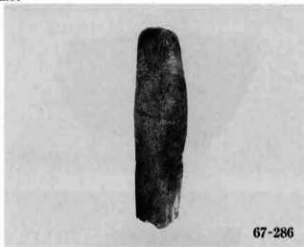


65-266



66-271



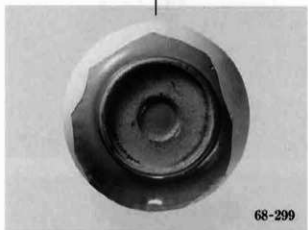




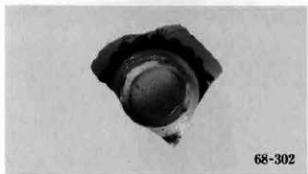
68-296



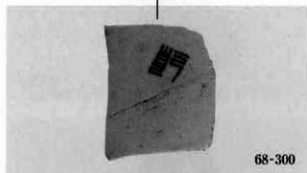
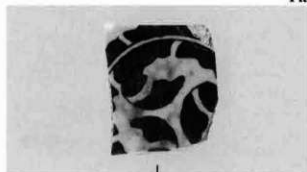
68-297



68-299



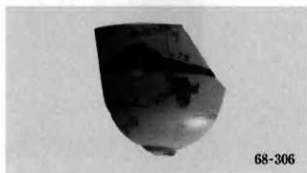
68-302



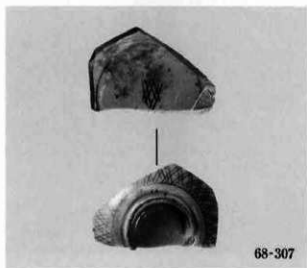
68-300



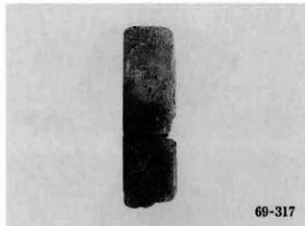
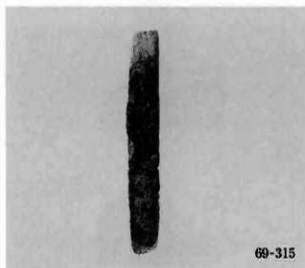
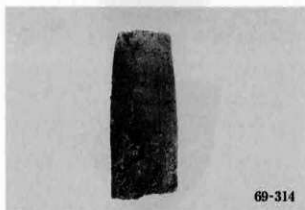
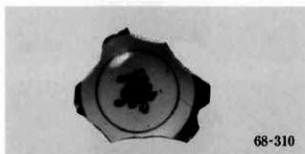
68-304



68-306



68-307





70-325



70-328



70-329



70-330



70-331



70-332



70-333



70-334



70-335



70-336



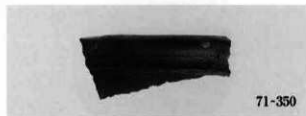
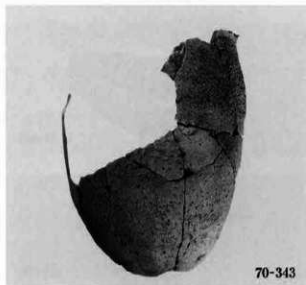
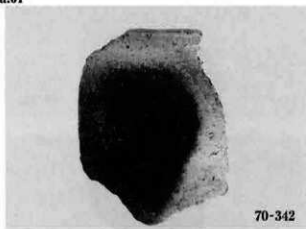
70-337

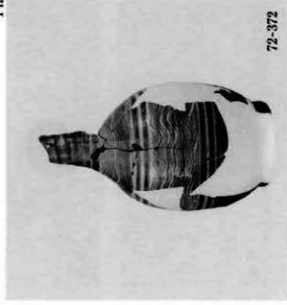


70-338



70-340







72-381



72-389



72-382



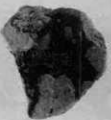
72-390



72-383



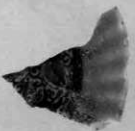
72-391



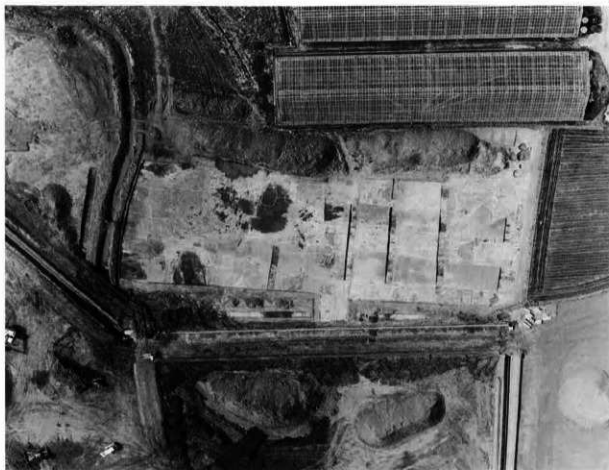
72-384



72-386



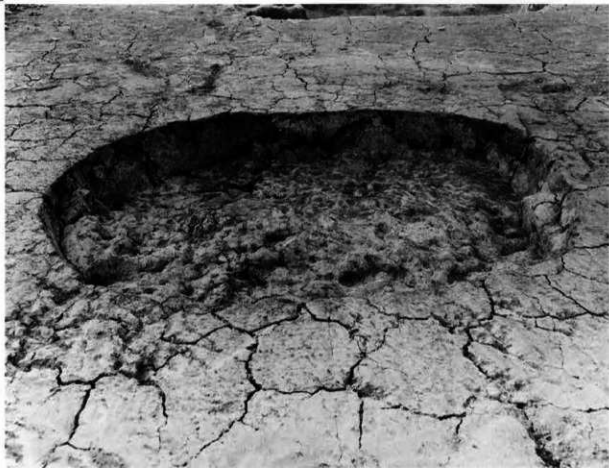
72-387



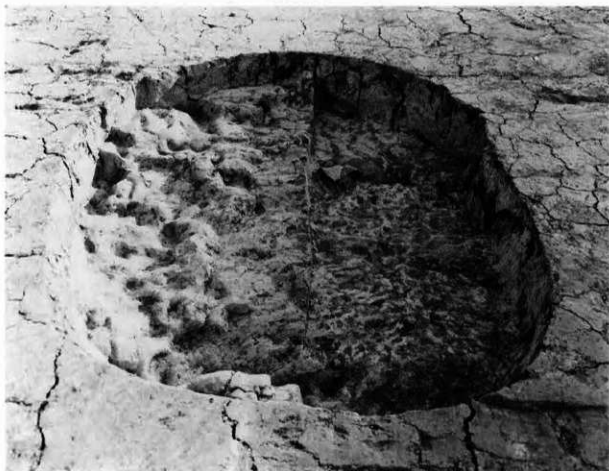
鶴田木屋ノ角遺跡調査区全景（上が西）



鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）調査区全景（上が西）



SK02 完掘 (東から)

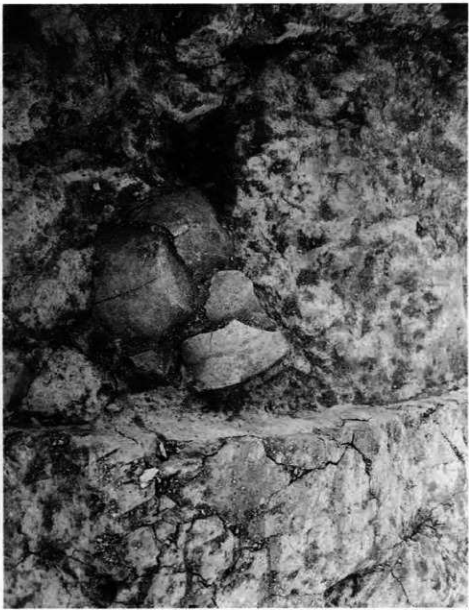


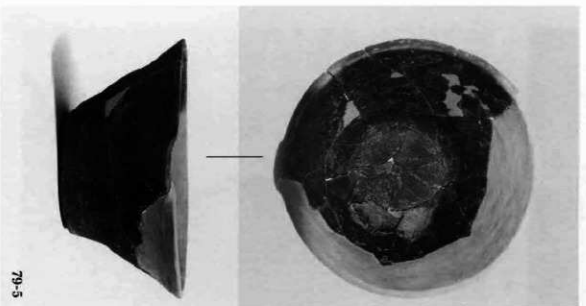
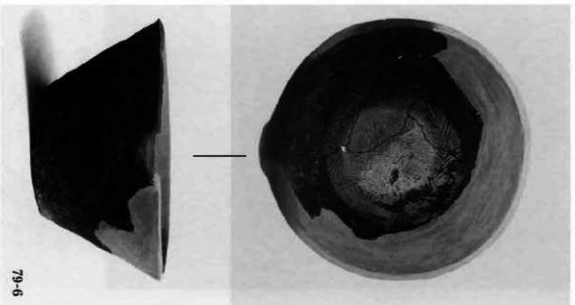
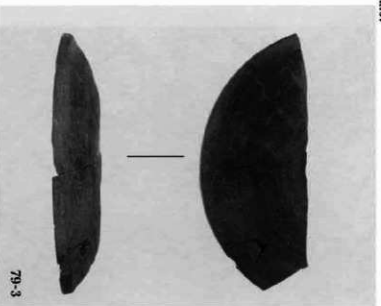
SK02 完掘 (北から)

SK03 空掘 (南カ5)



SK02 土器出土状況 (南カ5)







鶴田牛ヶ池遺跡（第3次調査）調査地区全景（空中写真：真上から）



鶴田牛ヶ池遺跡（第3次調査）出土遺物



鶴田牛ヶ池遺跡（第4次調査）遠景（空中写真：南から）



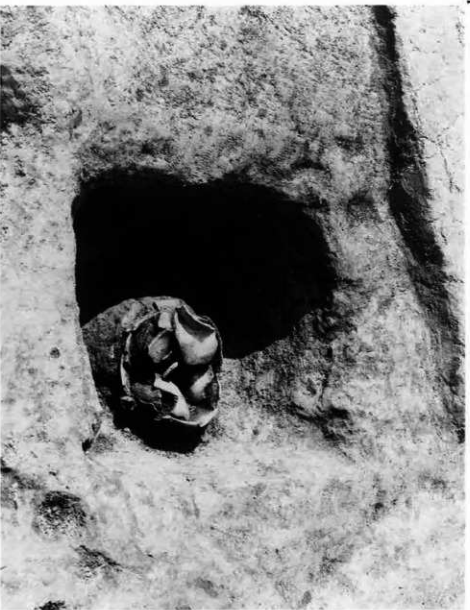
鶴田牛ヶ池遺跡（第4次調査）調査区全景（空中写真：真上から）



4SI20 床面検出状況 (南東から)



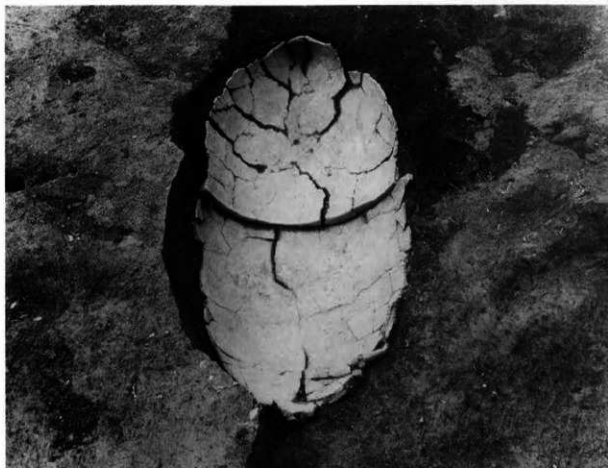
4SI20 完掘 (南東から)



AST10 屋内土藏遺物出土状況 (南東から)



AST10 壺棺墓出土状況 (東から)



4ST10 甕棺墓出土状況（東から）



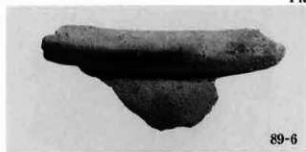
4ST10 完胴状況（東から）

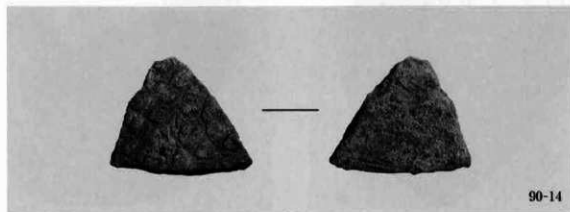
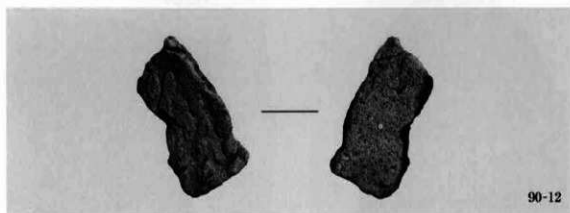
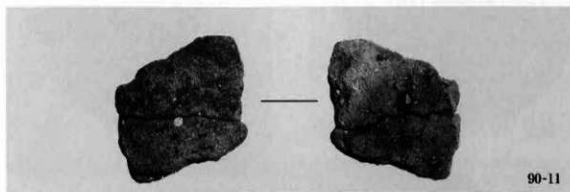
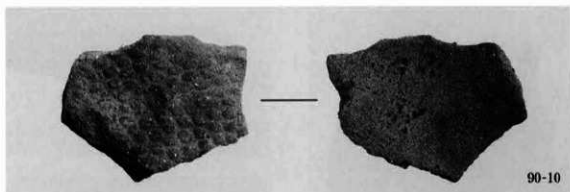


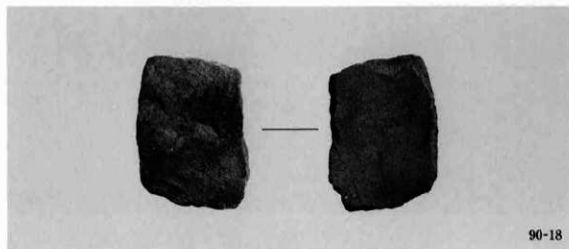
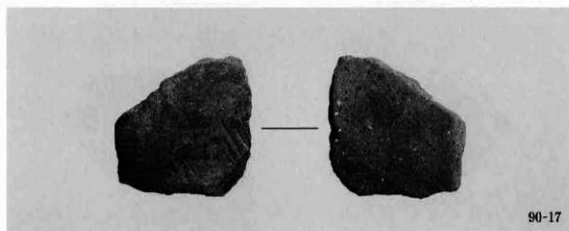
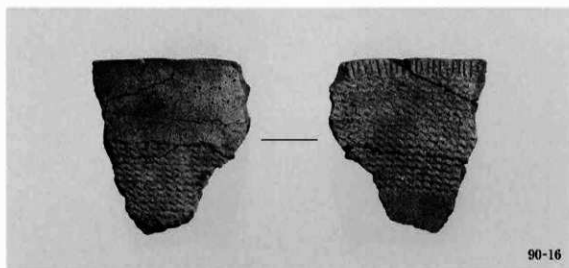
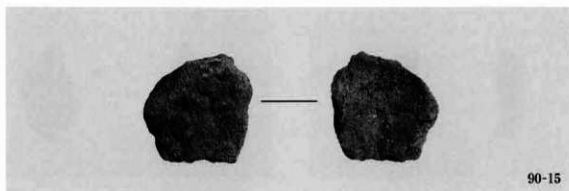
4SK21 完掘状況 (南から)

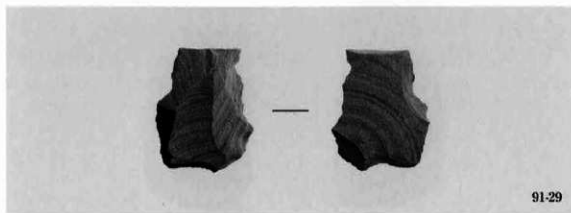
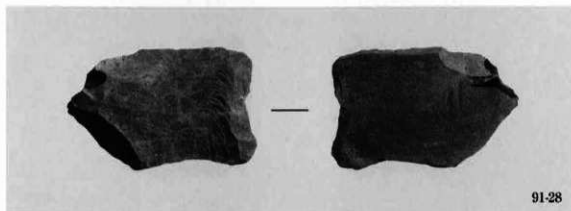
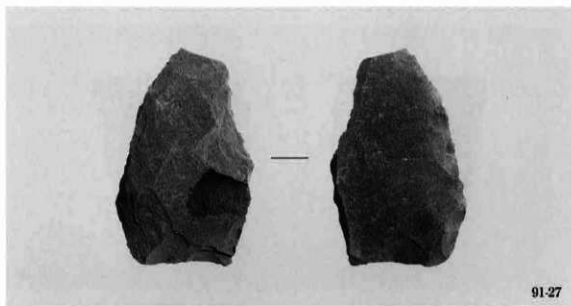
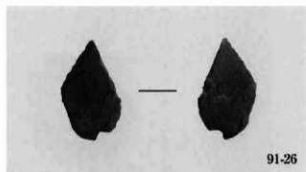
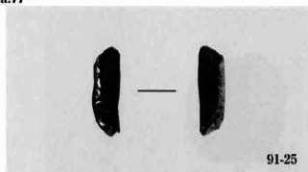


4SK38・60 完掘状況 (西から)









筑後東部地区遺跡群Ⅵ

筑後市文化財調査報告書
第36集

平成13年3月31日

発行 筑後市教育委員会
筑後市大字山ノ井898

印刷 瞬報社写真印刷株式会社
福岡市中央区天神5丁目4番16号城戸ビル3F
TEL. 092-712-2241